

---

高校生の喫煙，飲酒，薬物乱用の実態と  
生活習慣に関する全国調査 2004

---

報告書

兵庫教育大学  
教育・社会調査研究センター

2006

## はしがき

兵庫教育大学教育・社会調査研究センターは、国際化・情報化の時代に対応できる、世界的な教育のための学術研究拠点となるデータオーガニゼーションを構築・運営することを目的に平成17年に設立され、以下を主な事業内容としている。

- (1) 「教育・社会調査関連データ収集の機能」、「教育・社会調査データ解析・研究の機能」、「教育・社会調査データ公開の機能」の3つの機能を有する教育・社会調査データオーガニゼーションを構築する。
- (2) 学校教育のための実践的応用研究を実施する。
- (3) 教育に関連する研究テーマについてのワークショップ、講習・研修会、シンポジウムを開催し、問題解決のための具体的方策の提示をめざす共同研究を推進する。
- (4) 教育・社会調査のカリキュラム開発を行い、国内外の優秀な若手研究者を養成する。
- (5) 双方向の協働的教育実践ネットワークを構築・運営する。

本報告書は、兵庫教育大学教育・社会調査研究センターの上記(1)の事業に関連して、2004年(平成16年)に実施された「喫煙、飲酒、薬物乱用に関する全国高意思識・実態調査2004」のデータを分析し、まとめたものである。

「喫煙、飲酒、薬物乱用に関する全国高意思識・実態調査2004」は、科学研究費補助金による「学校における喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育とそのモニタリングに関する国際比較研究」(課題番号14380104)の一部として2004年(平成16年)11月~12月に実施された。調査に当たっては、文部科学省、都道府県教育委員会のご理解とご助力、全国の高等学校のご協力をいただいた。調査にご理解とご助力を賜った関係各機関、調査にご協力をいただいた高等学校、校長を始めとする関係各位、そして調査に参加いただいた高校生諸君に心より感謝申し上げます。

調査は、2年ごとに実施される我が国の青少年の喫煙、飲酒、薬物乱用に関する長期のモニタリングの一環であり、今年(2006年)第2回目の全国調査が計画されている。これらのデータが我が国における青少年の喫煙、飲酒、薬物乱用とその関連要因の研究、薬物問題の国際比較研究の基礎資料となるとともに、科学的根拠にもとづいた喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育(Evidence-based Health Education)プログラム開発とその評価に役立つことを願っている。

平成18年8月

兵庫教育大学教育・社会調査研究センター長  
勝野眞吾

# 高校生の喫煙、飲酒、薬物乱用の実態と生活習慣に関する全国調査2004

## 目次

### はじめに

#### 調査結果の概要

1. 喫煙
2. 飲酒
3. 薬物乱用
4. 飲酒と喫煙, 薬物乱用との関連性
5. 生活習慣

#### 基本方針及び対象と方法

#### 結果

1. 喫煙
2. 飲酒
3. 薬物乱用
  - 1) 有機溶剤 (シンナー等)
  - 2) 覚せい剤
  - 3) 大麻
  - 4) MDMA (エクスタシー)
  - 5) 何らかの薬物乱用 (1種類以上の薬物乱用)
  - 6) ドーピング
4. 飲酒と喫煙, 薬物乱用の関連性
5. 薬物入手 (有機溶剤、大麻、覚せい剤、MDMAの入手) しやすさ
6. 生活習慣・学校生活

#### 基礎資料

1. 各項目の学年, 性, 年齢別出現頻度 (図)
2. 各項目の学年, 性, 年齢別出現頻度 (表)
3. 調査票

## はじめに

今日、薬物乱用の問題は世界各国におよび現代社会が解決すべき共通の課題となっている。国連薬物と犯罪対策局（United Nations Office on Drug and Crime）は、World Drug Report 2004 において世界の各国が厳しい薬物乱用防止対策を行ったにもかかわらず、世界の薬物乱用は 2000 年代に入って 1990 年代後半よりむしろ拡大・増加し、世界人口の 4.7%、1 億 8500 万人が薬物乱用を行っている」と報告し、薬物乱用問題解決のための国際的な連携と薬物乱用防止対策の一層の強化を呼びかけている。

我が国においても、1990 年代後半から第 3 次覚せい剤乱用期と呼ばれる薬物乱用の流行が起こり、中学生・高校生などの若年層や女性など、従来薬物汚染の少なかった層にまで薬物乱用が浸透した。政府は 1997 年（平成 9 年）、内閣総理大臣を長とする「薬物乱用対策推進本部」を設置し、翌 1998 年（平成 10 年）「薬物乱用防止 5 か年戦略」のもとに総合的対策を開始した。5 か年戦略では、その目標の第 1 に「中・高校生を中心に薬物乱用の危険性を啓発し、青少年の薬物乱用傾向を阻止する」に掲げた。さらに政府は、2003 年（平成 16 年）「薬物乱用防止新 5 か年戦略」を策定して、継続した対策強化を進めているが、その目標の第一を「中・高校生を中心に薬物乱用の危険性を啓発継続するとともに、児童・生徒以外の青少年に対する啓発を一層工夫充実し、青少年による薬物乱用傾向の根絶を目指す」としている。これらの総合的対策によって我が国の覚せい剤乱用は減少傾向を示しているが、MDMA（エクスタシー）や脱法ドラッグなどと呼ばれる新たな危険な薬物の乱用が広がり、青少年では有機溶剤（シンナー）乱用が依然として多い。

我が国を含めた世界の国々における薬物乱用問題解決のためには、何よりも薬物乱用の実態、特に薬物乱用の開始年齢にある青少年における薬物乱用の実態を把握する必要があるが、薬物乱用流行の背景には現代社会で進んでいる急激な国際化、都市化、情報化があるので、刻一刻と変化する薬物乱用の動向を長期に渡って継続してモニターする総合的なシステム構築が不可欠である。このような薬物乱用に関する総合的モニタリングシステムはまた、警察・海上保安庁・麻薬取締課による薬物取締、一次予防の視点から展開される薬物乱用防止教育、三次予防の視点からの薬物乱用経験者の回復・社会復帰プログラムなどの多様な薬物乱用防止対策の有効性をチェックする評価システムとして機能する。薬物問題の深刻な欧米諸国では、このような観点から、国際的協力のもとに、薬物乱用に関する長期の総合的モニタリングシステムが稼働している。我が国においても、これらに比する喫煙、飲酒を含めた青少年の薬物乱用に関する総合的長期モニタリングシステムの構築・整備が喫緊の課題である。

我が国においては、国立精神・神経センター精神保健研究所の和田らによって「薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査」が 1996 年に開始され、以後 2 年ごとに中学生を対象とした全国調査が行われている。和田らはまた、「薬物乱用に関する全国住民調査」を継続実施し、幅広い年齢層を対象としたモニタリングを行っている。しかし、喫煙、飲酒、

薬物乱用などの危険行動に関して、より危険性の高い高校生及び大学生あるいは専門学校生徒に焦点を絞った長期のモニタリング調査は、我が国ではまだほとんど行われていない。

本研究は、我が国の青少年の喫煙、飲酒を含めた薬物乱用問題を多角的かつ長期間継続してモニタリングするため総合的なシステムを構築・整備することを目的とする。世界のモニタリングシステムのモデルとなっている Monitoring the Future Study(MFS)は、1975年に米国の Johnston らのグループ(University of Michigan Institute for Social Research)によって開始されたが、この調査においては高校生が主な対象とされている。また、欧米の主要な調査においても高校生に対応する年齢層が主な対象である。

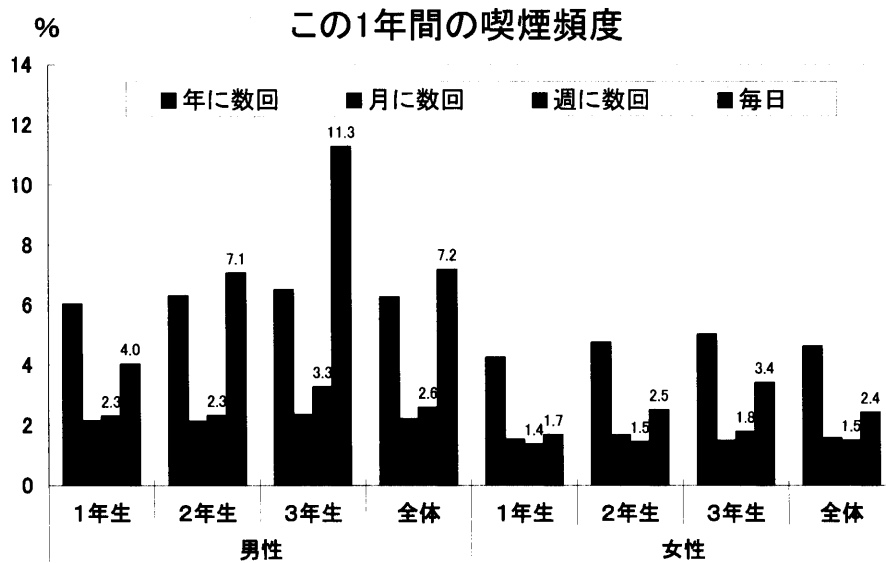
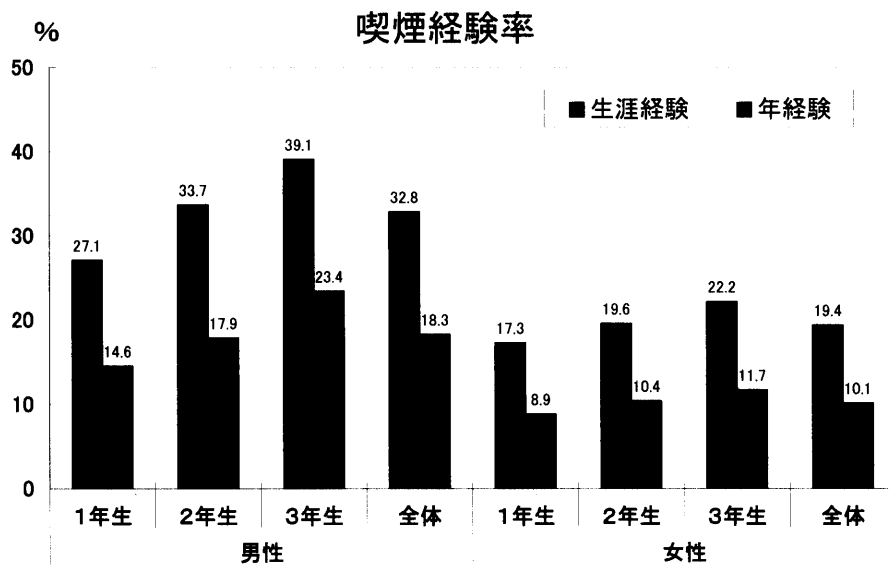
本研究では、欧米で先行して行なわれている調査と同様、喫煙、飲酒、薬物乱用に関して特に危険度の高い年齢層である高校生を主な対象とし、国際比較に耐える我が国の代表値を示すために、無作為抽出法による大規模調査を行なった。すなわち、全国の6地域ブロックから層別1段集落抽出法により高等学校103校をランダムに選び、そこに在籍する全高校生92,546名を対象に調査を実施した。

本報告書は、その成果をまとめたものである。なお、本報告書において我が国高校生のデータと比較するために用いた中学生のデータは国立精神・神経センター精神保健研究所の和田らの報告書(「薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査2004」平成16年度厚生科学研究報告書)、米国のデータは Johnston らの報告書(Monitoring the Future: National Results on Adolescent Drug Use 2004)、欧州のデータは表の脚注に示した報告書にそれぞれ記載されているものを用いた。

## II 調査結果の概要

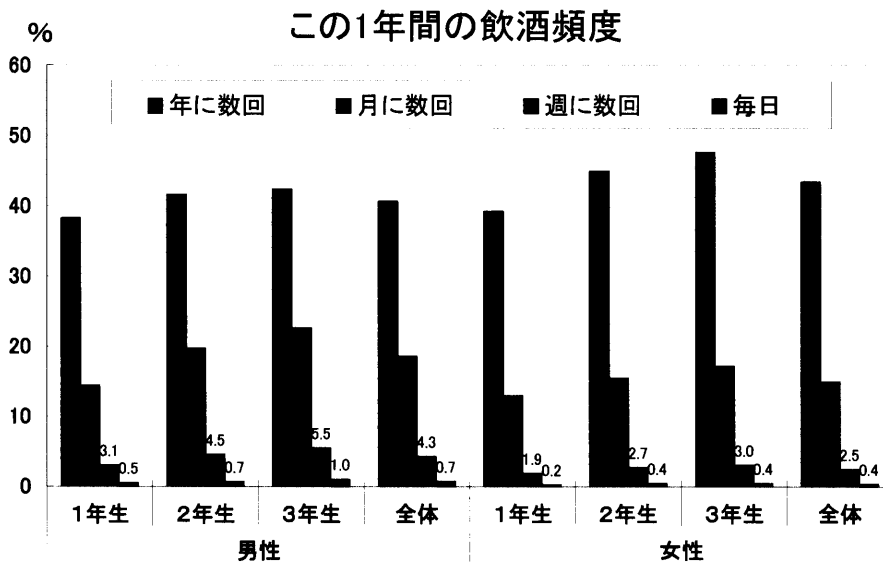
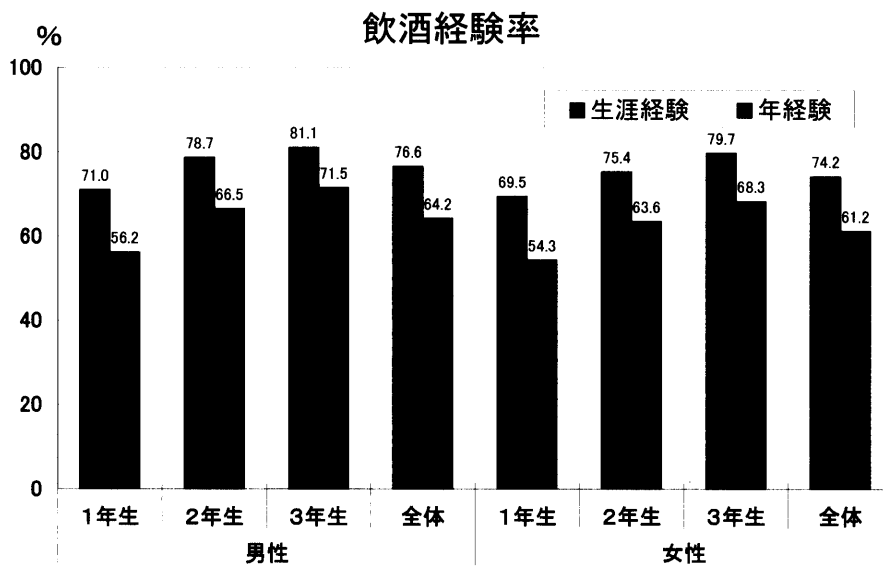
### 1. 喫煙

高校生の喫煙の生涯経験（これまでに1回でも喫煙したことがある）率は男子で32.8%，女子で19.4%であった。喫煙の年経験（この1年間で1回でも喫煙したことがある）率は男子18.3%，女子10.1%であった。また、毎日喫煙している者が男子では7.2%，女子では2.4%いた。



## 2. 飲酒

高校生の飲酒の生涯経験（これまでに1回でも飲酒したことがある）率は男子で76.6%，女子で74.2%であった。飲酒の年経験（この1年間で1回でも飲酒したことがある）率は男子64.2%，女子51.2%であった。毎日飲酒している者が男子では0.7%，女子では0.4%いた。

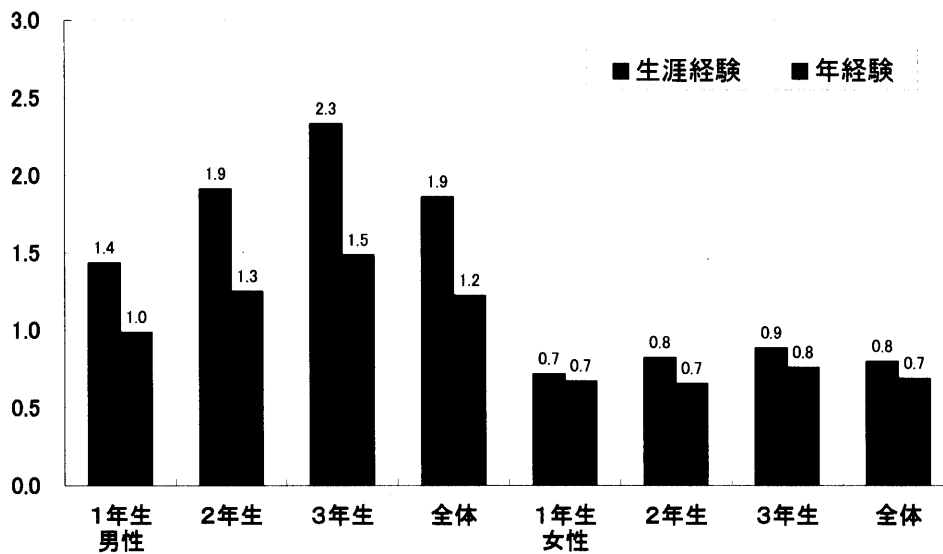


### 3. 薬物乱用

高校生の薬物乱用（有機溶剤，覚せい剤，大麻，MDMA のいずれか）の生涯経験（これまでに1回でも乱用したことがある）率は男子で1.9%，女子で0.8%であった。薬物乱用の年経験者（この1年間で1回でも乱用したことがある）率は男子1.2%、女子0.7%であった。

我が国の高校生を含む青少年の薬物乱用の生涯経験率は，欧米諸国に比べて低い。

薬物乱用経験率(有機溶剤, 覚せい剤, 大麻, MDMAのいずれか)





我が国と世界の青少年の薬物乱用の現状  
(違法薬物の生涯経験率)

国名	年	年齢	生涯経験率 (%)
日本	2004#	12	1.2
		13	1.3
		14	1.6
	2004##	15	1.1
		16	1.4
		17	1.6
	1999###	20	6.0
アメリカ合衆国	2004*	13	21.5
		15	39.8
		17	51.1
イギリス	1997**	15-16	39.8
フランス	1997**	15-16	27.5
オランダ	1999**	15-16	28.8
スペイン	1999**	15-16	32.9
スウェーデン	1999**	15-16	8.0
オーストラリア	1991***	14-24	52.0

\* National Institute on Drug Abuse: The Monitoring the Future: National Results on Adolescent Drug Use 2004

\*\*EMCDDA Annual report 2001

\*\*\*UNDCP: World Drug Report 1997

# 和田清他 「薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査2004」平成16年度厚生科学研究報告書

## 勝野真吾他 「高校生の喫煙、飲酒、薬物乱用の実態と生活習慣に関する全国調査2004」

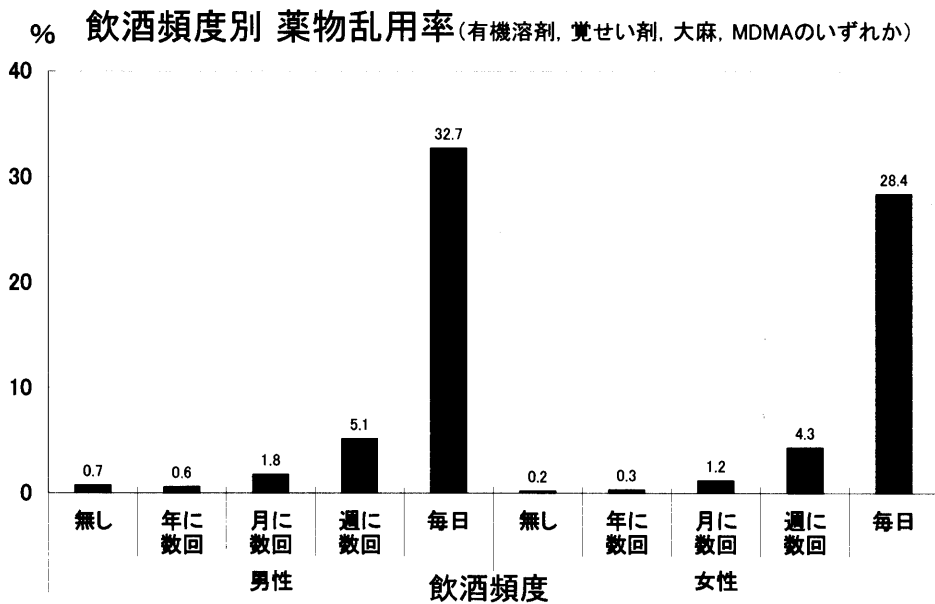
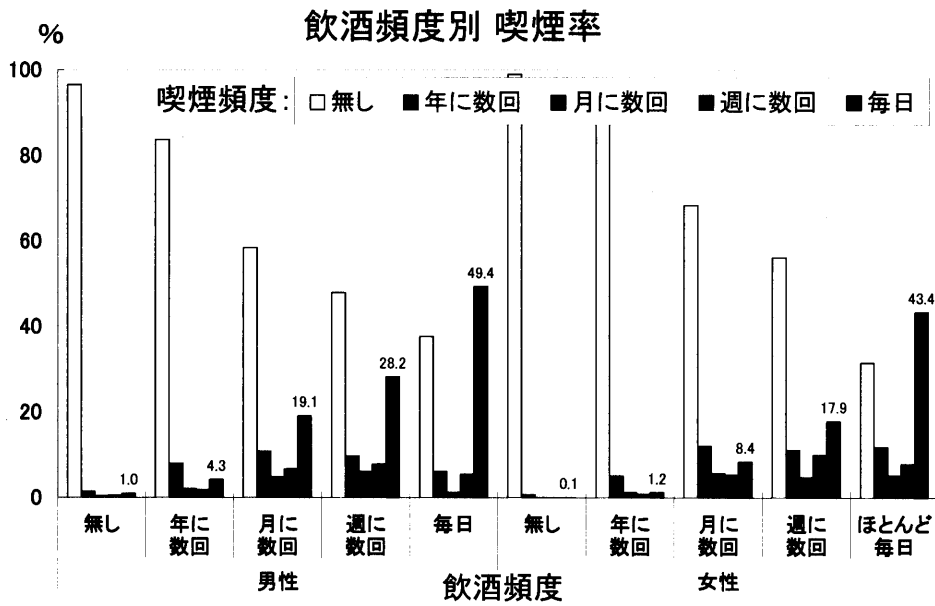
### 和田清他 「薬物使用に関する全国住民調査1999」平成11年度厚生科学研究報告書

(注) 上記生涯経験率は男性と女性をあわせた数値を示してある。

#### 4. 飲酒と喫煙，薬物乱用との関連性

飲酒頻度が多くなるほど毎日喫煙する者の割合が高くなっていった。毎日飲酒する男性ではその49.4%が、女性では43.4%が毎日喫煙していた。

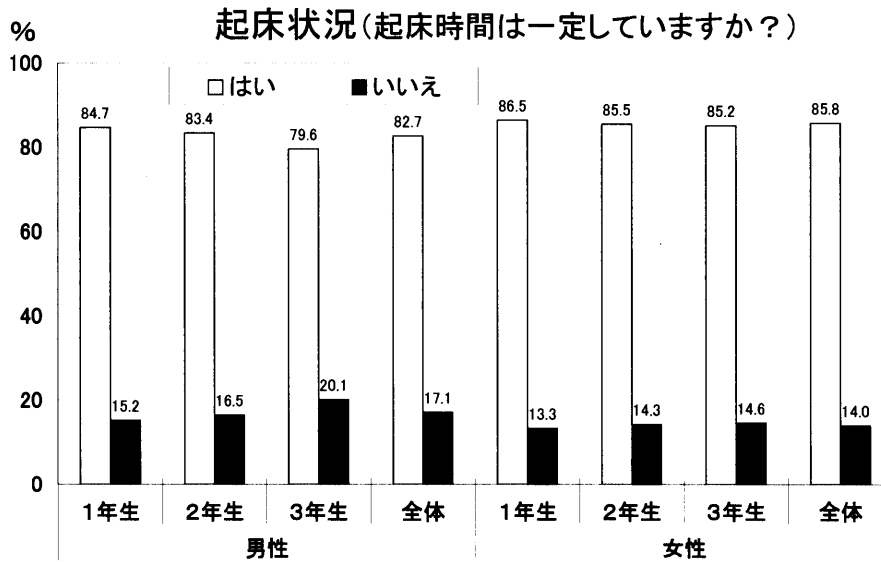
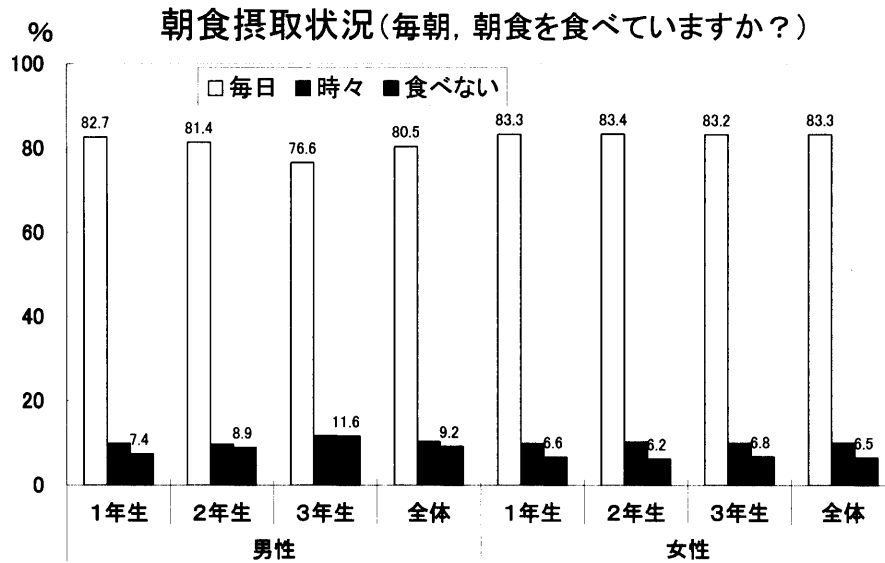
飲酒頻度が多くなるほど年薬物乱用（有機溶剤，覚せい剤，大麻，MDMAのいずれか）率が高くなっていった。毎日飲酒する男性ではその32.7%が、女性では28.4%がこの1年間に薬物乱用を経験していた。



## 5. 生活習慣

高校生では男子の 80.5%，女子の 83.3%が毎日朝食を摂っており，朝食をとっていない者は男子で 9.2%，女子で 6.5%であった。

高校生では男子の 82.7%，女子の 85.8%が毎日ほぼ一定の時間に起床していた。



## 基本方針及び対象と方法

### 1. 基本方針

本調査では、喫煙、飲酒、薬物乱用に関して、以下の4点を基本方針とした。

1. 代表性があること：

我が国高校生の実態を示す代表値を求め、諸外国の調査及び中学生を対象に先行して実施されている国内調査などと比較できるようにする。

2. 継続的であること：

2年ごとに調査を行うことを前提に、時系列的なモニタリングによる評価分析ができるようにする。

3. 具体的な薬物乱用防止対策に結びつくこと：

喫煙、飲酒、薬物乱用相互及びその背景要因との関連性を明らかにし、具体的な薬物乱用防止対策に結びつくことができるようにする。

4. 教育効果があること：

調査自体を喫煙、飲酒、薬物乱用の有害性についての教育の一環となるようにする。

### 2. 対象と方法

対象、調査方法及び内容は上記の基本方針に基づいて行った。対象は全国の全日制高等学校とした。調査対象校の抽出は、層別1段集落抽出法によって行った。すなわち、全国を北海道・東北、関東、北陸・東海、近畿、中国・四国及び九州・沖縄の6ブロックに分け、全国学校総覧をもとに各ブロックの調査校数をブロックの生徒数に比例させて決定し、その数の高等学校をブロックごとに無作為に抽出した。高校数は103校(総生徒数92,546名)、そのうち74校(71.8%)から調査協力が得られた。高等学校では進学クラスなど、クラスごとに特性が異なる場合があるので、調査は各学校の全学年・全クラスの生徒を対象とした。74校の総生徒数60,399名のうち44,722名から回答が得られた(回収率74.0%)。そのうち、性、学年などの基本項目が未記入であったり、アンケート項目の半数以上が未記入であったりしたものを除いた有効回答は44,629(総回収数に対する有効回答率99.8%)であった。

調査は無記名のアンケート調査によって行った。調査では、秘密保持が保たれるよう配慮した。すなわち、記載の終わった生徒は、同時に配布された個人用封筒に調査用紙を入れ、自分で封をし、クラス毎の回収用封筒に投函する方法をとった。調査項目は、飲酒、喫煙、薬物乱用(シンナー、大麻、覚せい剤、エクスタシー、ドーピング)の経験の有無、それに対する意識・態度、入手のしやすさに関する項目、背景要因として生活習慣、家族・友人関係などに関する項目、計103項目とした。喫煙、飲酒、薬物乱用に関する主要な質問は、1975年から毎年実施され、薬物使用に関する調査のモデルとされている米国Michigan大学のJohnstonらのMonitoring the Future Study、および我が国の中学生を対象として和田らが1996年より2年ごとに実施している全国調査と比較可能な内容とした。また、教育的視点から違法薬物に関する項目のなかにその有害性についての質問を加えた。

## 調査対象

全国の全日制高校, 5272校



層別1段集落抽出法

103校(各校の全生徒調査, 約93000名)

## 層別1段集落抽出法

層別: (地域)ブロック

集落: 学校

### 1. 全国学校総覧(2004年): 高等学校領域データベース作成

ブロック別に全生徒数を求める



ブロック別に抽出校数決定

例: 北海道・東北ブロック

都道府県コード	学校コード	生徒数	ページ	生徒数累積
1	1	453	87	453
1	2	957	87	1410
1	3	1080	87	2490
1	4	101	87	2591
1	5	1126	87	3717
1	6	121	87	3838
.	.	.	.	.
.	.	.	.	.
.	.	.	.	.
7	116	229	106	527509
7	117	771	106	528280
7	118	390	106	528670
7	119	156	106	528826

ブロック名	生徒数	生徒数比	抽出校数*
北海道・東北	528,826	0.132	14
関東	1,277,764	0.318	32
北陸・東海	643,196	0.160	16
近畿	652,820	0.162	17
中国・四国	386,561	0.096	10
九州・沖縄	531,194	0.132	14
合計	4,020,361	1.000	103

\*生徒数比に上ず

## 2. ブロック別 高校無作為抽出

ブロックごとに抽出された学校数個の乱数を求める

例：北海道・東北ブロック  
乱数発生：randbetween(1,528826)

生徒総数	乱数 1	乱数 2	乱数 3	.....	乱数 13
528826	3831	528000	2590	.....	6954

その乱数に対応する生徒が所属する学校を対象校として決定(確率比率抽出)  
各校の全生徒を調査対象とする

例：北海道・東北ブロック

都道府県コード	学校コード	生徒数	ページ	生徒数累積	
1	1	453	87	453	
1	2	957	87	1410	
1	3	1080	87	2490	
1	4	101	87	2591	乱数 3
1	5	1126	87	3717	
1	6	121	87	3838	乱数 1
.	.	.	.	.	
.	.	.	.	.	
7	116	229	106	527509	
7	117	771	106	528280	乱数 2
7	118	390	106	528670	
7	119	156	106	528826	

## 調査内容 (質問数103)

対象行動：  
喫煙，飲酒，  
薬物(シンナー，大麻，覚せい剤，エクスタシー) 乱用

経験の有無，意識・態度，入手のしやすさに関する項目

背景要因：基礎生活習慣，学校生活，家族・友人関係

## 調査用紙名

喫煙・飲酒・薬物乱用についての意識・実態調査

## 調査記入要項における記述内容

回答者がわからないように以下のような配慮がされています。

- ・この調査用紙には、氏名など個人を見つけ出せそうなものを書くところはありません。
- ・先生には、必要に応じて、生徒の質問に答えていただきますが、必要以上に生徒の所には行かず、生徒が書きやすいように努めていただきます。
- ・書き終わったら、配られた封筒に用紙を入れて封をし、先生の持っている大きな袋に封筒ごと入れてください。
- ・調査用紙は、学校の先生などに結果を知られることなく、厳重に保管されます。その結果は研究以外の目的には使用しません。
- ・調査結果も、集められた結果を全体でまとめて処理します。個人が特定されることはありません。

## 高等学校への調査協力依頼時の留意点

.....

調査協力校には、わが国全体での集計結果とそれぞれの学校の結果を報告し、学校における喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育に活用していただけるよう配慮しています。しかし、協力校別の結果の公表はいたしませんので、学校が特定されることはありません。

.....

## 実態調査手順

### 1. 調査実施に当たっての協力体制の事前準備

高等学校管轄各関係機関への協力依頼  
文部科学省への調査協力依頼(依頼文書送付)  
各都道府県教育委員会への調査協力依頼(依頼文書送付)

### 2. 調査対象高校での実施(調査関係文書,用紙送付)

学校長への調査協力依頼文送付  
担任等調査実施者への実施要領  
調査用紙

### 3. 調査用紙記入,回収

記入した調査用紙を個人ごと封筒に入れ,それをクラスごとの袋に提出する。  
学校で取りまとめ,大学に郵送

## 調査実施結果:協力校数

回収校率:72%

	抽出校数	協力校数	回収校率(%)
北海道・東北	14	11	78.6
関東	32	22	68.8
北陸・東海	16	11	68.8
近畿	17	11	64.7
中国・四国	10	8	80.0
九州・沖縄	14	11	78.6
合計	103	74	71.8



## 調査実施結果:対象者数

協力校率:74校 / 対象校数103校 = 71.8%

協力生徒数率: 44,722名(74校) / 92,546名(対象校数103校) = 48.3%

協力校(74校)における協力生徒数率: 44,722名 / 60,399名 = 74.0%

総回収数(74校より): 44,722 有効回答数: 44,629(有効回答率99.8%)

	1年生	2年生	3年生	全体
男性	8,488 ( 36.4 )	8,032 ( 34.5 )	6,780 ( 29.1 )	23,300 ( 100 )
女性	8,191 ( 38.4 )	7,644 ( 35.8 )	5,494 ( 25.8 )	21,329 ( 100 )
合計	16,679 ( 37.4 )	15,676 ( 35.1 )	12,274 ( 27.5 )	44,629 ( 100 )

## IV 結果

### 1. 喫煙

#### a) 喫煙経験

高校生の喫煙経験（生涯喫煙率：これまでに1回でも喫煙したことのある生徒の割合）は男性、女性ともに高等学校1年生の男性 27.1%、女性 17.3%から高校3年生の男性 39.1%、女性 22.2%と学年が高くなるにつれて増加している。図1には同じ方法で実際された我が国中学生の喫煙経験率および同一学年で調査が行われた中学校2年生、高等学校3年生についての米国の喫煙経験率（米国調査では性差を補正した上で男性と女性合わせた数値が示されている）を比較して示した。我が国の高校生、中学生の喫煙率は米国の生徒より低い。

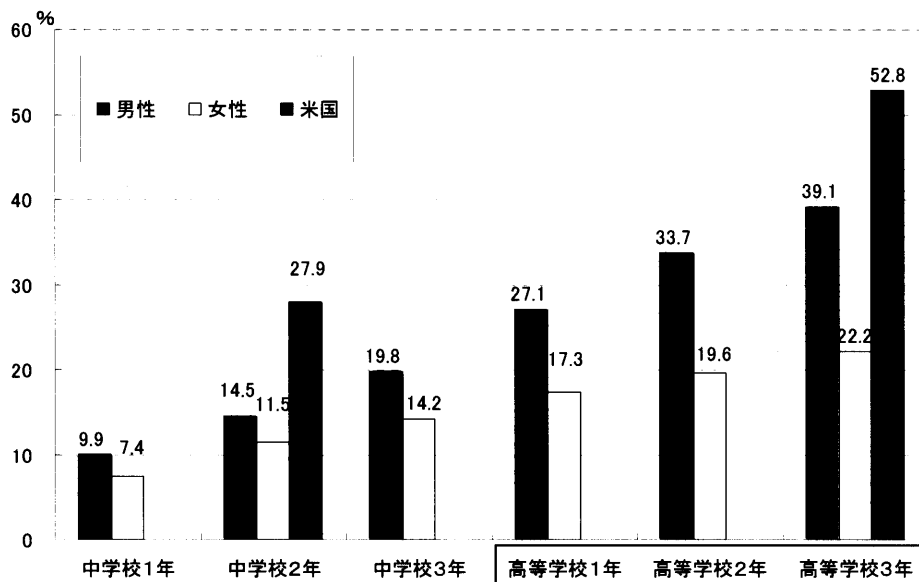


図1. 高校生の生涯喫煙率（2004）

#### b) 周囲の喫煙

「父親がタバコを吸っている」と回答した生徒は男性 46.0%、女性 45.6%、「母親がタバコを吸っている」と回答した者は男性 13.9%、女性 15.5%であり、全体の半数近くの者の父親がタバコを吸っていた。「タバコを吸う友達がいる」と回答した生徒は男性 62.5%、女性 43.7%で、男性は女性より多く、学年が上がるにつれて多くなる傾向が見られた。

### c) 喫煙に対する意識

男性の77.7%、女性の82.5%は「喫煙は健康面からみて害ばかりで良い面はない」と回答していたが、「害もあるが良い面もある」と思っている生徒は男性20.4%、女性16.7%であった。男性の63.2%、女性の73.4%は「未成年者の喫煙は法律で禁じられているから吸うべきでない」と回答し、男性の46.4%、女性の55.8%が「未成年者の喫煙禁止を当然だと思う」と回答した。一方、「個人の好きにさせればよい」と思う者は男性19.8%、女性12.3%であった。女性は男性に比べて「喫煙は害ばかりで良い面はない」という意識が強く、喫煙を厳しく禁止するべきであると考えている者が多かった。

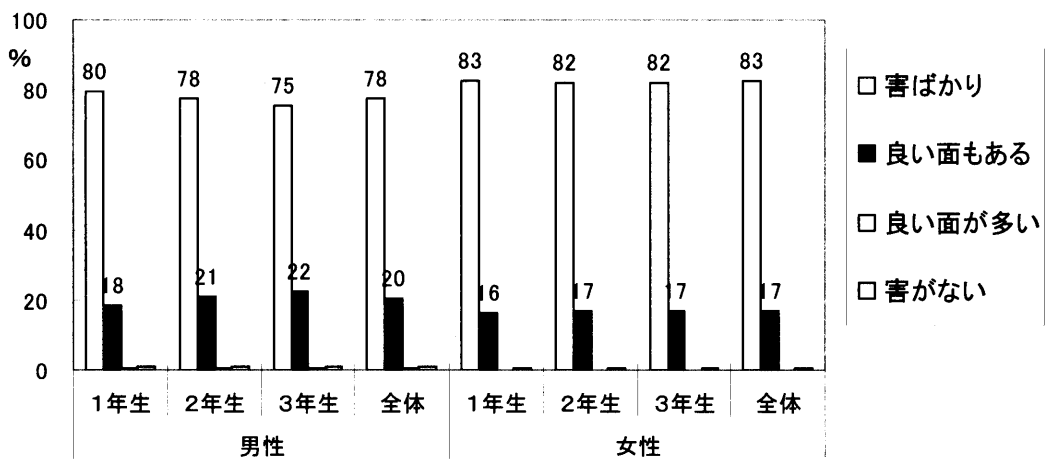


図1-2. 喫煙の健康影響

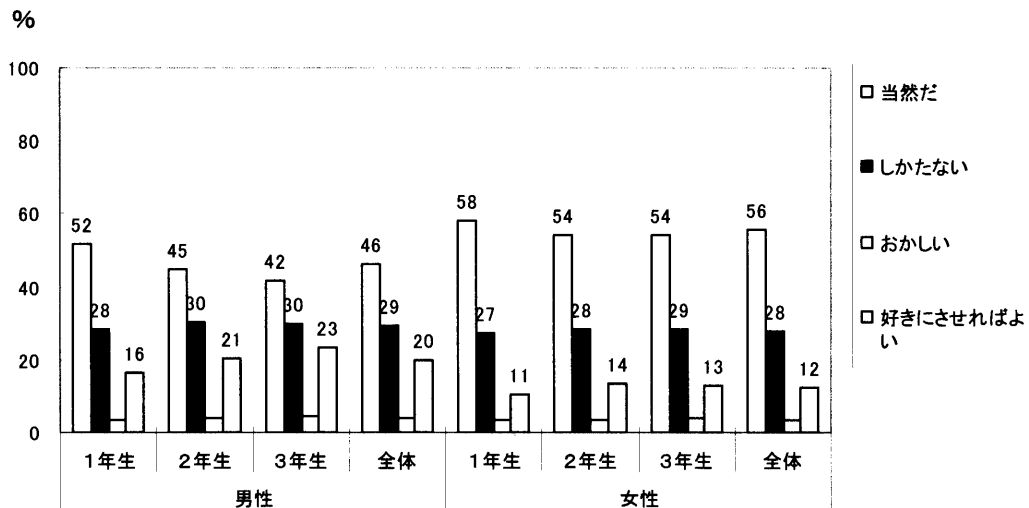


図1-3 未成年者の喫煙禁止についての意見

## 2. 飲酒

### a) 飲酒経験

高校生の飲酒経験率（生涯経験率：これまで1回でも飲酒したことのある生徒の割合）は男性、女性ともに高等学校1年生の男性 71.0%、女性 69.5%から高校3年生の男性 81.1%、女性 79.7%と学年が高くなるにつれて増加している。図2には同じ方法で実際された我が国中学生の飲酒経験率および同一学年で調査が行われた中学校2年生、高等学校3年生についての米国の飲酒経験率（米国調査では性差を補正した上で男性と女性合わせた数値が示されている）を比較して示した。我が国の高校生の飲酒経験率は高く、高等学校3年生では全体として8割の生徒が飲酒を経験している。同一学年で調査が行われた中学校2年生と高等学校3年生でみると、我が国の中学生および高校生の飲酒経験率は米国より高い。

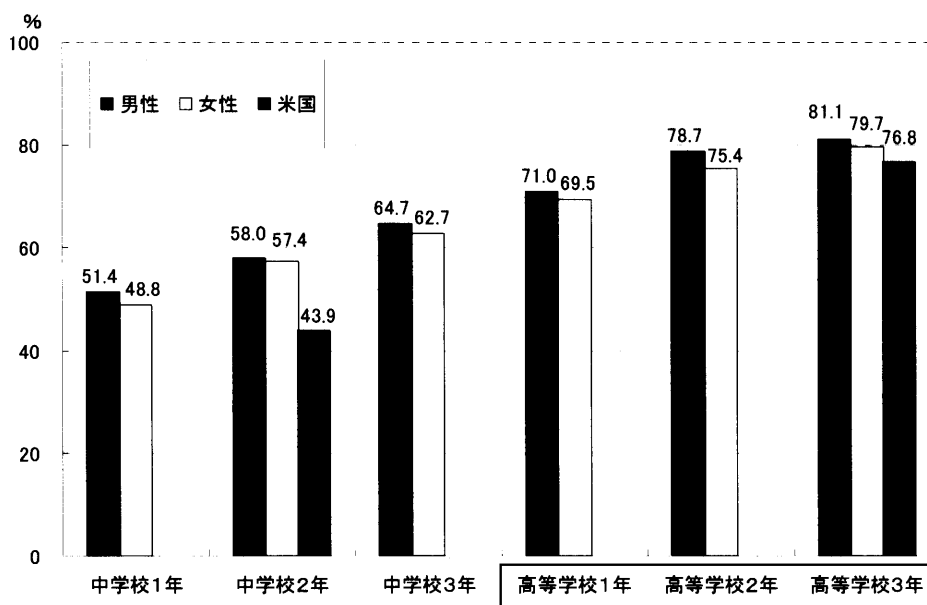


図2. 高校生の生涯飲酒率（2004）

初めての飲酒経験は10歳以下が最も多く、次いで15歳が多かった。飲酒の機会は「冠婚葬祭の時」、「家族での食事」が高く、次いで「自分や誰かの部屋で、仲間と飲んだことがある」、「クラス会、打ち上げ、友人とのパーティの時に仲間と飲んだことがある」の順であった。「一人で飲んだことがある」と回答した生徒は男性 16.4%、女性 9.0%で、学年が上がるにつれて高くなった。最近の1年間では男性の 40.6%、女性の 43.5%が「年に数回飲んだ」と回答し、男性の 18.6%、女性の 15.0%が「月に数回飲んだ」と回答した。酒

を飲んで失敗した経験は学年が上がるにつれて高くなり、男性は女性より多く、男性では「酔ってはいた」者が14.8%、「事故やけんかで警察につかまった」者が0.8%いた。しかし、「親にしかられた」と回答したのは男性5.3%、女性4.2%と少なかった。

### b) 飲酒に対する意識

男性の73.3%、女性の79.9%は「飲酒は健康面からみて、害もあるが良い面もある」と回答したのに対して、「害ばかりで、良い面はない」と回答したのは全体の約12%と少なかった。また、未成年者の飲酒については男性の28.8%、女性の30.5%が「法律で禁止されているので飲むべきではない」と回答し、男性の24.2%、女性の25.1%が「未成年者の飲酒禁止は当然だと思う」と回答した。一方、「好きにさせればよい」（個人の自由）と思うと者は男性23.8%、女性17.4%であった。

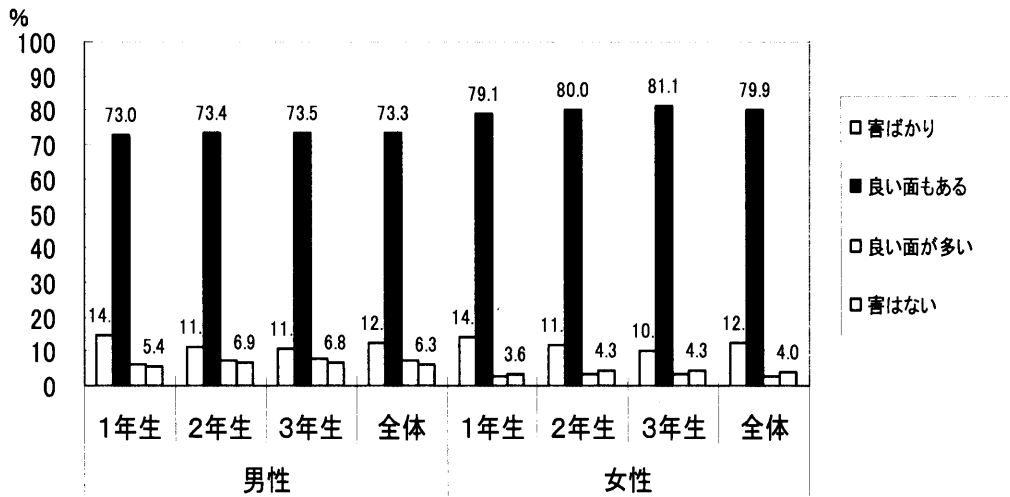


図2-2 飲酒の健康影響

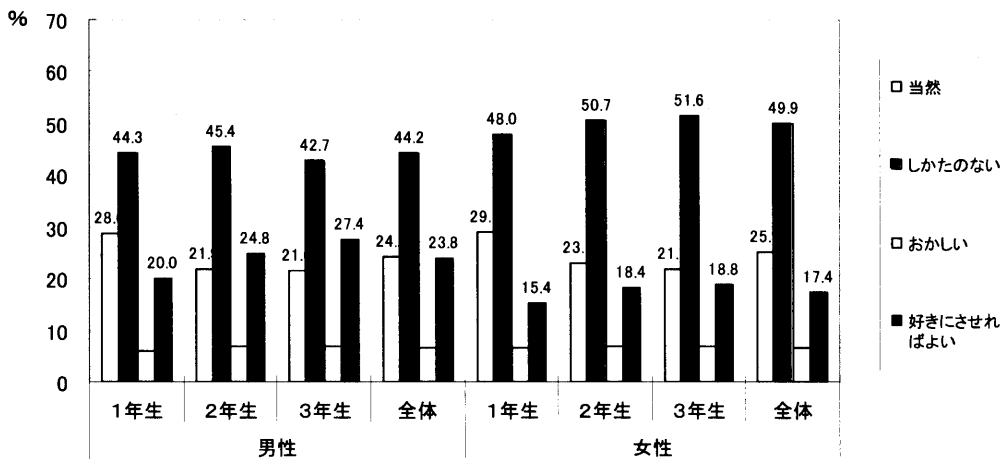


図2-3 未成年者の飲酒禁止についての意見

### 3. 薬物乱用

#### 1) 有機溶剤（シンナー等）

##### a) 有機溶剤乱用（シンナー遊び）の経験

男性の 98.0%，女性の 98.7%は「これまでシンナー遊びをしたことがない」と回答した。「シンナー遊びの経験がある」と回答した者は男性の 1.1%，女性の 0.53%であった。

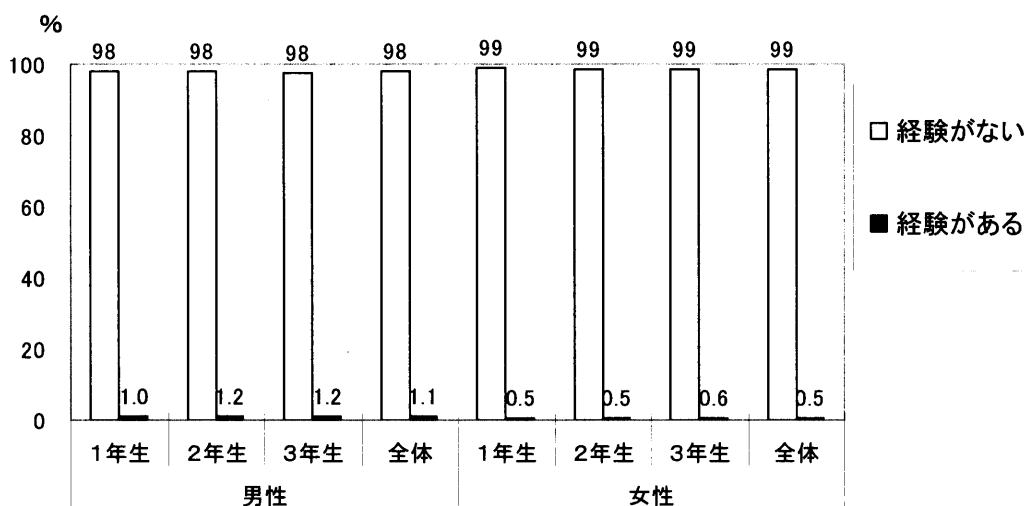


図3 高校生の有機溶剤乱用(シンナー遊び)生涯経験率

##### b) 有機溶剤乱用（シンナー遊び）の危険性についての知識

男性の 78.5%，女性の 80.9%は「シンナー遊びで死亡する」ことを知っており，男性の 78.2%，女性の 76.1%は「シンナー遊びを繰り返すと歯がぼろぼろになりやすい」ことを知っていた。また，男性の 77.5%，女性の 78.3%は「シンナー遊びを繰り返すと手足の筋肉や神経が衰え，物をつかめなくなったり，歩けなくなる」ことを知っており，男性の 91.9%，女性の 95.1%は「シンナー遊びを繰り返すと何も無いのに物が見えたり，実際には何も聞こえないのに，声が聞こえたり，誰も何とも思っていないのに，人が自分のことを非難していると思ひ込んだりする状態になることがある」ことを知っていた。さらに，男性の 73.1%，女性の 75.4%は「シンナー遊びを繰り返すと何事にも関心が持てなくなり，結果的に学校を欠席しがちになり，どんな仕事についても長続きしなくなる」ことを知っており，男性の 83.4%，女性の 86.5%は「シンナー遊びの結果，幻視，幻聴，妄想が出るようになると，治療して治っても，その後シンナー遊びを止めていても疲れ・ストレス・飲酒などで，幻視，幻聴，妄想が再び出現する」ことを知っており，性，学年による差はほとんどみられなかった。「どうしてシンナー遊びをするのか」について，男性は「本人に問題がある」と回答した者が 69.2%と最も多く，「家庭に問題がある」が 49.8%「学校に問題がある」が 28.4%であった。女性では「本人に問題がある」が 63.1%，「家庭に問題がある」が 65.4%，「学校に問題がある」が 37.5%であった。

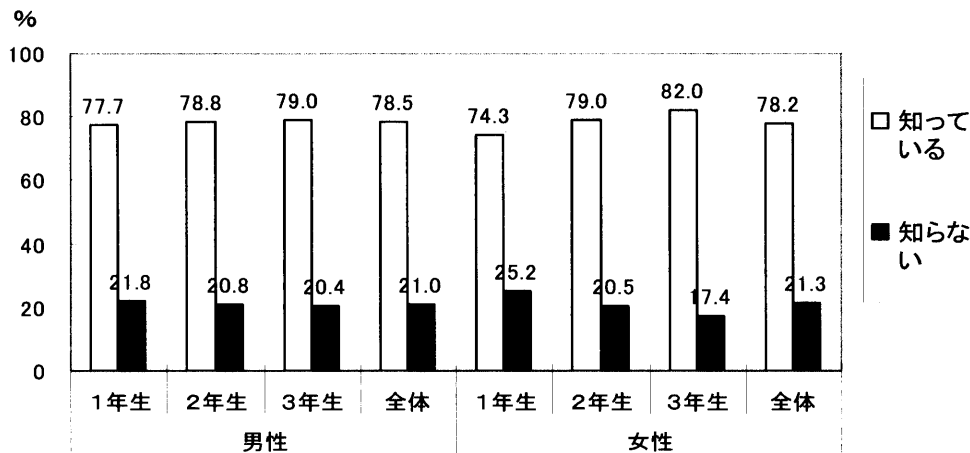


図3-2 有機溶剤乱用(シンナー遊び)健康影響(急性中毒死)についての知識

c) 有機溶剤乱用(シンナー遊び)に対する関心

「シンナー遊びをしているところを実際にみたことがあるか」や「身近にシンナー遊びをしている人がいるか」、「シンナー遊びに誘われたことがあるか」の質問については90%以上の者が「ない」と回答した。また、95%以上の者が「シンナー遊びに関心がない」、「シンナー遊びをしている人は自分には無関係である」と回答し、約72%の者は「シンナー遊びをしている人と親しくなりたくない」と回答した。

d) 有機溶剤乱用(シンナー遊び)に対する意識

男性の87.3%、女性の91.0%は「法律でシンナー遊びが禁止されていることは当然だ」と回答した。しかし、男性の5.8%、女性の2.8%が「個人の好きにさせればよい」と回答した。

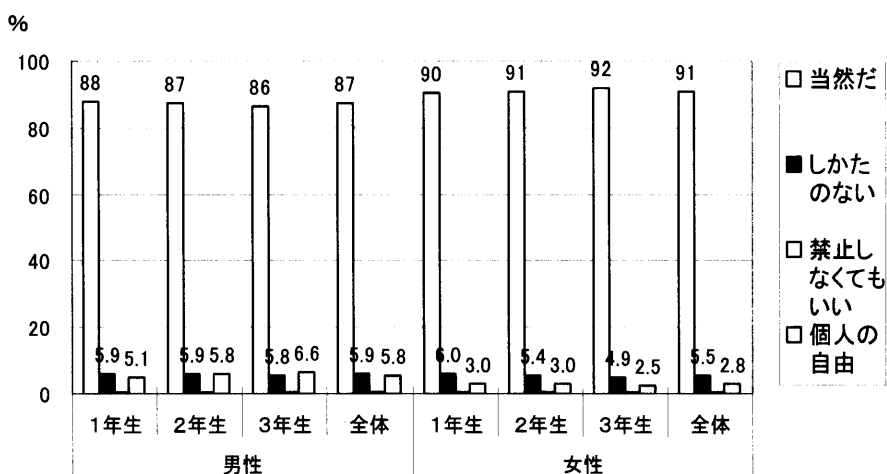


図3-3 有機溶剤乱用(シンナー遊び)の禁止

## 2) 覚せい剤

### a) 覚せい剤乱用の経験

高校生全体の99%の者は「これまで覚せい剤を使用したことがない」と回答した。「覚せい剤を使用したことがある」と回答した者は男性0.5%、女性0.2%であった。

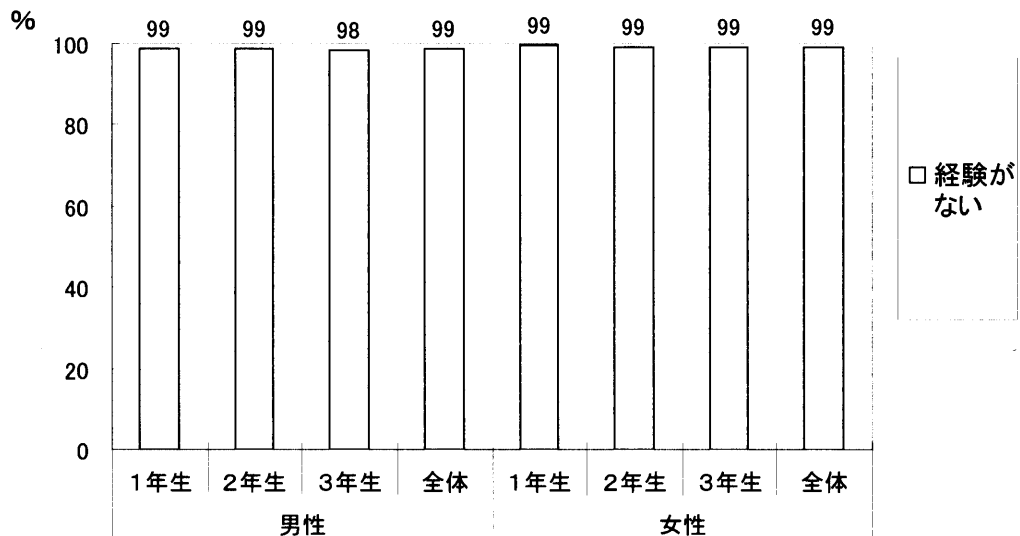


図4 覚せい剤(スピード、エス)乱用の生涯経験率

### b) 覚せい剤乱用の危険性についての知識

「覚せい剤を使用すると、脳の出血や心臓の異常で死亡すること」を知っていたのは、男性の76.1%、女性の73.4%、「覚せい剤を使用すると、イライラして怒りやすくなったり、無意味な同じ動作・行動を繰り返したり、疑い深くなったりすること」を知っていたのは男性の86.0%、女性の88.5%、「覚せい剤の使用を繰り返すと何も無いのに物が見えたり、実際には何も聞こえないのに、声が聞こえたり、誰も何とも思っていないのに、人が自分のことを非難していると思いだんだりする状態になることがある」ことを知っていたのは男性の90.3%、女性の94.6%、覚せい剤使用の結果、幻視、幻聴、妄想が出るようになってしまうと、それを治療して治っても、その後覚せい剤使用を止めていても疲れ・ストレス・飲酒などで、幻視、幻聴、妄想が再び出現する」ことを知っていたのは男性の86.6%、女性の90.3%であった。



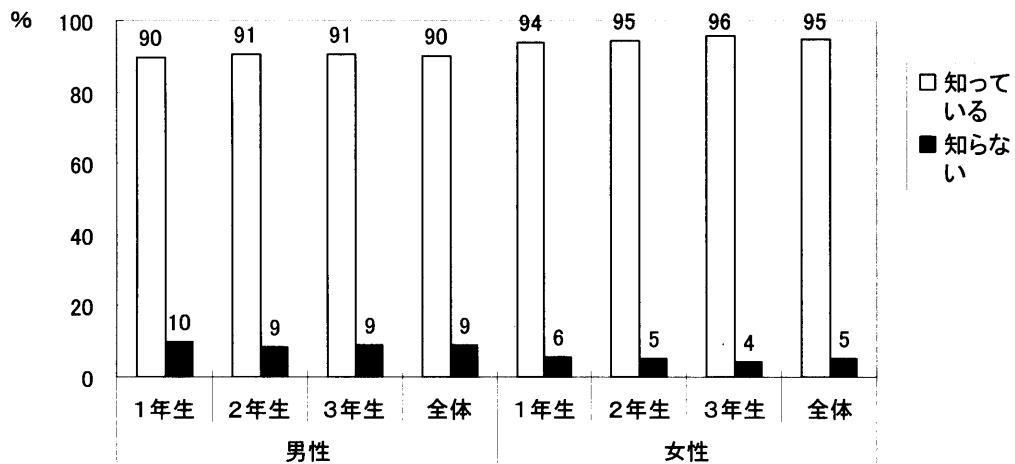


図4-2 覚せい剤乱用の危険性についての知識  
覚せい剤乱用による幻視や幻聴、妄想状態(精神病状態)

#### c) 覚せい剤に対する関心

男性の 96.6%，女性の 96.1%は「覚せい剤に関心がない」と回答した。全体の 96.4%の者が「覚せい剤を使用している人は、自分には無関係な人だと思う」と回答し、81.1%の者が「覚せい剤を使用している人と親しくなりたくない」と回答した。一方、男性の 1.7%，女性の 1.4%は「覚せい剤を使用しているところを実際に見たことがある」と回答し、男性の 1.4%，女性の 1.5%は「身近に覚せい剤を使用している人がある」と回答した。全体では「覚せい剤を使用することに誘われた」者が 1.0%おり、0.7%の者は「覚せい剤を使用している人の気持ちが理解できる気がする」と回答した。

#### d) 覚せい剤に対する意識

男性の 94.4%，女性の 97.0%は「法律で禁止されているから、すべきでない」と回答したが、「少々ならかまわないと思う」や「守る必要はないと思う」という回答がわずかだがみられ、男性は女性より多かった。男性の 89.8%，女性の 92.9%は「法律で覚せい剤を禁止していることは当然だと思う」と回答したが、男性の 4.7%，女性の 2.3%は「法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思う」と回答した。

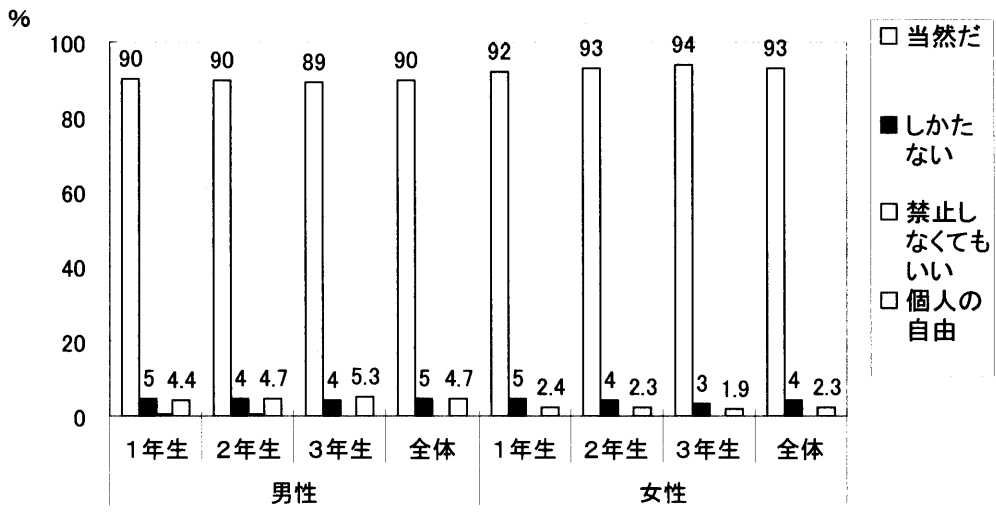


図4-3 覚せい剤(スピード、エス)禁止

### 3) 大麻 (マリファナ)

#### a) 大麻乱用の経験

男性の98.3%、女性の99.1%は「これまで大麻を吸ったことがない」と回答した。「大麻を吸った経験がある」と回答したのは男性の0.9%、女性の0.3%であった。

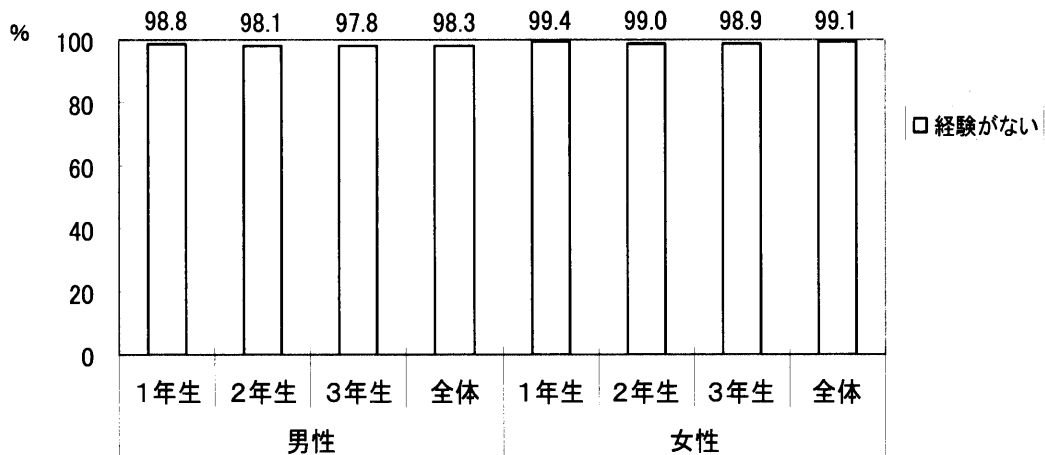


図5 大麻(マリファナ)乱用の生涯経験率

#### b) 大麻乱用の危険性についての知識

男性の89.1%、女性の90.5%は「大麻を吸うと、現実と幻想との区別がつかなくなり、意識が異様になることがある」のを知っており、男性の88.7%、女性の91.2%は「大麻を吸い続けると、わけもなく怯えるようになり、意識がおかしくなり、奇妙な動作・行動をとるようになり、自分の行動に干渉する声が聞こえたりする状態になる」のを知っていた。加えて、男性の76.9%、女性の78.2%は「大麻を吸い続けると、何事にも関心が持てなくなり、結果的に学校を欠席しがちになり、どんな仕事についても、長続きしなくなることを知っている」と回答した。

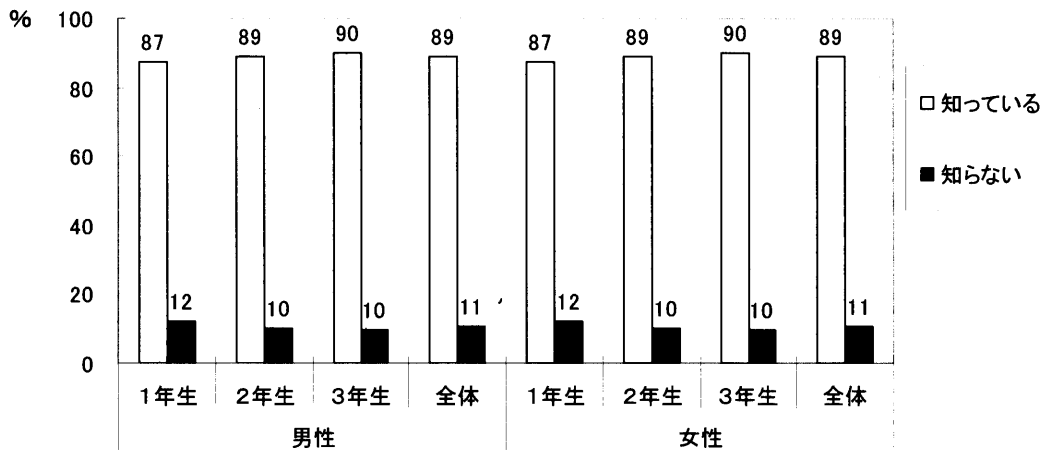


図5-2 大麻乱用の危険性についての知識  
大麻乱用による幻聴、妄想状態(精神病状態)

#### c) 大麻に対する関心

男性の 94.6%，女性の 95.8%は「大麻に関心がない」と回答した。大麻を吸っている人に対しては、男性の 95.1%，女性の 96.3%が「自分には無関係な人だと思う」と回答し、全体の 81.3%の者が「大麻を吸っている人と親しくなりたくない」と回答した。一方、「大麻を吸っているところを実際に見たことがある」と回答した者は男性の 3.0%，女性の 1.8%，「身近に大麻を吸っている人がいる」と回答した者は男性の 2.9%，女性の 2.4%，「大麻を吸うことに誘われた」と回答した者は男性の 2.1%，女性の 1.2%で、全体の 3.1%の者は「大麻を吸っている人の気持ちが理解できる気がする」と回答した。

#### d) 大麻に対する意識

男性の 88.7%，女性の 92.5%は「法律で禁止するのは当然だと思う」，男性の 93.0%，女性の 96.7%は「法律で禁止されているから，すべきでない」，と回答した。一方，わずかだが「少々ならかまわないと思う」や「守る必要はないと思う」という回答がみられ，男性の 5.0%，女性の 2.4%は「法律で決める必要はなく，個人の好きにさせればよいと思う」と回答した。

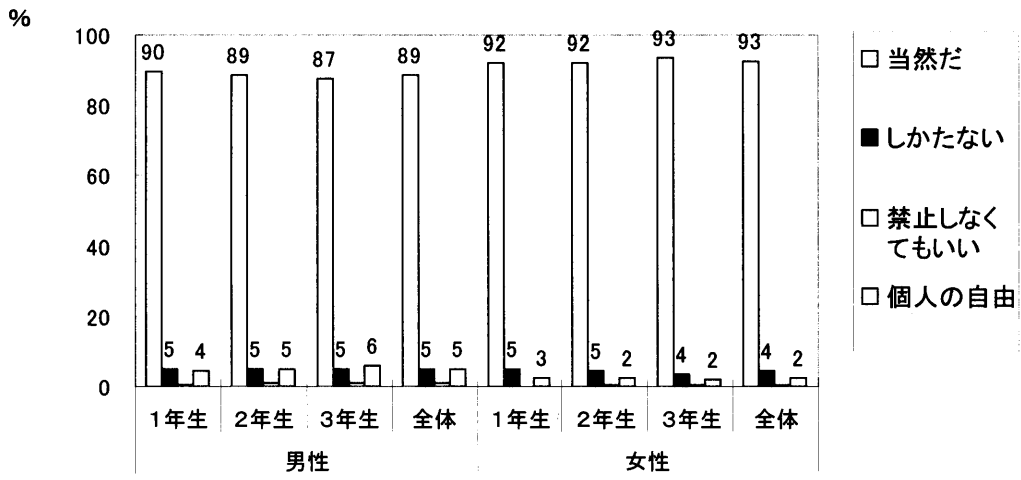


図5-3 大麻(マリファナ)禁止

#### 4) MDMA (エクスタシー)

##### a) MDMA乱用の経験

「これまでMDMA(エクスタシー)を使用したことがあるか」の質問に対して、男性の98.5%、女性の99.1%は「経験がない」と回答した。

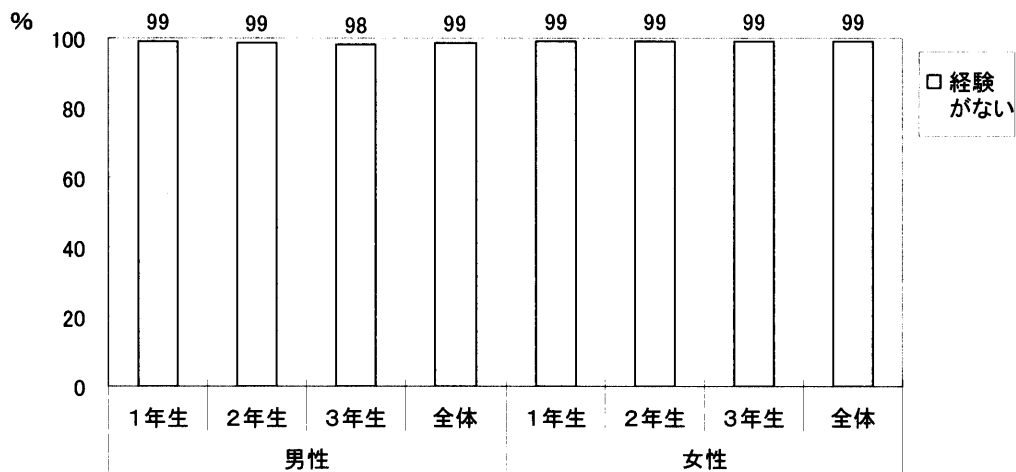


図6 MDMA(エクスタシー)乱用の生涯経験率

##### b) MDMA乱用の危険性についての知識

MDMA (エクスタシー)を使用すると、意識がおかしくなったり、異常高熱で死亡したりすることがあるのを知っていたのは、男性の47.2%、女性の35.3%であった。

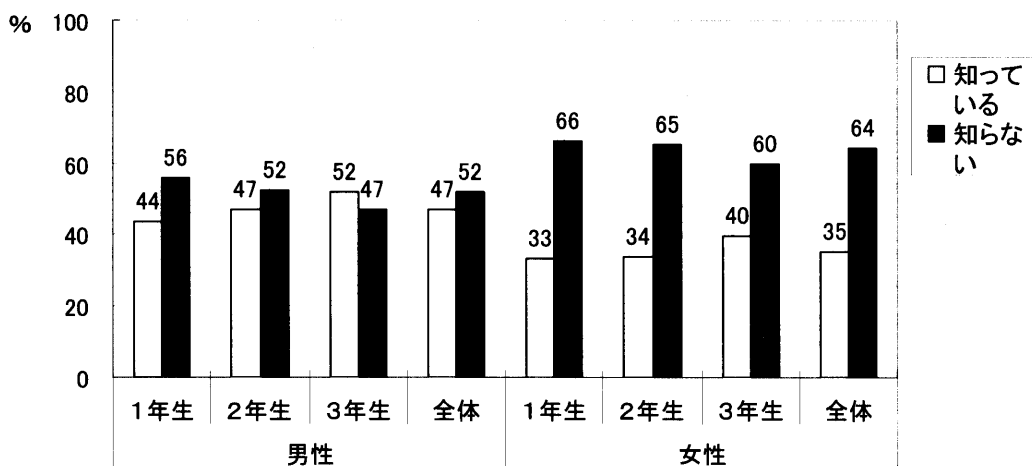


図6-2 MDMA(エクスタシー)乱用の危険性についての知識  
MDMA(エクスタシー)乱用による意識障害や急性中毒死

c) MDMAに対する関心

男性の96.6%、女性の97.6%は「MDMA（エクスタシー）に関心がない」と回答した。MDMA（エクスタシー）をしている人に対しては、男性の96.4%、女性の97.6%が「自分には無関係な人だと思う」と回答した。一方、男性の1.2%、女性0.7%は「身近にMDMA（エクスタシー）をしている人がいる」と回答し、男性の0.7%、女性の0.4%は「MDMA（エクスタシー）使用に誘われたことがある」と回答した。そして、男性の2.1%、女性1.6%の者は「MDMA（エクスタシー）をしている人の気持ちが理解できる気がする」と回答した。

## 5) 何らかの薬物乱用 (1種類以上の薬物乱用)

### a) 薬物乱用経験率

有機溶剤 (シンナー等), 覚せい剤 (スピード, エス), 大麻 (マリファナ), MDMA (エクスタシー) のうち, これまでに一度でも何らかの薬物乱用を経験したこと (生涯経験) のある高校生は, 男性1年生 1.4%, 2年生 1.9%, 3年生 2.3%, 女性1年生 0.7%, 2年生 0.8%, 3年生 0.9%であり, 薬物乱用生涯経験率は男性, 女性ともに学年が高くなるに従って高くなる. 高等学校3学年全体でみると, 薬物乱用生涯経験率は男性 1.9%, 女性 0.8%であり, 男性の薬物乱用生涯経験率は女性より高い.

より常習的と考えられる薬物乱用年経験率 (この1年の間に一度でも何らかの薬物乱用を経験した者の割合) は, 高等学校全体では, 男性 1.2%, 女性 0.7%であった.

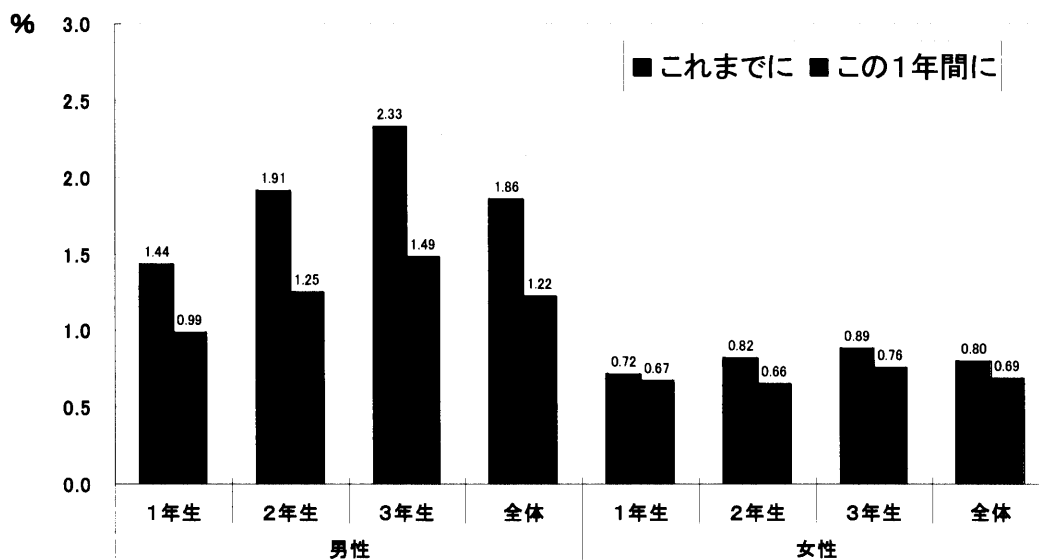


図7 薬物乱用生涯経験率  
(有機溶剤, 大麻, 覚せい剤, MDMAのいずれか)



表1は諸外国の青少年の薬物乱用の生涯経験率（これまでに、一度でも何らかの薬物乱用をした経験のある者の割合）を比較したものである。我が国の高校生を含む青少年の薬物乱用生涯経験率は欧米諸国にくらべて著しく低い（表1では、男性と女性をあわせて計算された数値を比較してある）。

表1 我が国と世界の青少年の薬物乱用の現状  
(違法薬物の生涯経験率)

国名	年	年齢	生涯経験率 (%)
日本	2004#	12	1.2
		13	1.3
		14	1.6
	2004##	15	1.1
		16	1.4
		17	1.6
	1999###	20	6.0
アメリカ合衆国	2004*	13	21.5
		15	39.8
		17	51.1
イギリス	1997**	15-16	39.8
フランス	1997**	15-16	27.5
オランダ	1999**	15-16	28.8
スペイン	1999**	15-16	32.9
スウェーデン	1999**	15-16	8.0
オーストラリア	1991***	14-24	52.0

\* National Institute on Drug Abuse: The Monitoring the Future: National Results on Adolescent Drug Use 2004

\*\*EMCDDA Annual report 2001

\*\*\*UNDCP: World Drug Report 1997

# 和田清他 「薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査2004」平成16年度厚生科学研究報告書

## 勝野真吾他「高校生の喫煙、飲酒、薬物乱用の実態と生活習慣に関する全国調査2004」

### 和田清他 「薬物使用に関する全国住民調査1999」平成11年度厚生科学研究報告書

## 6) ドーピング

### a) ドーピング経験率

男性の98.3%、女性の99.2%は「これまでドーピングをしたことがない」と回答した。男性の92.7%、女性の97.1%は「法律で禁止されているから、すべきでない」と回答し、多くのスポーツでドーピングを禁止していることについて、男性の84.9%、女性の91.3%は「当然だと思う」と回答した。

法律でドーピングを禁止していることについて、「少々ならかまわないと思う」や「守る必要はないと思う」という回答がわずかであるがみられ、男性(2.7%)は女性(0.8%)より多かった。男性の3.1%、女性の1.3%は「法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思う」と回答した。

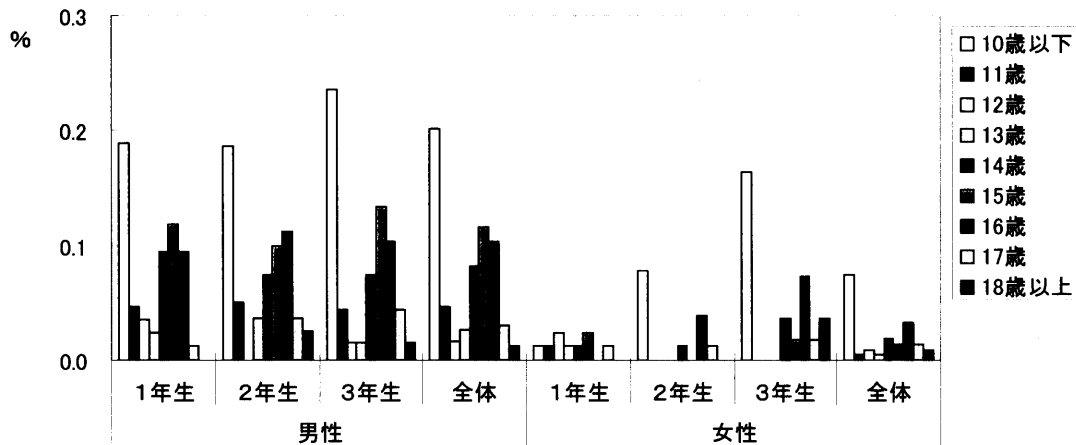


図8 ドーピングの経験率

## b) ドーピングについての知識

男性の 95.8%、女性の 95.4%は、ドーピングの定義「ドーピングがスポーツなどの競技において薬物などを使って不正に競技能力や筋力を高めること」を知っていた。しかし、「ドーピングが競技生命だけでなく、生命の危機につながる危険な行為であること」を知っていたのは男性の 63.1%、女性の 50.6%であった。

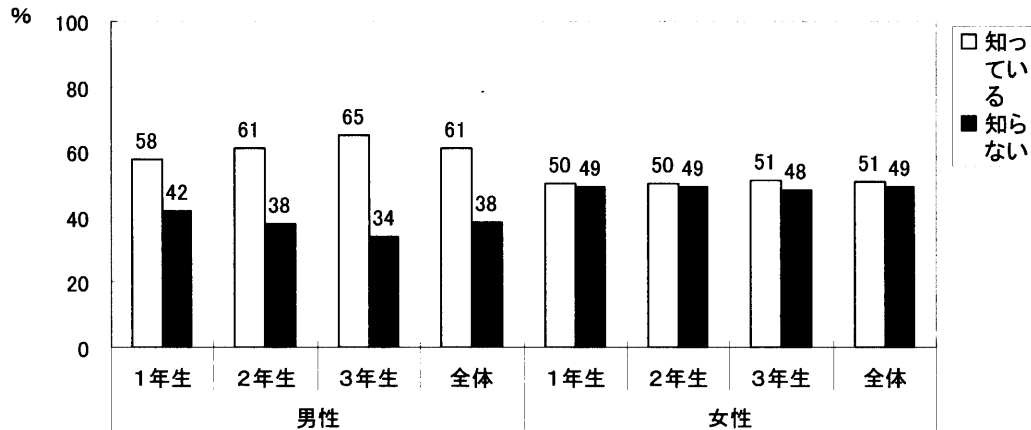


図8-2 ドーピングの危険に関する知識  
「ドーピングが競技生命だけでなく、生命の危機につながる危険な行為であることを知っている」

## c) ドーピングに対する関心

男性の 88.4%、女性の 95.1%は「ドーピングに関心がない」と回答し、男性の 83.5%、女性の 91.2%が「ドーピングをしている人は自分には無関係な人だと思う」と回答した。一方、「身近にドーピングをしている人がいる」と男性の 2.0%、女性 0.8%が回答し、「ドーピングに誘われたことがある」と回答した者は男性の 1.0%、女性の 0.4%であり、男性の 15.0%、女性 7.9%の者は「ドーピングをしている人の気持ちが理解できる気がする」と回答した。

#### 4. 飲酒と喫煙、薬物乱用の関連性

高校生の飲酒頻度と喫煙頻度の間には強い関連がある。図9はこの1年間の飲酒頻度と喫煙頻度の関係を示したものである。男性、女性ともに飲酒頻度が高いほど喫煙頻度が高い。特にほとんど毎日飲酒する者では、男性でその49.4%（156人中77人）、女性43.4%（74人中32人）がほとんど毎日喫煙をしており、常習的に飲酒する者では常習的に喫煙をする者の割合が極めて高い。

一方、この1年間に飲酒していない者の喫煙率は、男性3.45%、女性0.9%と低い。

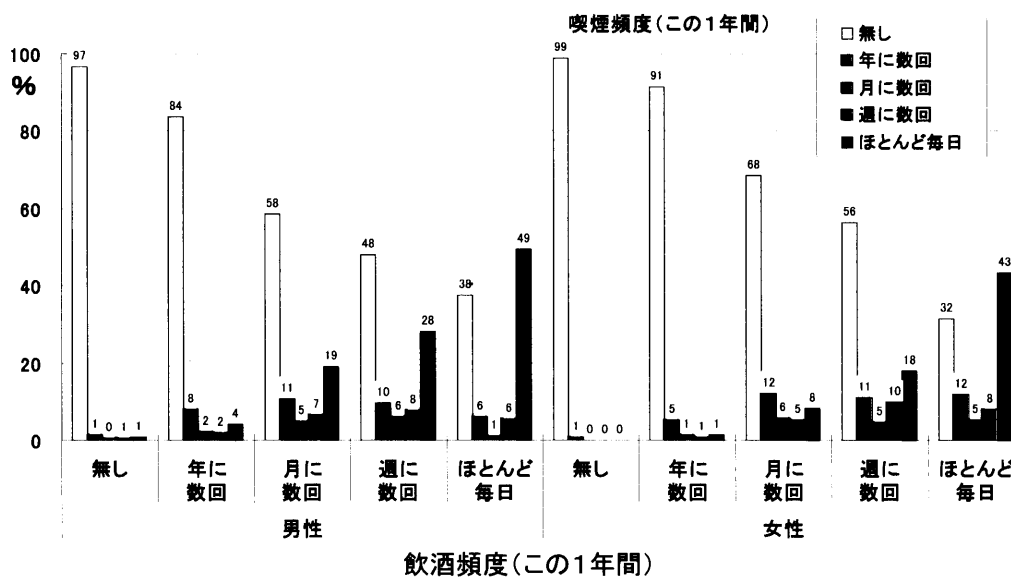


図9 飲酒頻度別喫煙頻度

高校生の飲酒頻度と薬物乱用の間にも強い関連がある。図10はこの1年間の飲酒頻度と薬物乱用（有機溶剤，覚せい剤，大麻，MDMAのいずれか）の関係を示したものである。男性，女性ともに飲酒頻度が高いほど薬物乱用の頻度が高い。特にほとんど毎日飲酒する者では，男性でその32.7%（156人中51人），女性28.4%（74人中21人）がこの1年の間に違法薬物（有機溶剤，覚せい剤，大麻，MDMAのいずれか）の乱用をしており，常習的に飲酒する者では薬物乱用をしている割合が高い。

一方，この1年間に飲酒していない者の薬物乱用率は，男性0.73%，女性0.19%と低い。

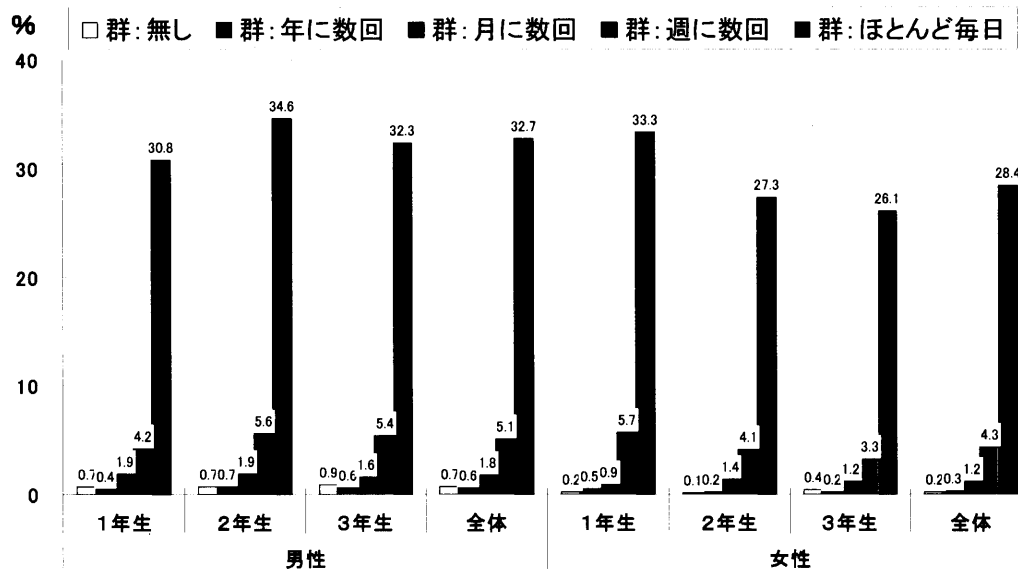


図10 年飲酒頻度別の薬物乱用率(%)  
 (有機溶剤, 大麻, 覚せい剤, MDMAのいずれか)

5. 薬物入手（有機溶剤，大麻，覚せい剤，MDMAの入手）しやすさ

a) 有機溶剤の入手

シンナー遊びをするために有機溶剤を手に入れようとした場合，男性の46.3%，女性の53.3%は「絶対不可能だ」と回答したが，男性の23.8%，女性の14.7%は「簡単に手に入る」と回答した。

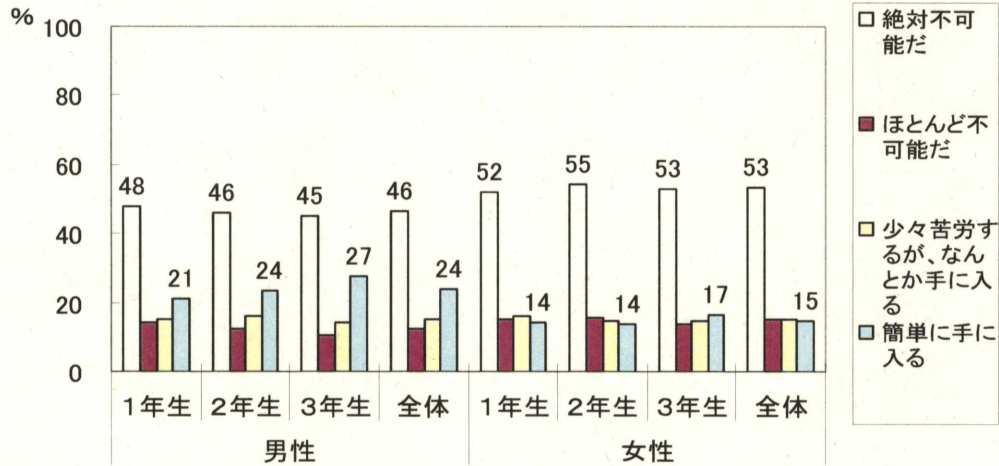


図11 有機溶剤の入手しやすさ

b) 大麻（マリファナ，ハッシシ）の入手

大麻（マリファナ，ハッシシ）を手に入れようとした場合，男性の57.5%，女性の63.3%は「絶対不可能だ」と回答したが，男性の16.0%，女性の14.0%は「何とか手に入る」，男性の8.4%，女性の6.1%は「簡単に手に入る」と回答した。

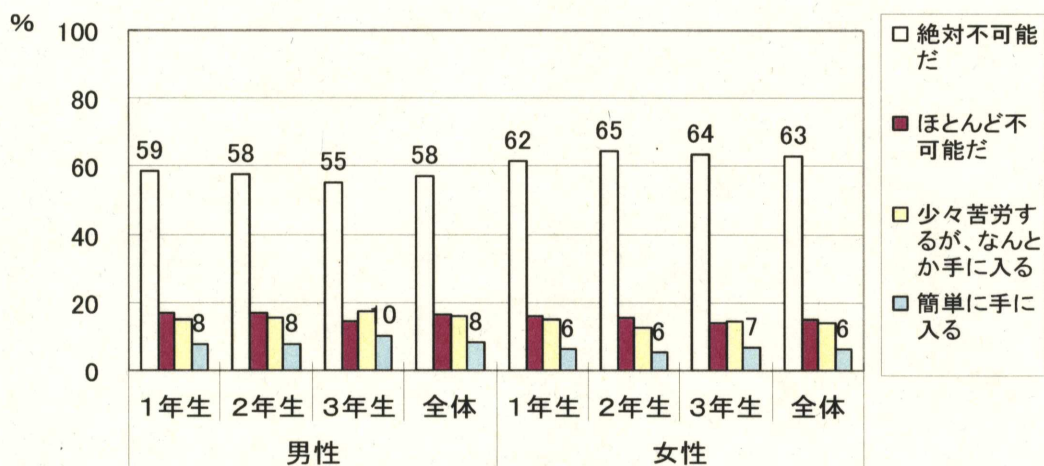


図12 大麻の入手しやすさ

c) 覚せい剤の入手

覚せい剤を手に入れようとした場合、男性の57.9%、女性の62.6%は「絶対不可能だ」と回答したが、男性の15.5%、女性の14.1%は「何とか手に入る」、男性の8.3%、女性の6.6%は「簡単に手に入る」と回答した。

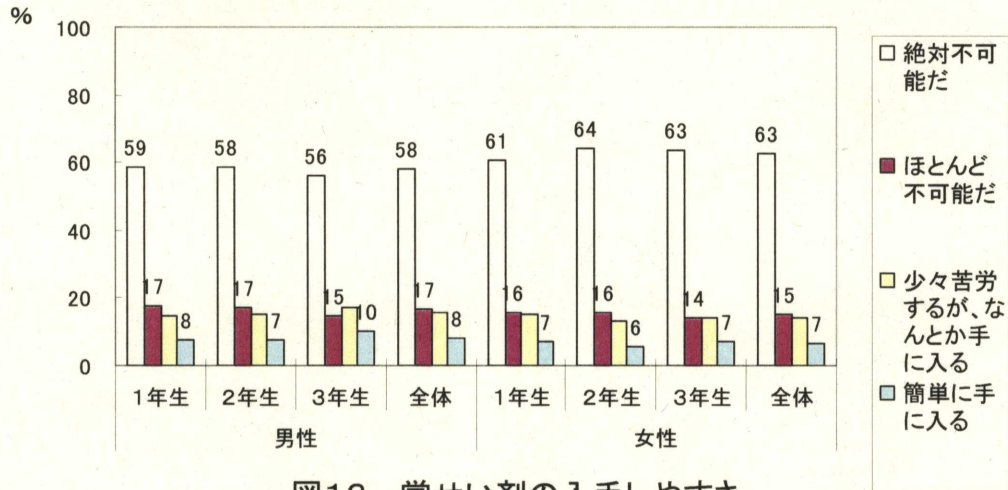


図13 覚せい剤の入手しやすさ

d) ドーピングに使う薬物の入手

ドーピングに使う薬物を手に入れようとした場合、男性の58.5%、女性の66.1%は「絶対不可能だ」と回答したが、男性の14.3%、女性の11.5%は「何とか手に入る」、男性の7.7%、女性の4.6%は「簡単に手に入る」と回答した。

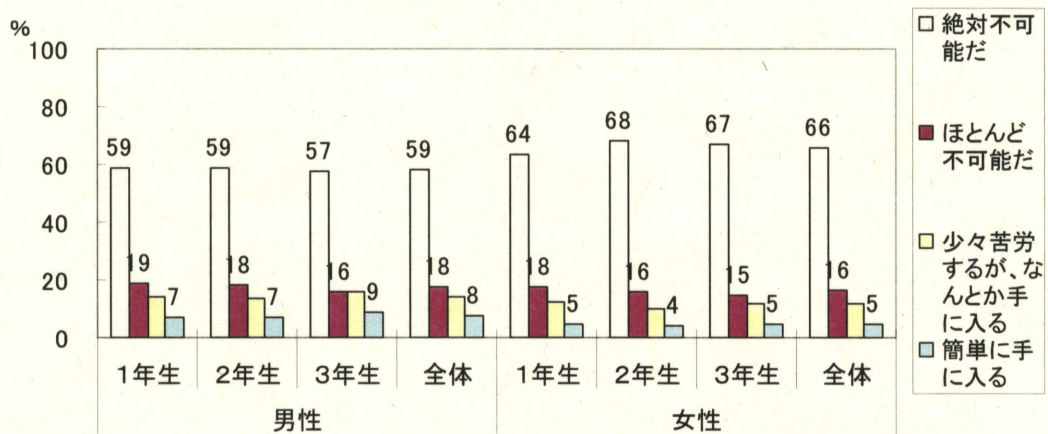


図14 ドーピング薬物の入手しやすさ

e) MDMA (エクスタシー)の入手

MDMA(エクスタシー)を手に入れようとした場合、男性の61.8%、女性の68.2%は「絶対不可能だ」と回答したが、男性の13.1%、女性の10.9%は「何とか手に入る」、男性の6.7%、女性の4.2%は「簡単に手に入る」と回答した。

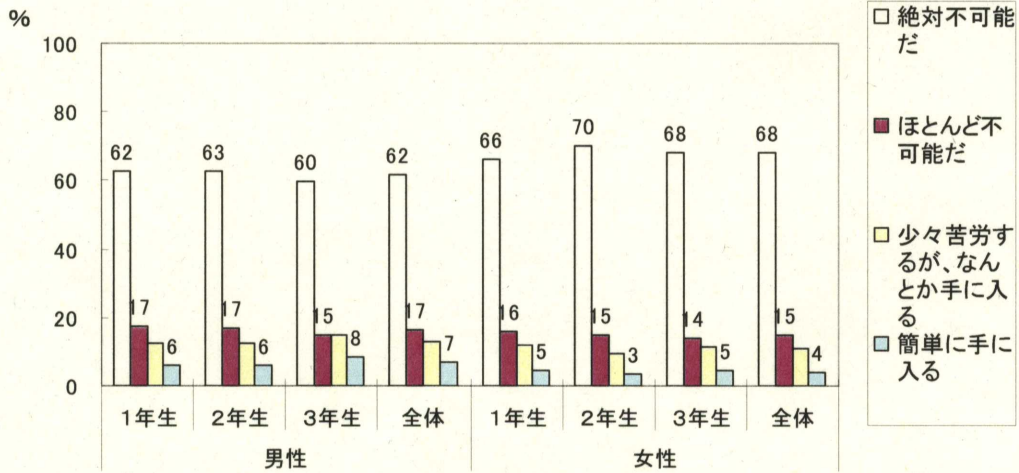


図15 MDMAの入手しやすさ



## 6. 生活習慣・学校生活

### a) 起床・就寝状況

起床時間が「ほぼ一定している」と回答したのは、男性 82.7%、女性 85.7%とかなり高かったが、就寝時間が「ほぼ一定している」と回答したのは男性 48.3%、女性 47.0%と男女とも 50%に満たなかった。学年別にみると男性では学年が上がるにつれて起床時間、就寝時間が乱れる傾向がみられた。

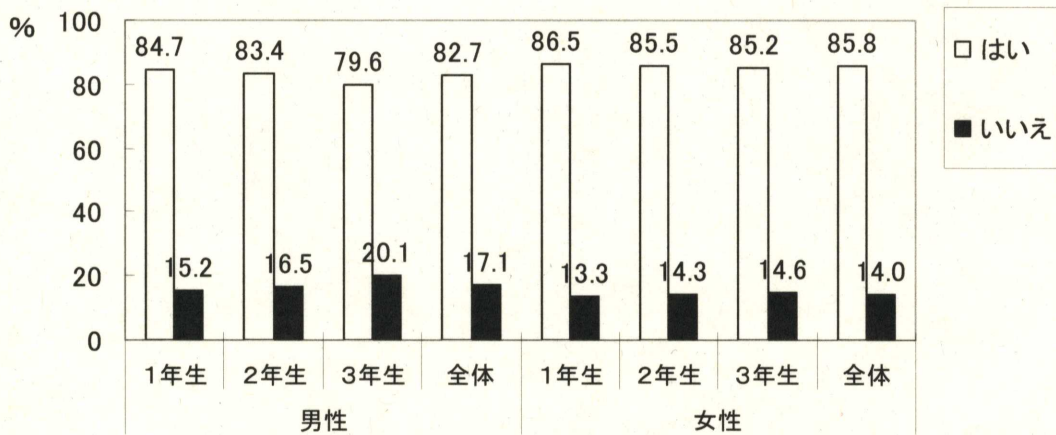


図16-1 一定した起床時間

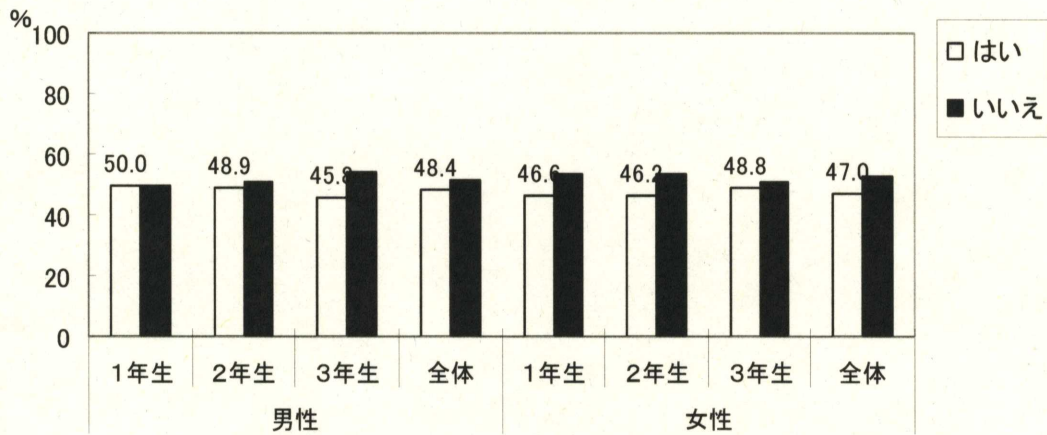


図16-2 一定した就寝時間

b) 食習慣

男性の80.5%、女性の83.3%は「毎朝、朝食を食べている」と回答したが、男性では学年が上がるにつれて毎朝、朝食を食べる者の割合が減少する傾向がみられた。

「夕食を誰と食べているか」については、男性の21.9%、女性の25.1%の者が「毎日家族全員で食べている」と回答した。毎日一緒に食べている相手は母親が最も多く、男性の42.3%、女性の53.1%であった。一方、父親とは男性の17.1%、女性15.8%の者が「ほとんど食べない」と回答し、男性の11.7%、女性の8.9%は母親とも「ほとんど食べない」と回答した。

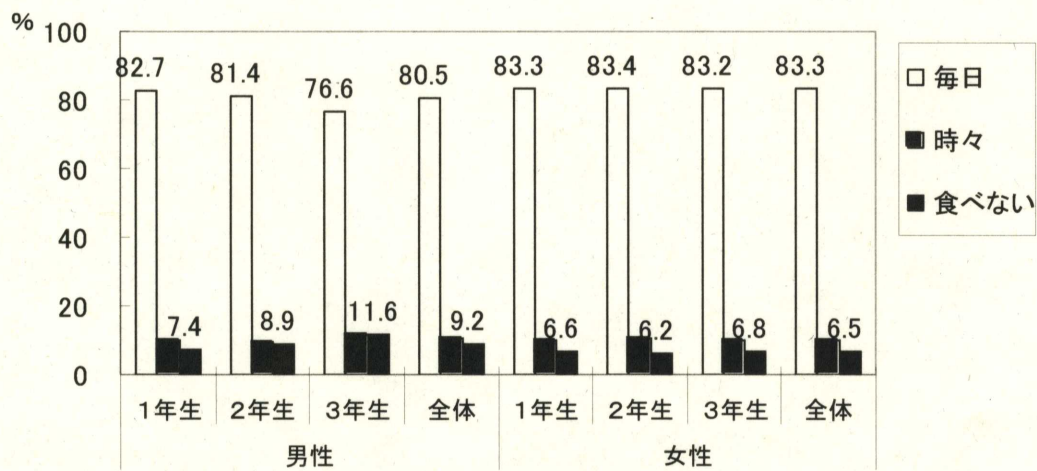


図17-1 朝食摂取

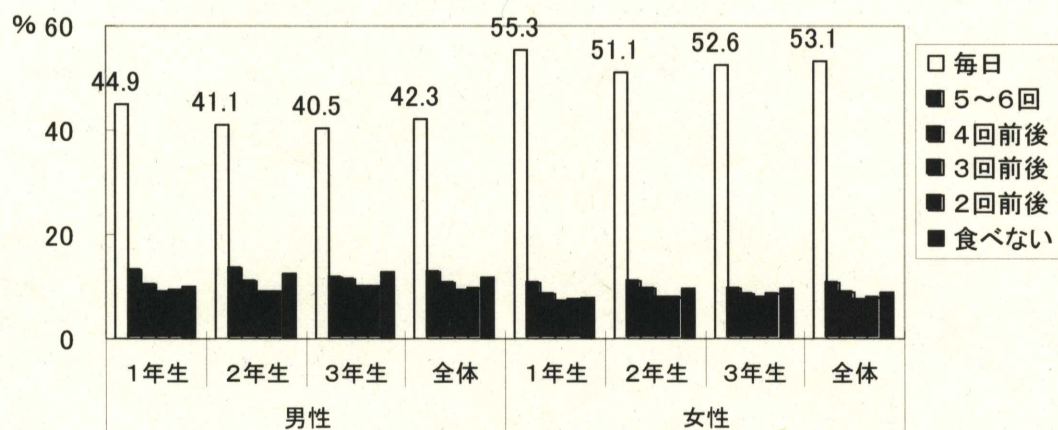


図17-2 母親と食事

c) 家族との会話

最近一ヶ月間の家族の会話についてみると、父親・母親と話をしたのはどちらも一日平均10～29分が多かった。男性の25.5%、女性の47.8%の者が「母親と一日平均1時間以上話をした」と答えたが、父親とは「ほとんど話さなかった」者が男性18.0%、女性17.8%あった。なお、男性の2.8%、女性の2.3%は「母親がいない」と回答し、男性の11.4%、女性の12.9%は「父親がいない（単身赴任、死別、別居）」と回答した。

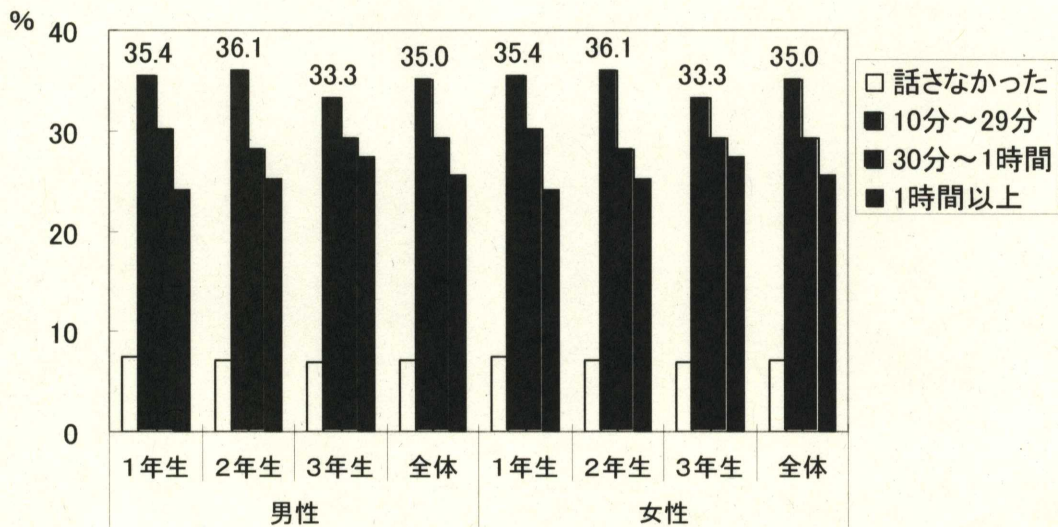


図18-1 母親との会話

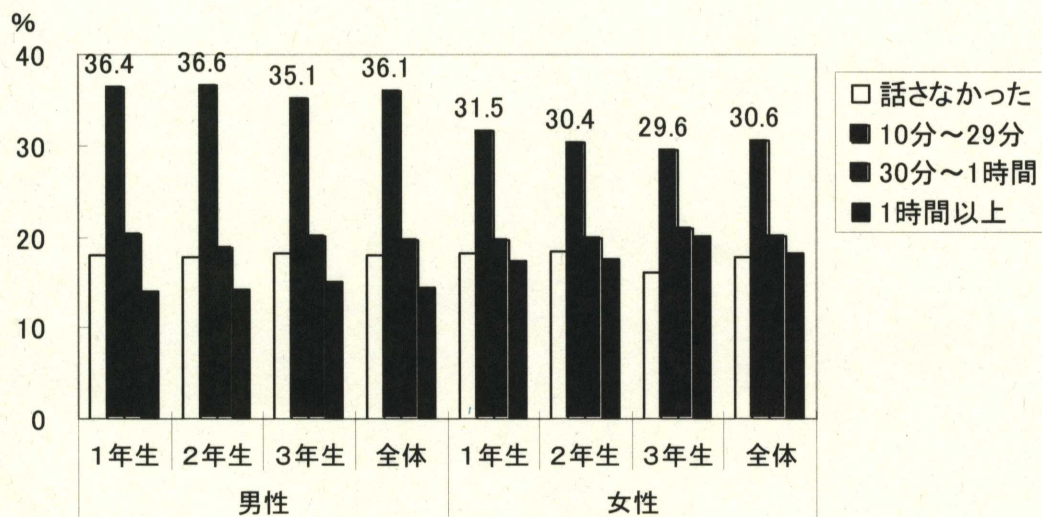


図18-2 父親との会話

d) 学校生活

「学校生活はとても楽しい」あるいは「どちらかといえば楽しい」と男子の75.2%、女子の82.5%が回答した。一方、男子の6.3%、女子の3.3%は「まったく楽しくない」と回答した。

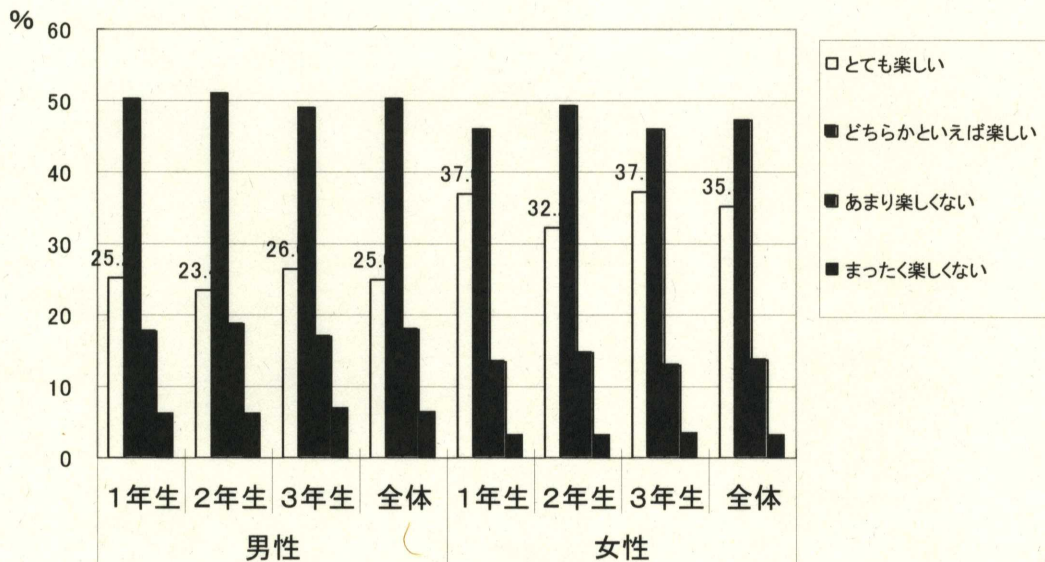


図19 学校生活

e) クラブ活動への参加

「クラブ活動へ積極的に参加している」と回答した者は、男性51.6%、女性49.1%と男性の参加率は女性より高かった。学年別にみると、男性では1年61.7%、2年53.4%、3年36.8%、女性では1年56.4%、2年51.6%、3年34.8%と学年が上がるにつれて減少する傾向がみられ、積極的に参加している者の割合が中学3年生で急減した。実際に学校の運動部に入っている者は男性53.5%、女性32.9%、学校外のスポーツクラブに入っている者は男性35.9%、女性57.4%で、週に3日以上運動・スポーツをしている者は男性52.6%、女性29.9%であった。一方、男性の21.2%、女性の46.5%の者は「運動・スポーツをしない」と回答した。

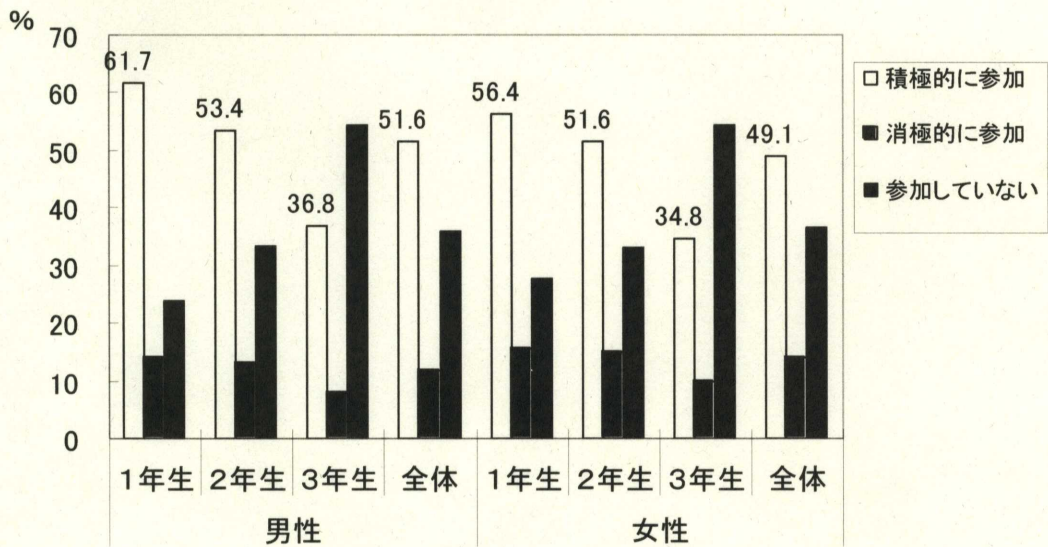


図20 クラブ活動

f) 毎日の生活

最近の毎日の生活については、男性の42.9%、女性の51.9%が「楽しい」と回答した。男性の93.2%、女性の96.3%は「親しく遊べる友人がいる」と回答し、男性の21.0%、女性の16.8%は「大人が不在の状態です毎日平均3時間以上過ごす」と回答した。アルバイトをしていない者は男性81.4%、女性74.7%であった。一方、男性の5.1%、女性の5.9%は週に20時間以上のアルバイトをしていた。

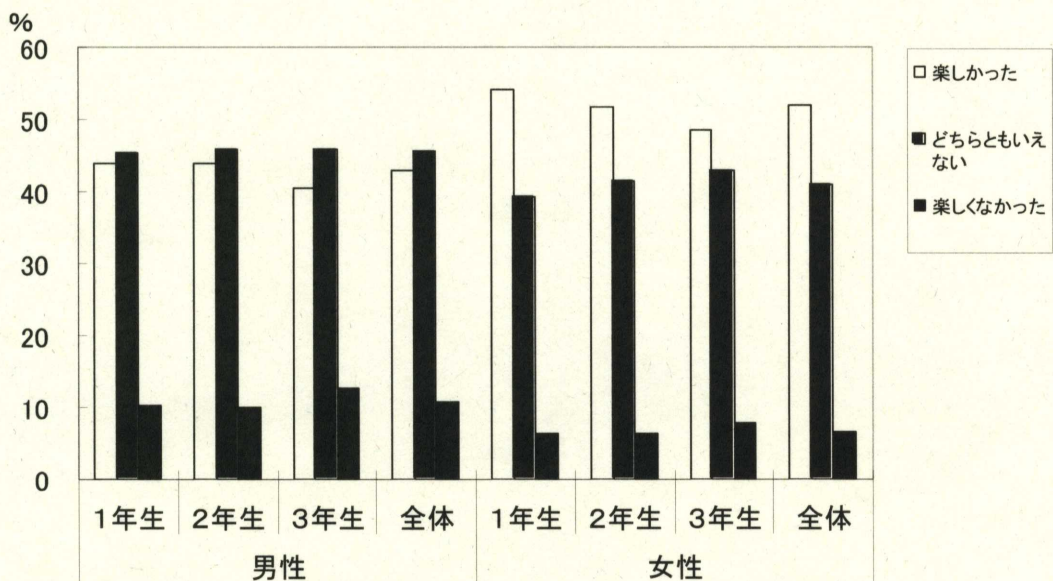


図20 毎日の生活

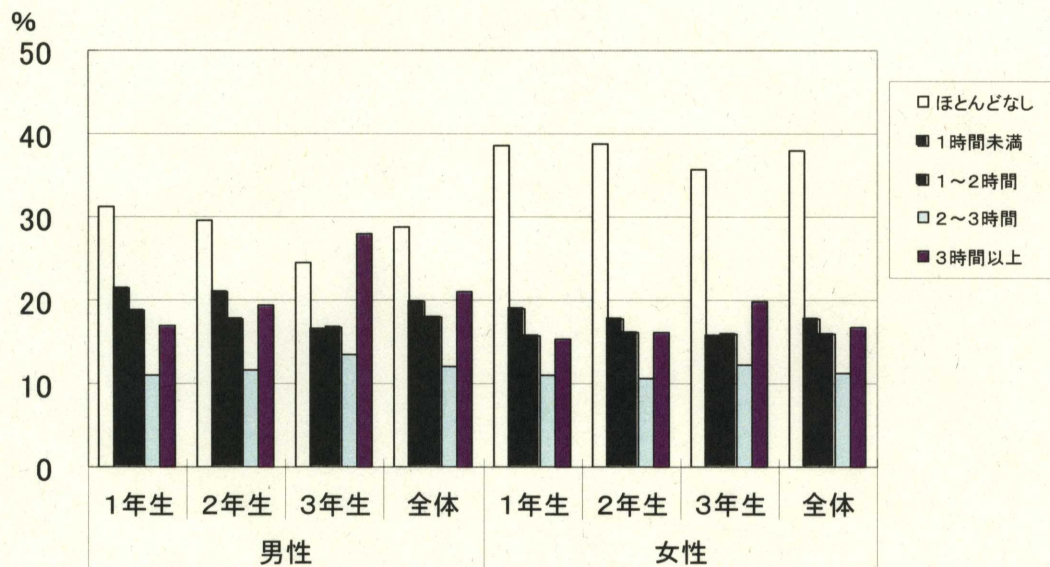


図21 大人不在で過ごした時間

g) 相談相手

男性の84.2%, 女性の92.6%は「相談事のできる友人がいる」と回答した. 男性の8.9%, 女性の17.1%は「親に悩みをよく相談する」と回答し, 女性は男性に比べて多い傾向がみられた. 一方, 男性の42.2%, 女性の30.3%は「親にほとんど相談しない方である」と回答した.

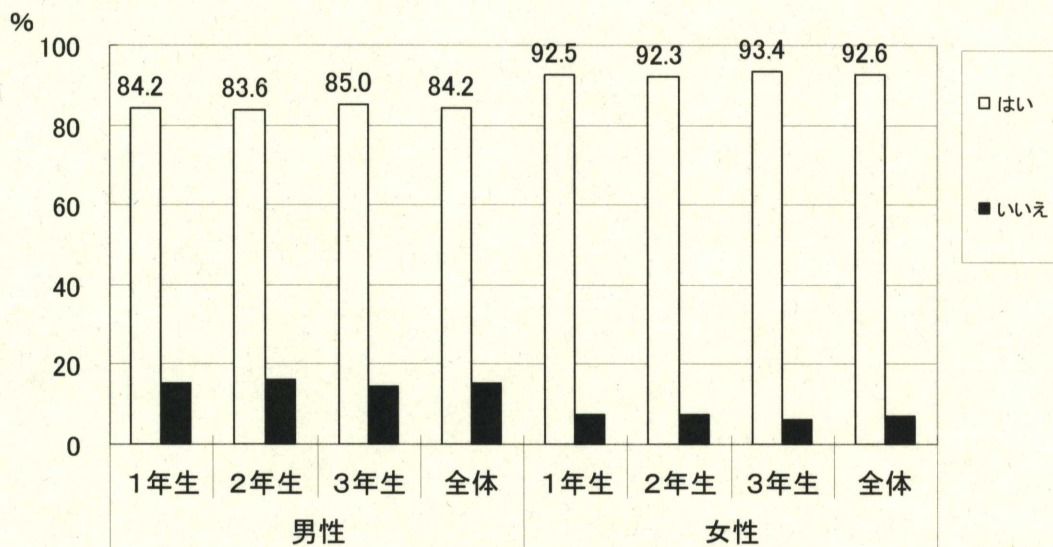
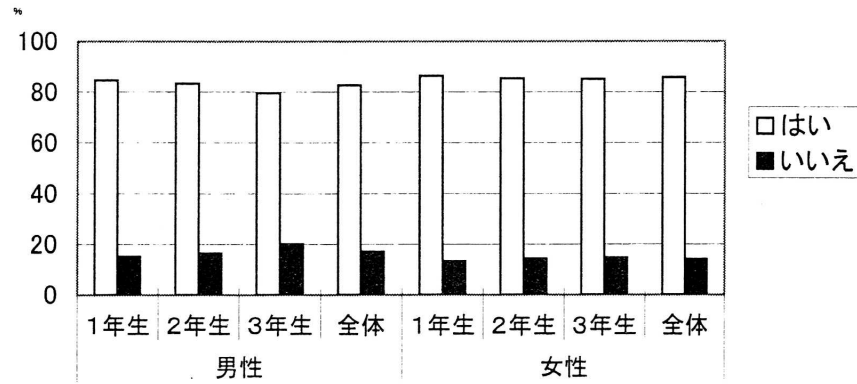


図22 相談できる友人の有無

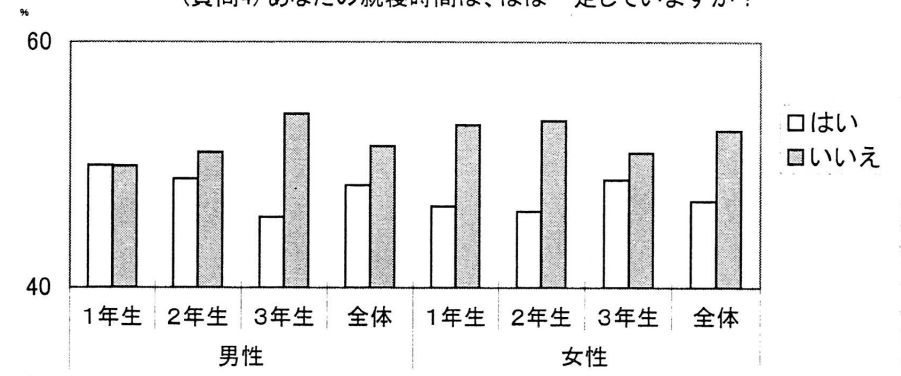
V 基礎資料

1. 各項目の学年、性、年齢別出現頻度 (図)

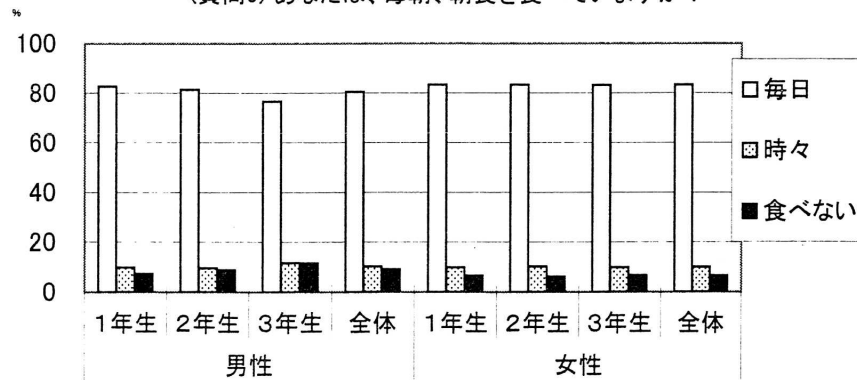
(質問3) あなたの起床時間は、ほぼ一定していますか？



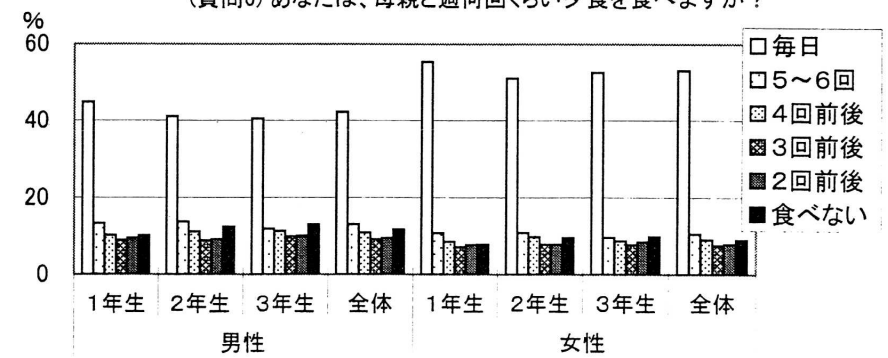
(質問4) あなたの就寝時間は、ほぼ一定していますか？



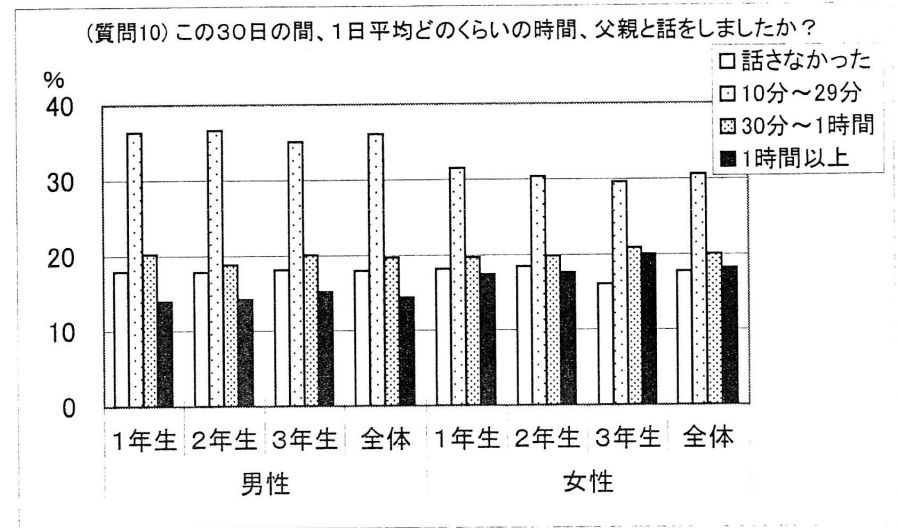
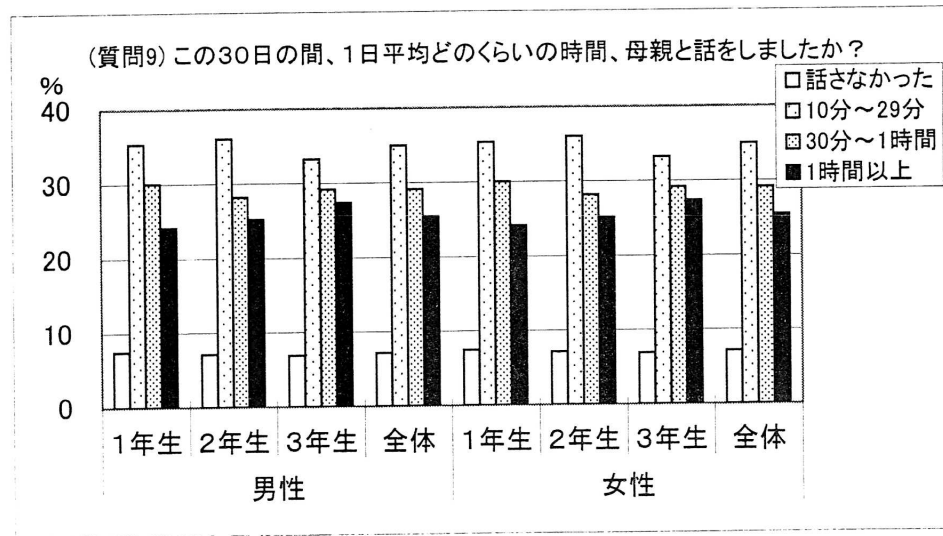
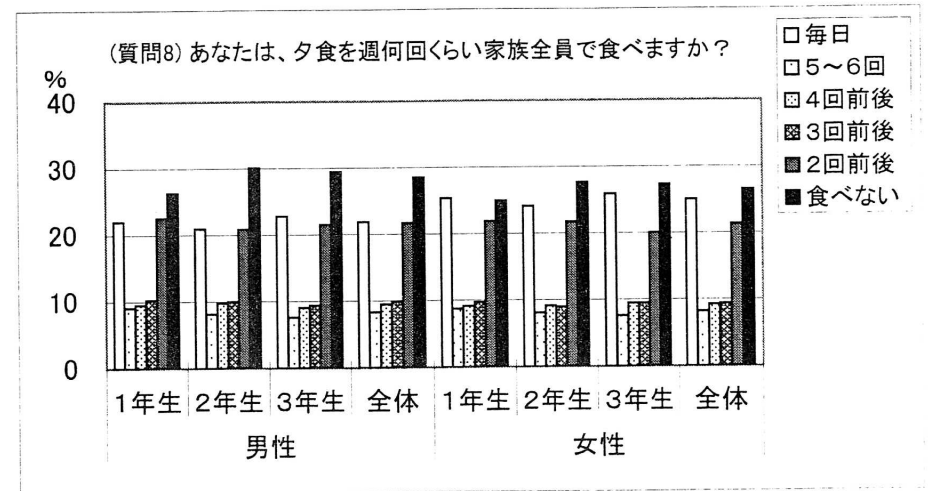
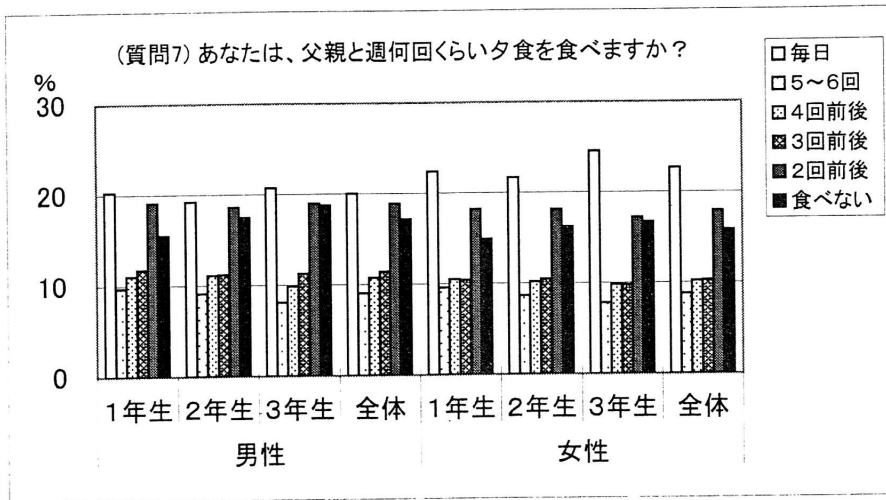
(質問5) あなたは、毎朝、朝食を食べていますか？



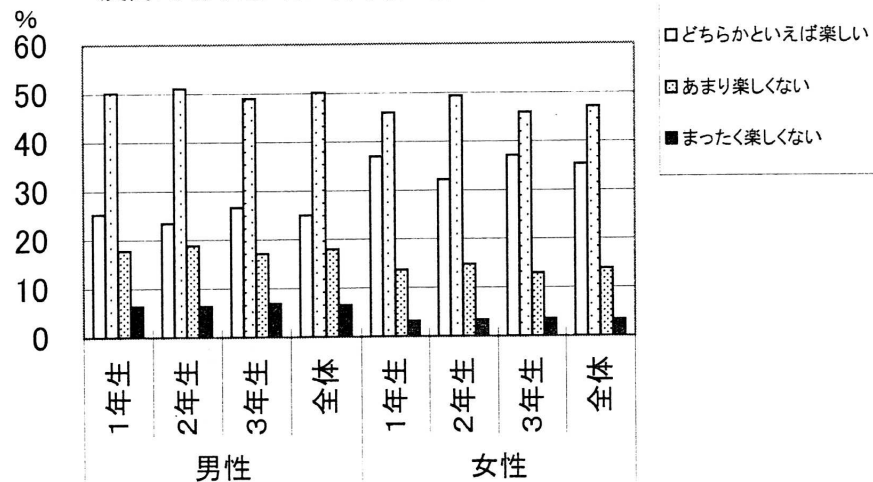
(質問6) あなたは、母親と週何回くらい夕食を食べますか？



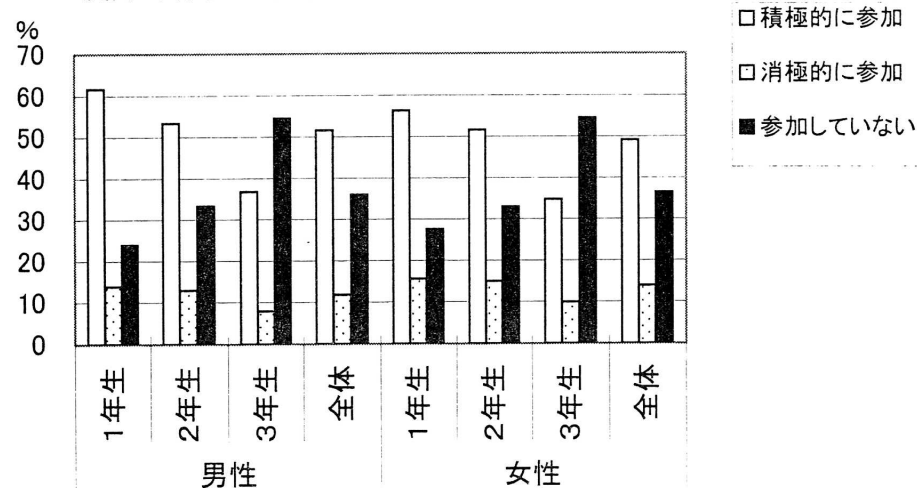




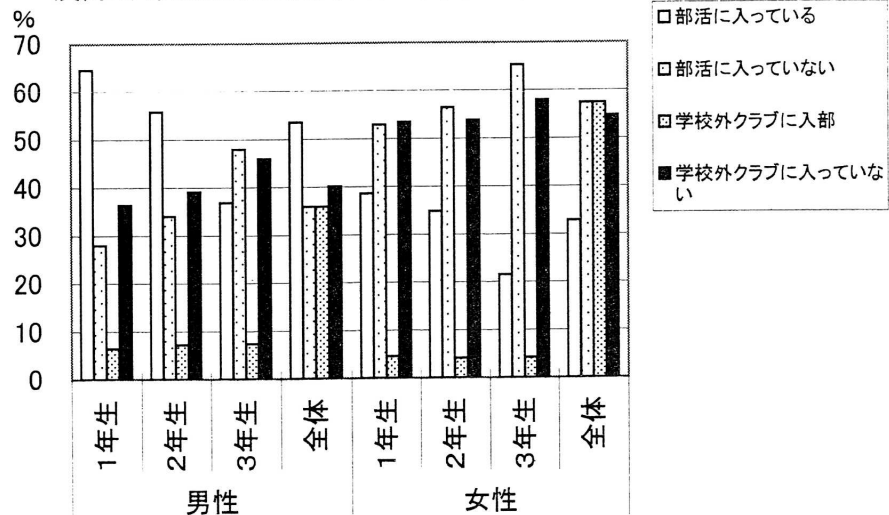
(質問11) あなたにとって、学校生活は次のどれですか？□とても楽しい



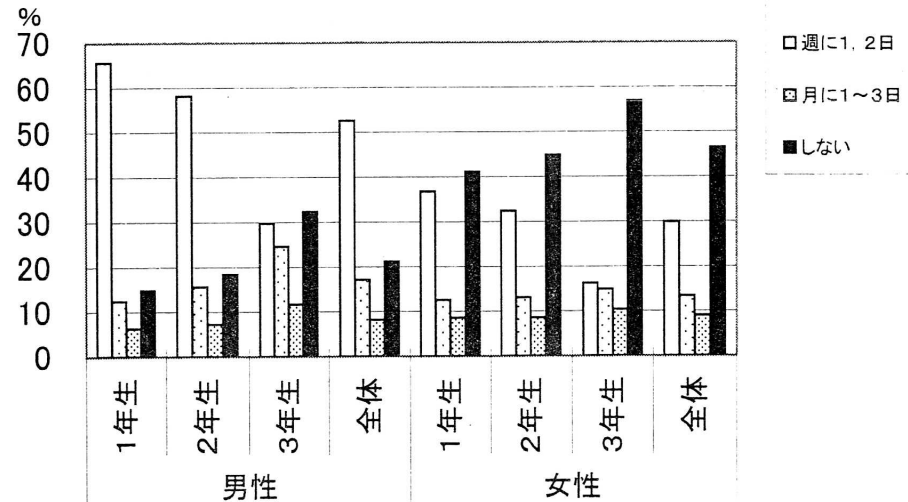
(質問12) あなたは、クラブ活動(部活)に参加していますか？



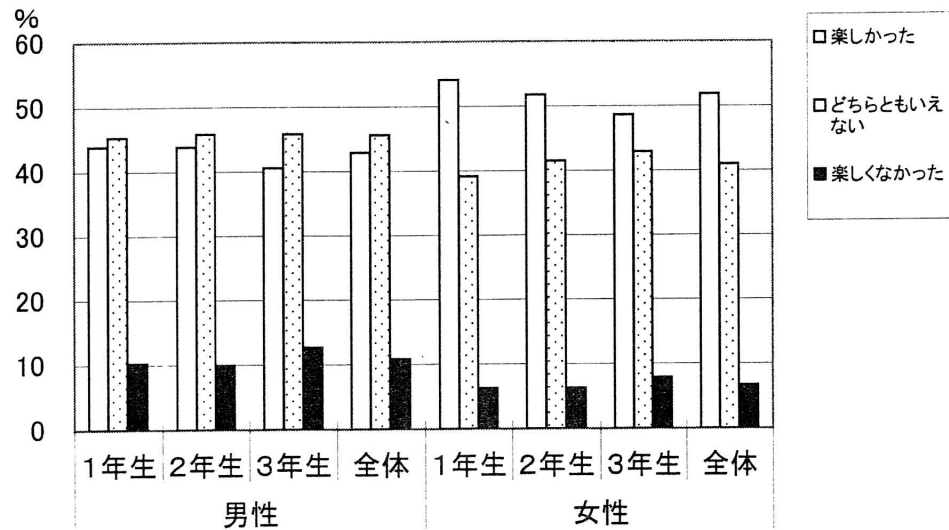
(質問13) あなたは、運動部やスポーツクラブに入っていますか？



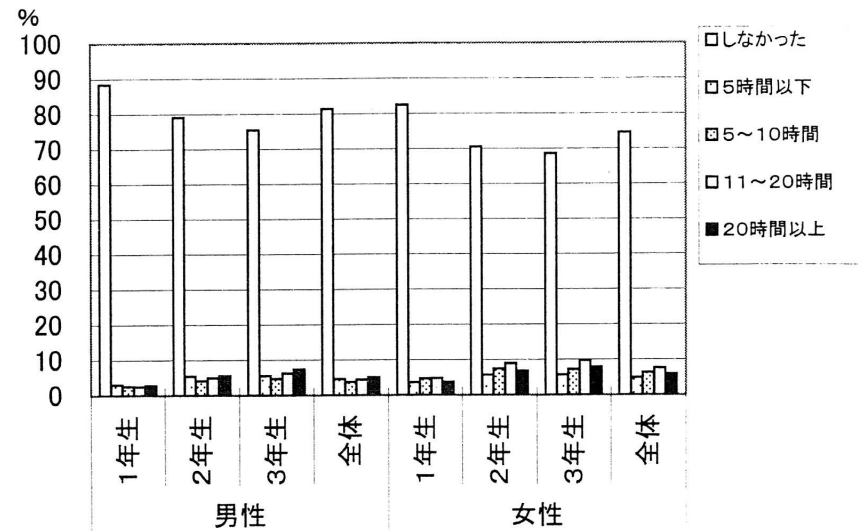
(質問15) あなたは、運動・スポーツをどのくらいしていますか？



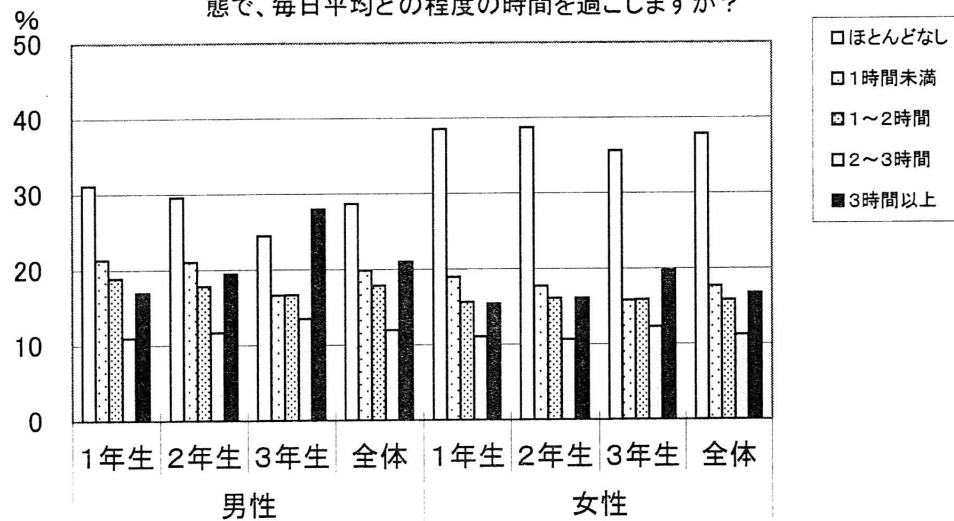
(質問16) この30日の間を通して見た時、あなたの毎日は楽しかったですか？



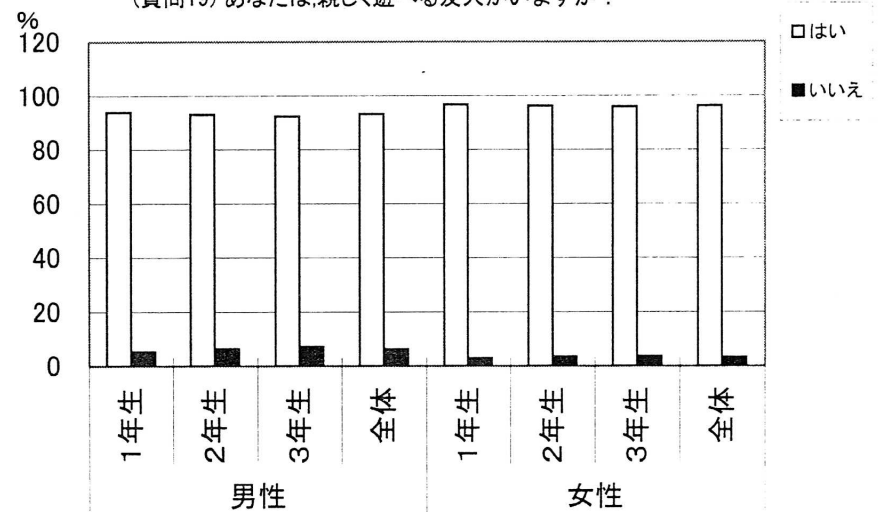
(質問17) この1年の間、あなたは週平均どのくらいアルバイトをしましたか？



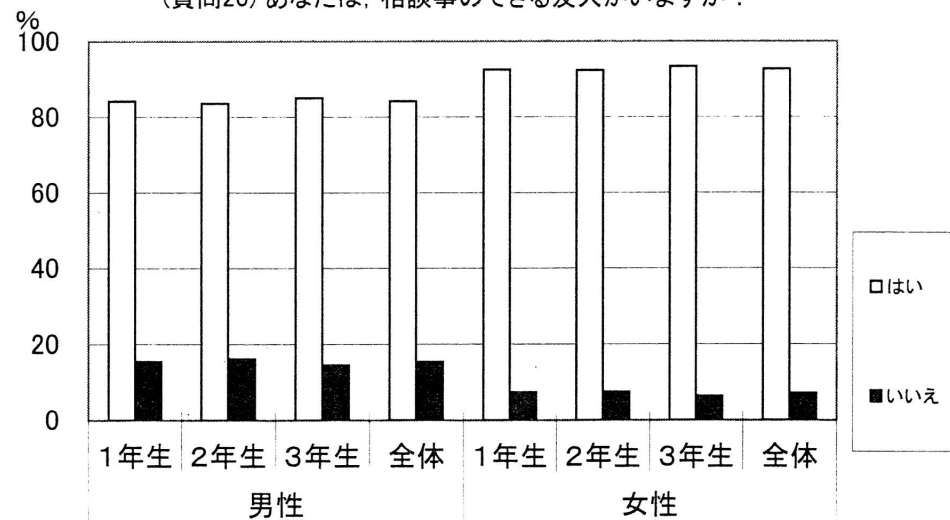
(質問18) あなたは、学校、予備校・習い事、運動の時間以外、大人が不在の状態で、毎日平均どの程度の時間を過ごしますか？



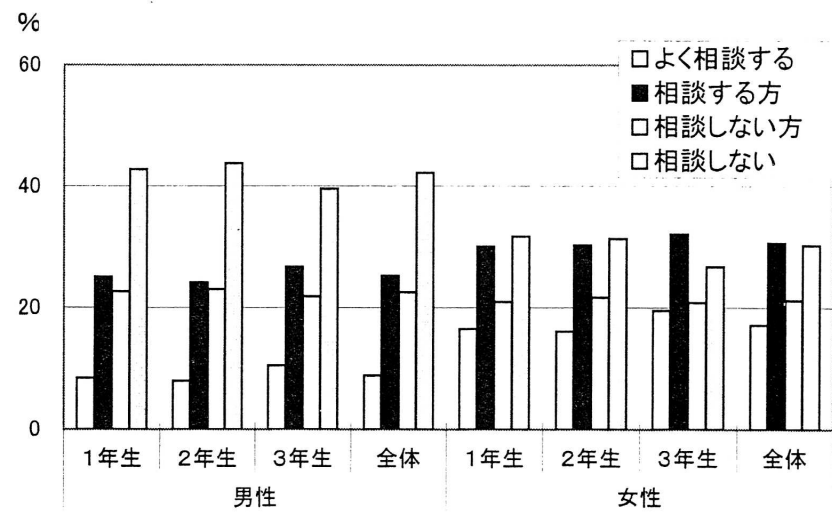
(質問19) あなたは、親しく遊べる友人がいますか？



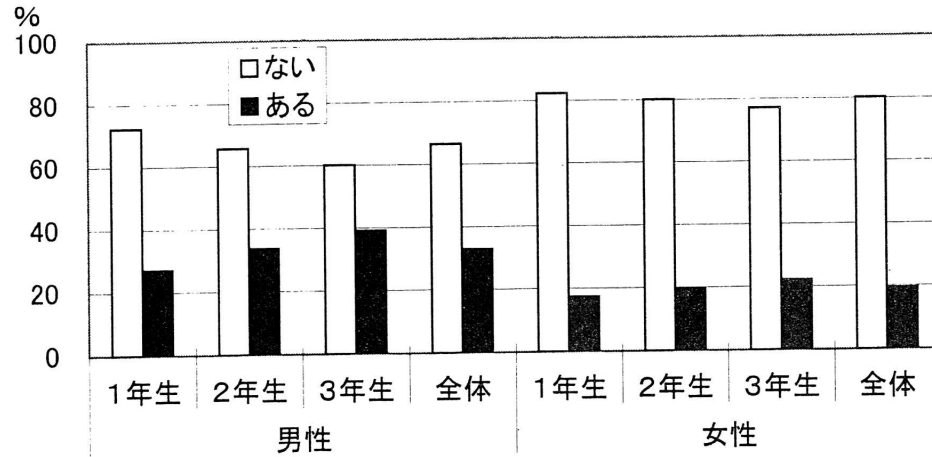
(質問20) あなたは、相談事のできる友人がいますか？



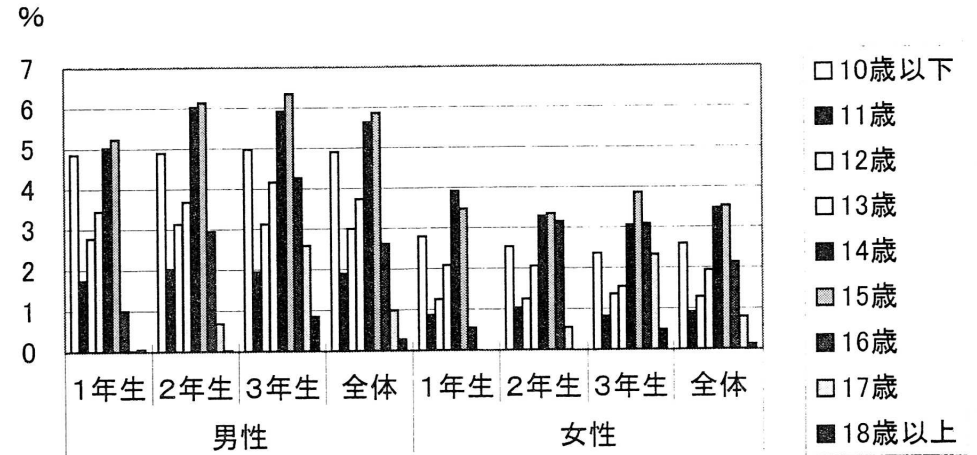
(質問21) あなたは、悩みごとがある時、親と相談する方だと思いますか？



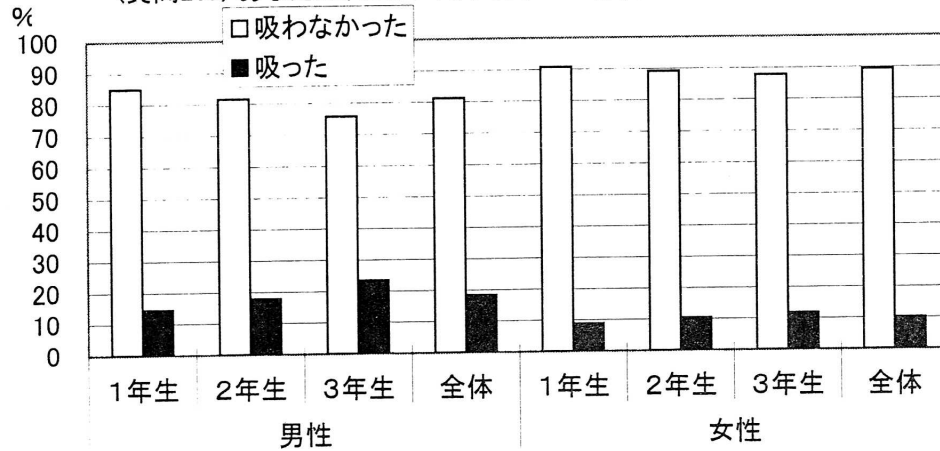
(質問22a) あなたは、これまでに1回でも、タバコを吸ったことがありますか？



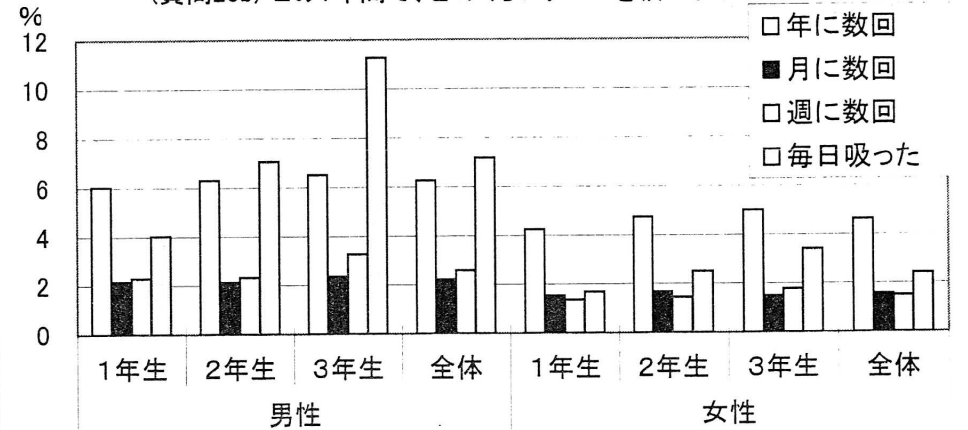
(質問22b) 初めてタバコを吸った時の年齢はいくつでしたか？



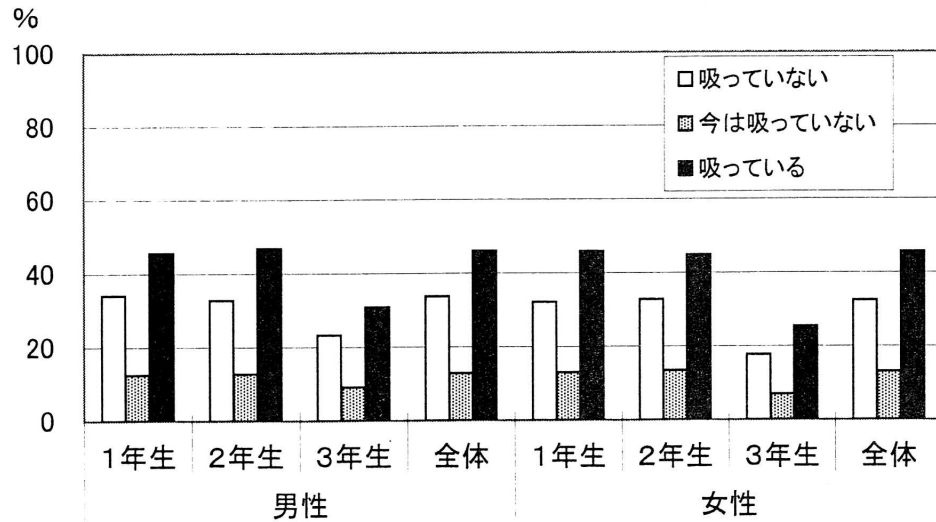
(質問23a) あなたは、この1年間で、タバコを吸ったことがありますか？



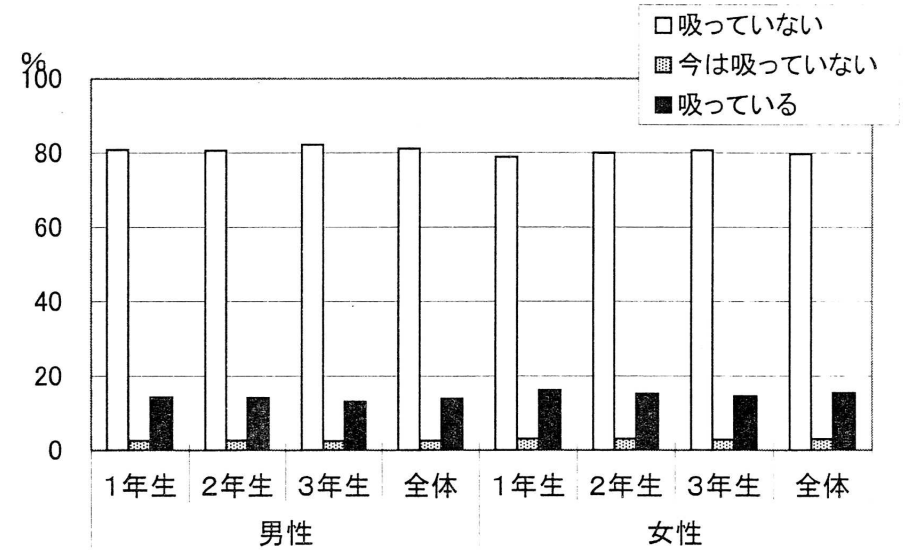
(質問23b) この1年間で、どのくらいタバコを吸いましたか？



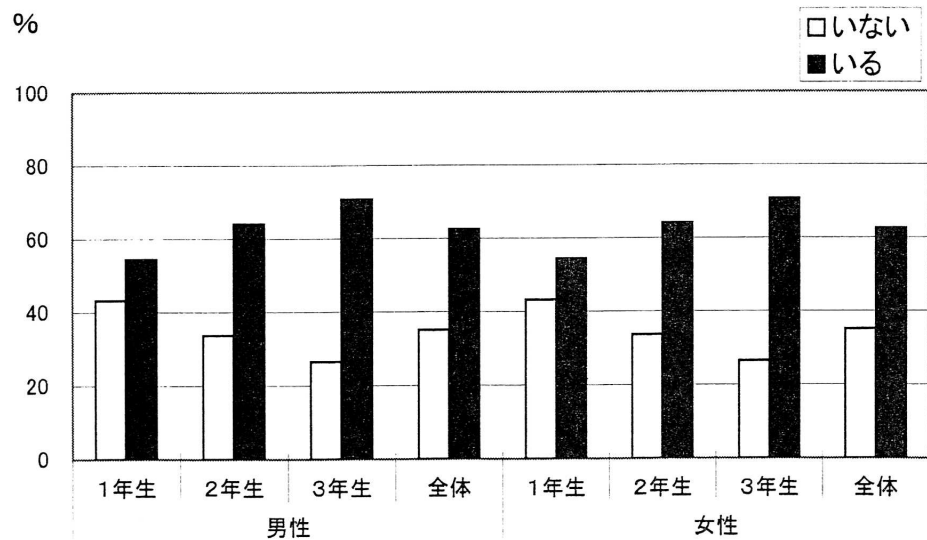
(質問24) あなたの父親はタバコを吸っていますか？



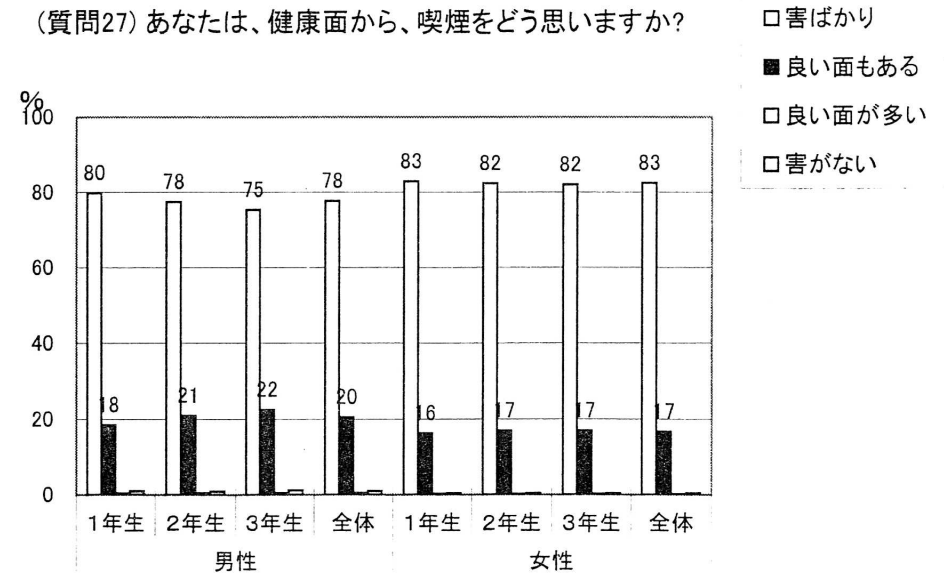
(質問25) あなたの母親はタバコを吸っていますか？



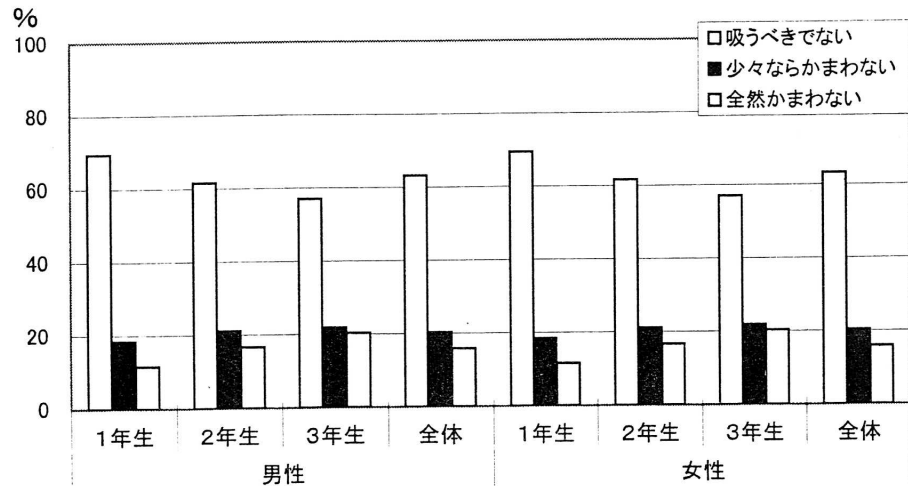
(質問26) タバコを吸う友だちがいますか？



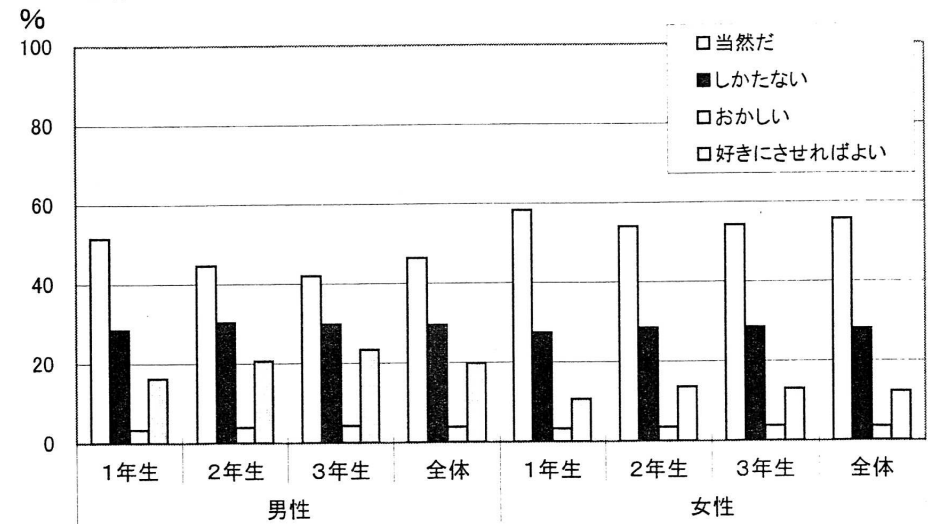
(質問27) あなたは、健康面から、喫煙をどう思いますか？



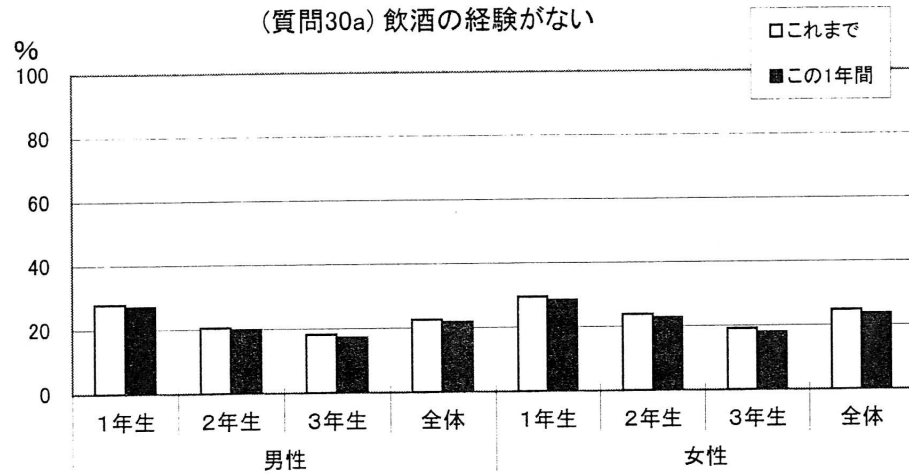
(質問28) あなたは未成年者の喫煙をどう思いますか？



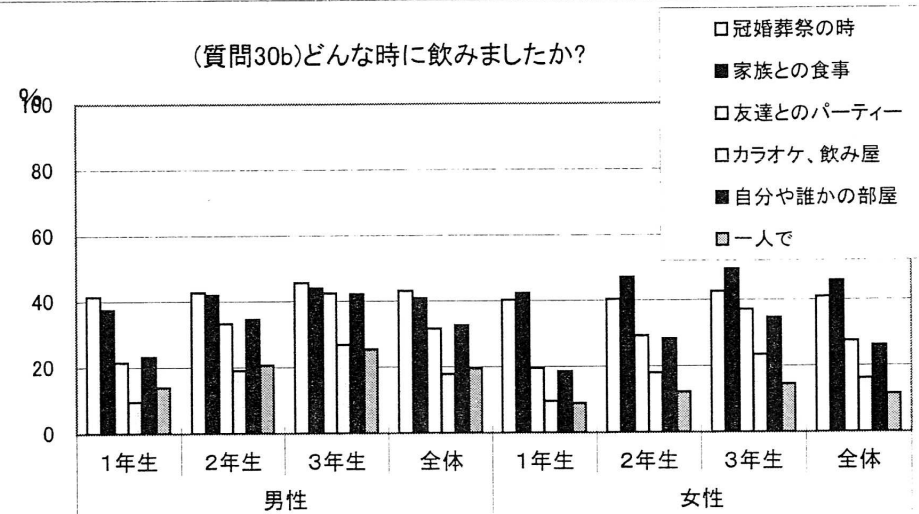
(質問29) あなたは、未成年者の喫煙禁止をどう思いますか？

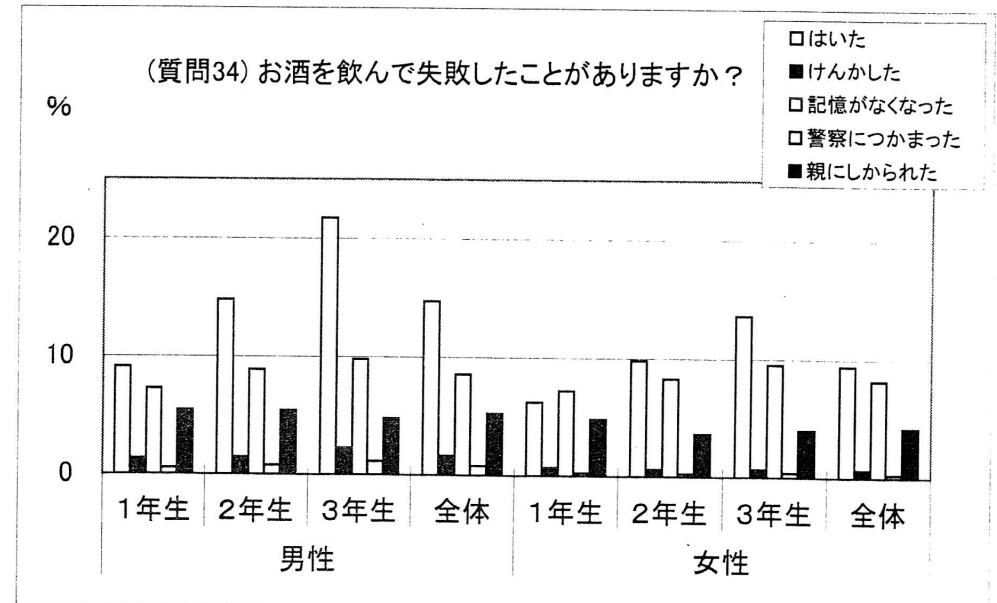
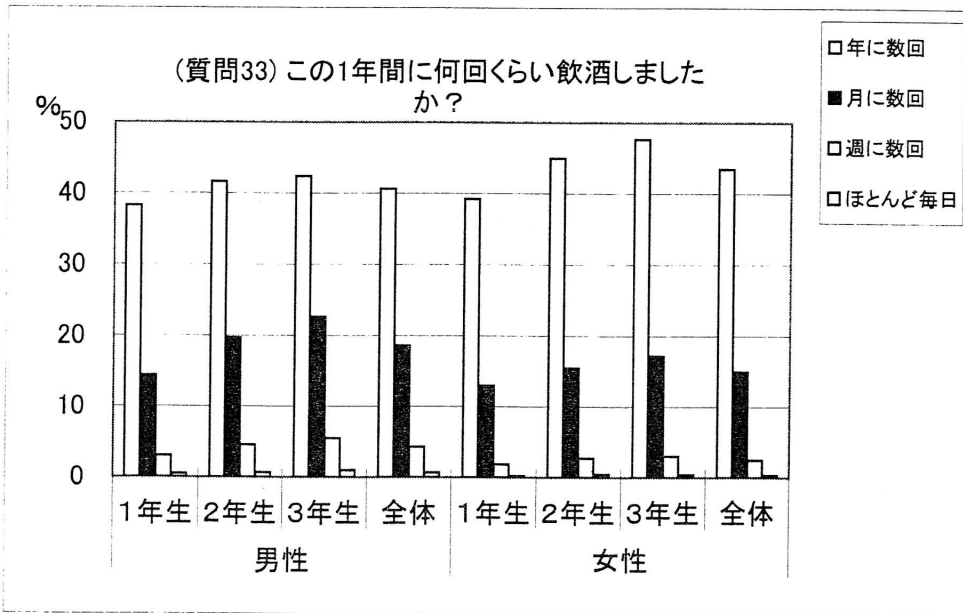
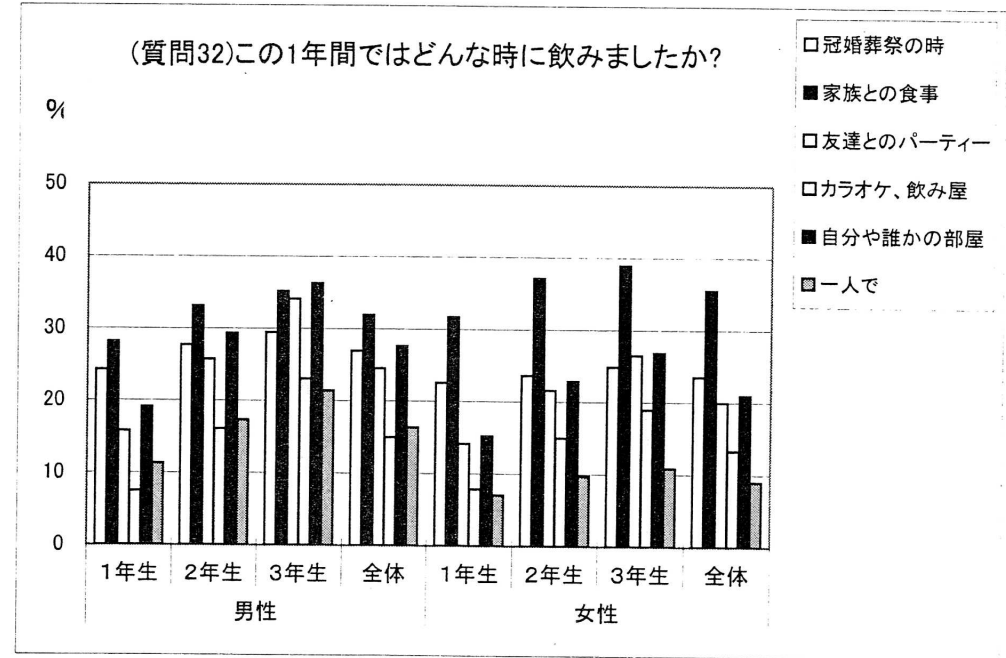
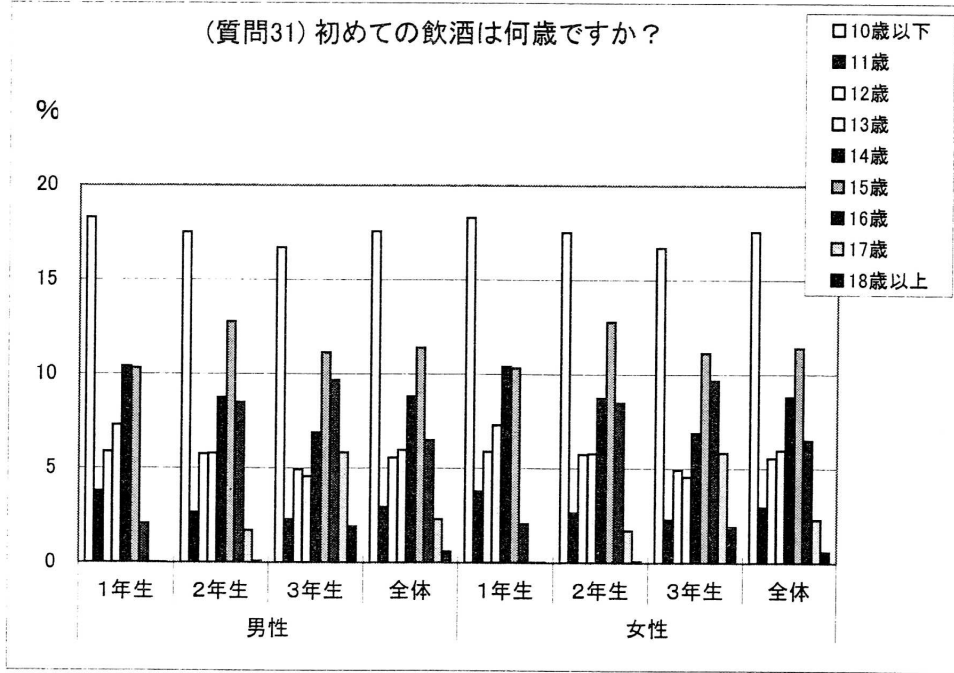


(質問30a) 飲酒の経験がない



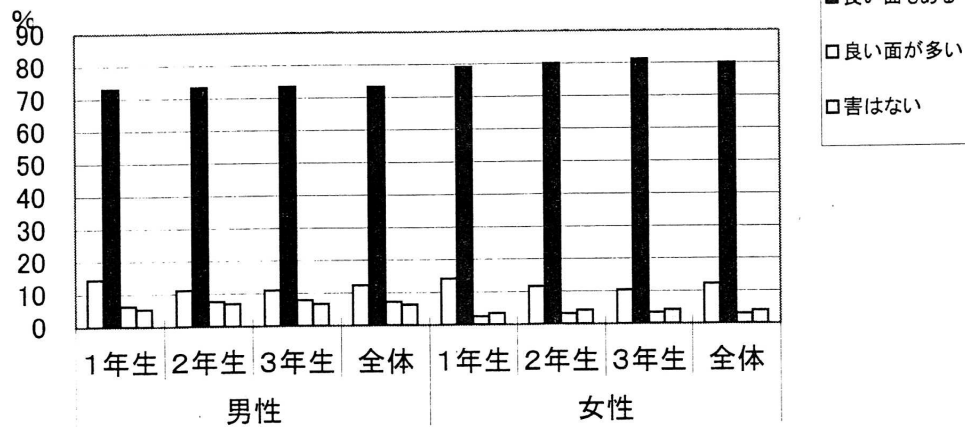
(質問30b) どんな時に飲みましたか？



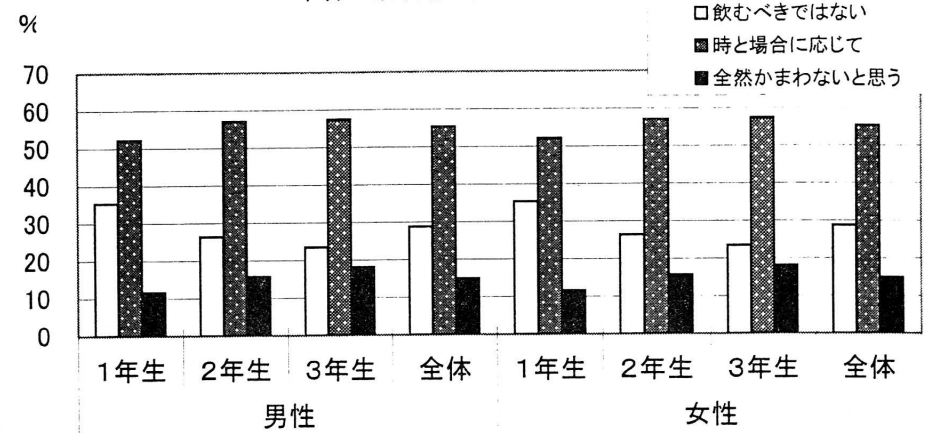




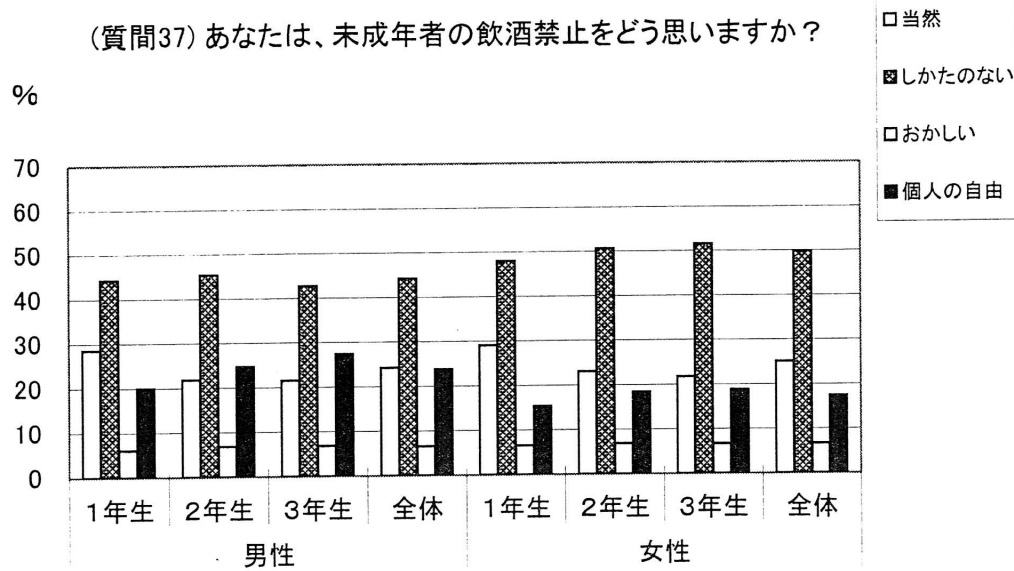
(質問35) あなたは、健康面から、飲酒をどう思います



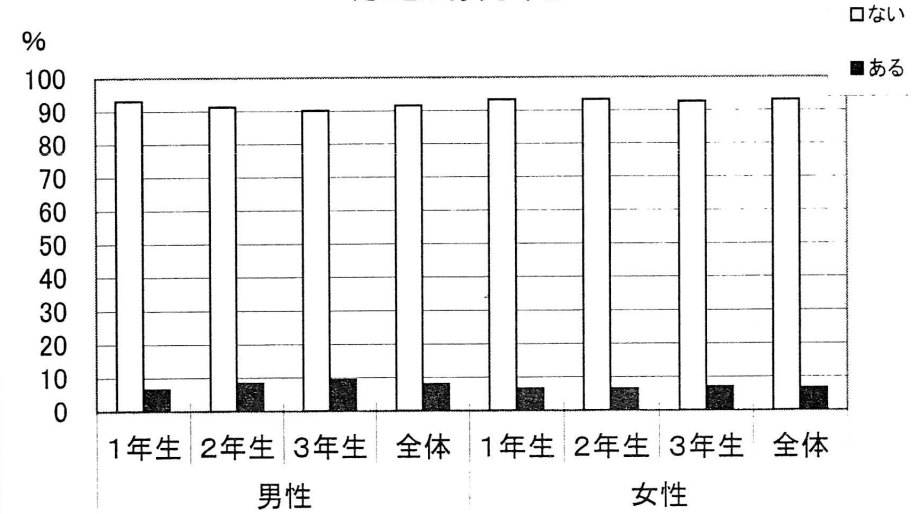
(質問36) 未成年者の飲酒は禁止されていますが、あなたは、未成年者の飲酒をどう思いますか？



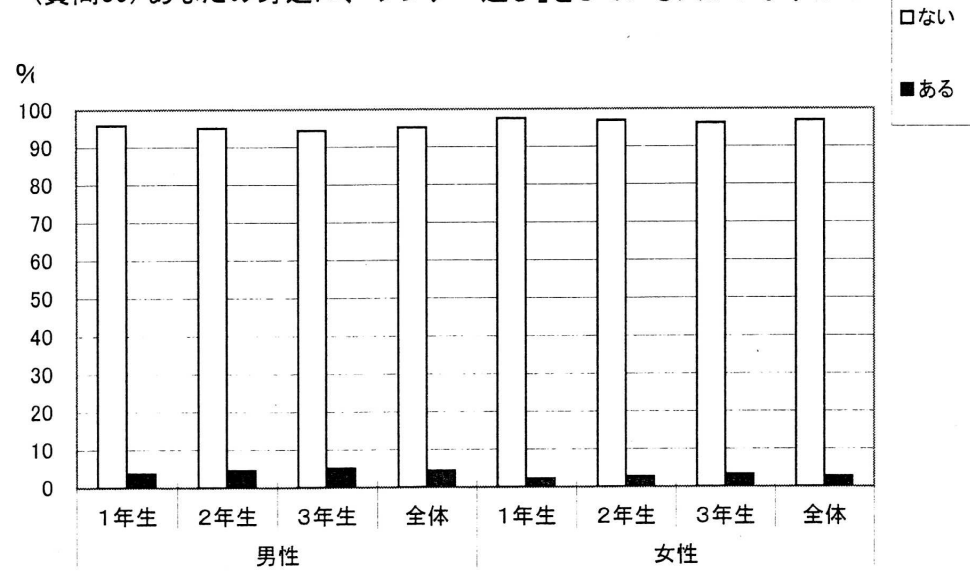
(質問37) あなたは、未成年者の飲酒禁止をどう思いますか？



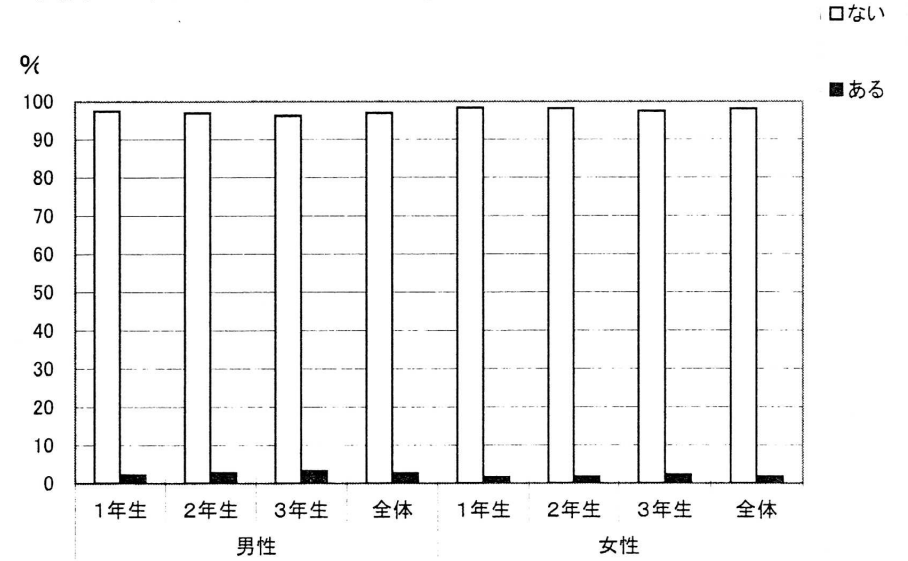
(質問38) あなたは、「シンナー遊び」をしているところを実際に見たことがありますか？



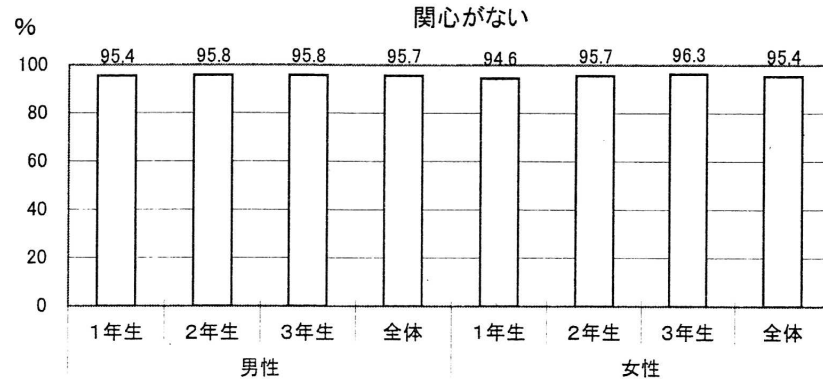
(質問39) あなたの身近に、「シンナー遊び」をしている人がいますか？



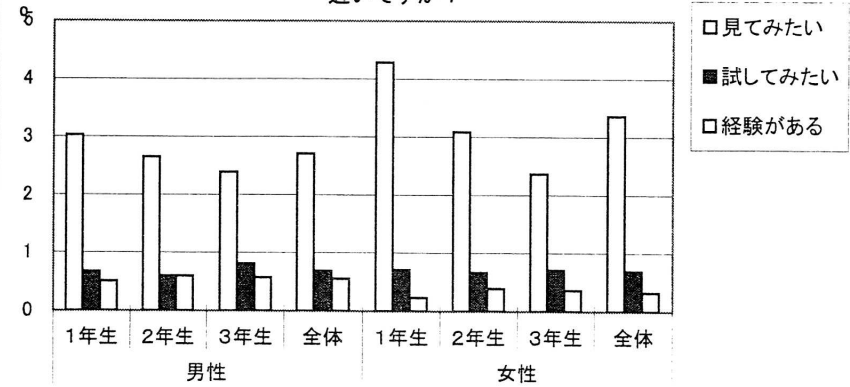
(質問40) あなたは、「シンナー遊び」に誘われたことがありますか？



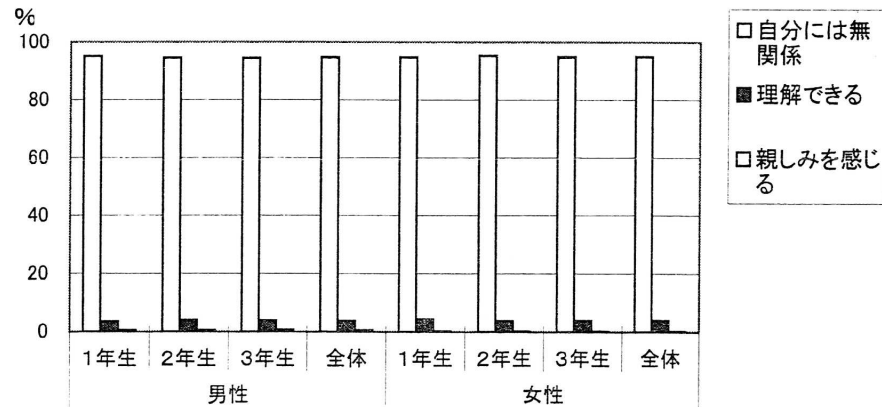
(質問41a) 「シンナー遊び」について、あなたの気持ちは次のどれに最も近いですか？



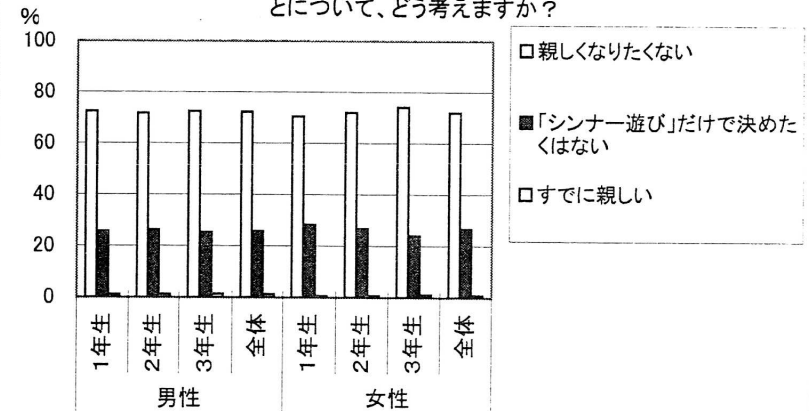
(質問41b) 「シンナー遊び」について、あなたの気持ちは次のどれに最も近いですか？

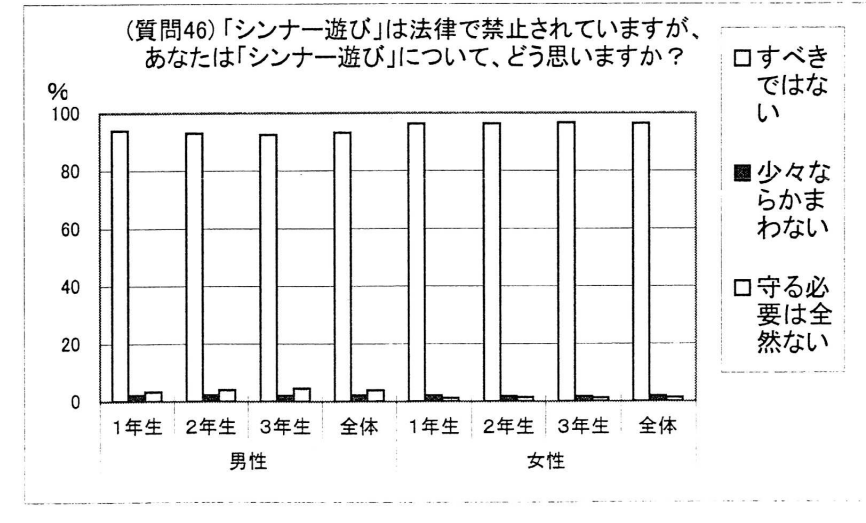
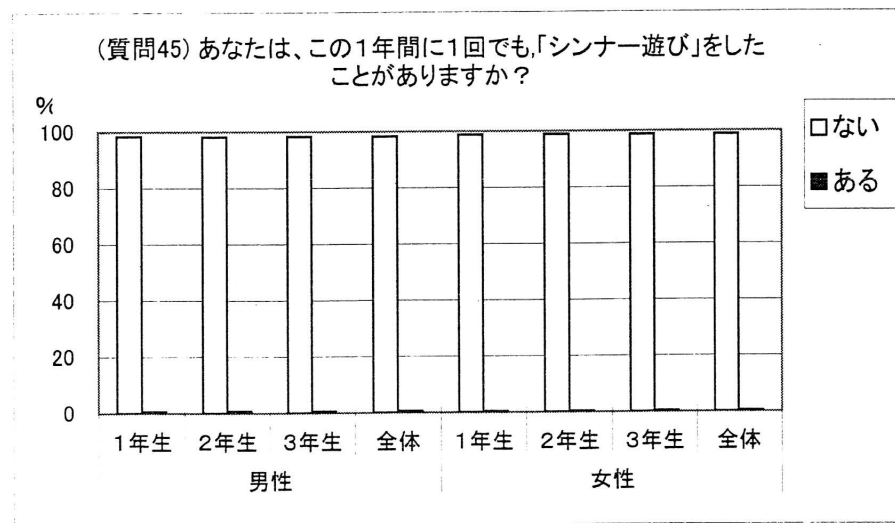
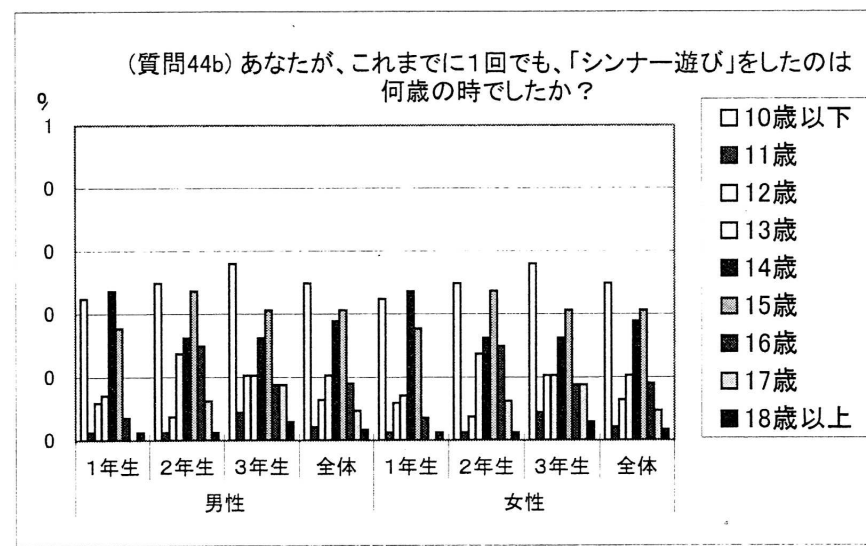
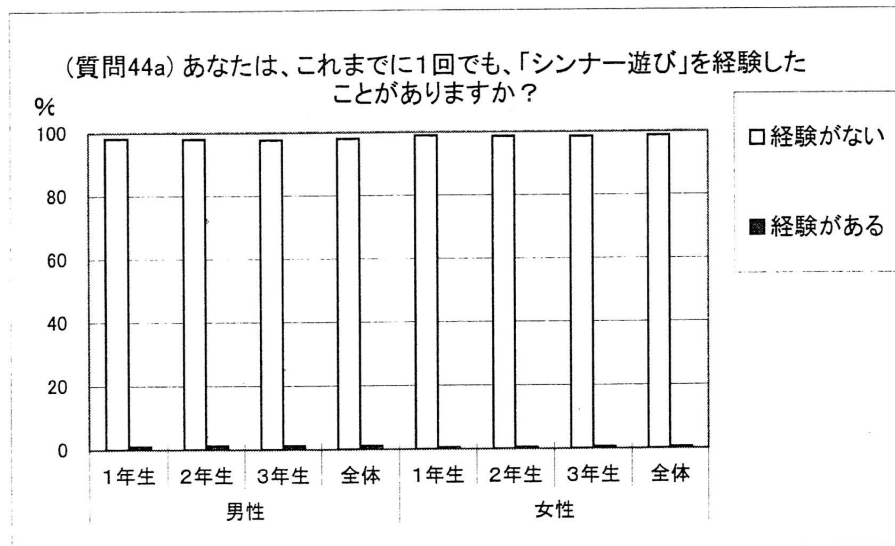


(質問42) あなたは、「シンナー遊び」をしている人について、どう思いますか？

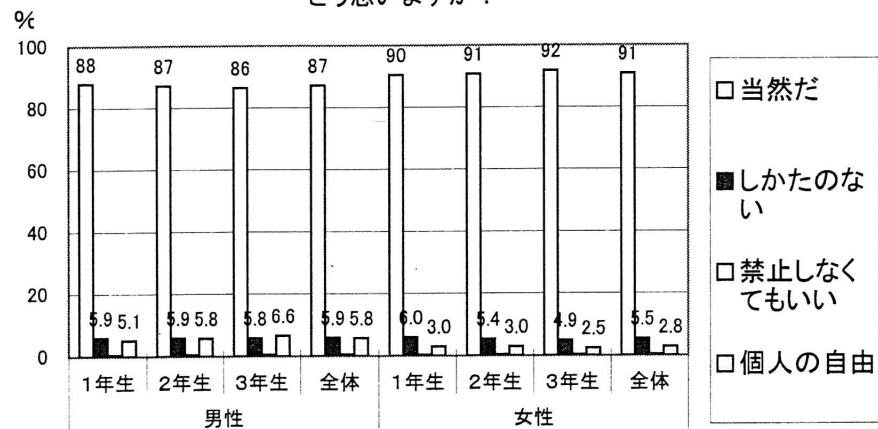


(質問43) あなたは、「シンナー遊び」をしている人と親しくなることについて、どう考えますか？

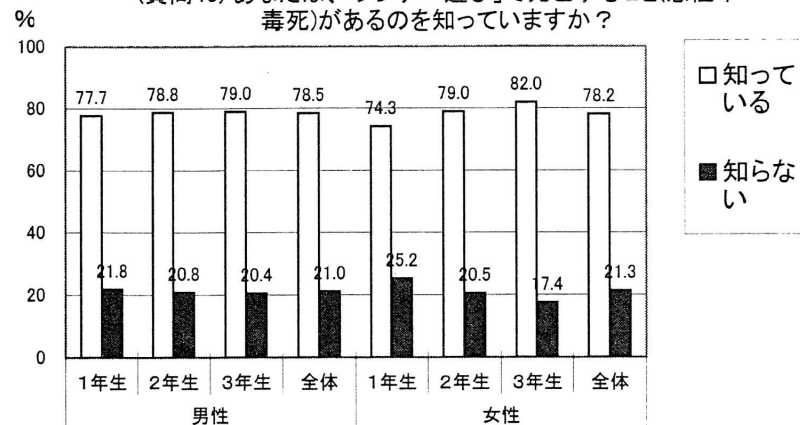




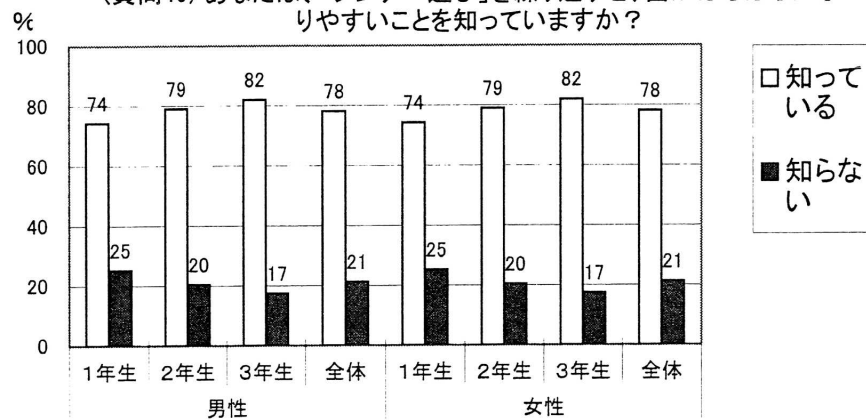
(質問47) あなたは、法律で「シンナー遊び」を禁止しているのをどう思いますか？



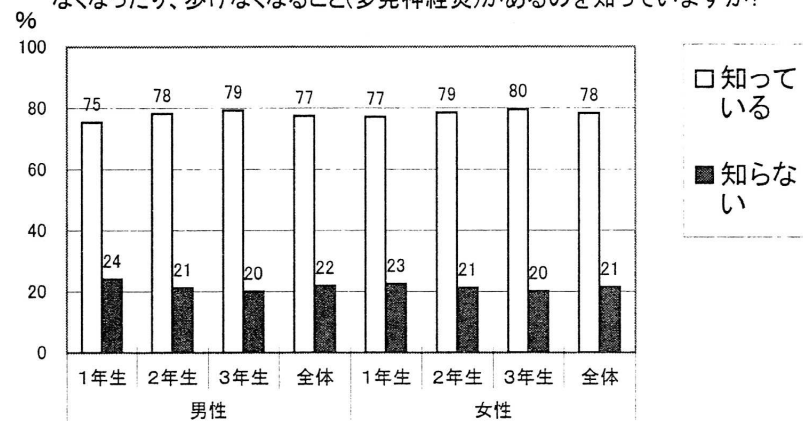
(質問48) あなたは、「シンナー遊び」で死亡すること(急性中毒死)があるのを知っていますか？

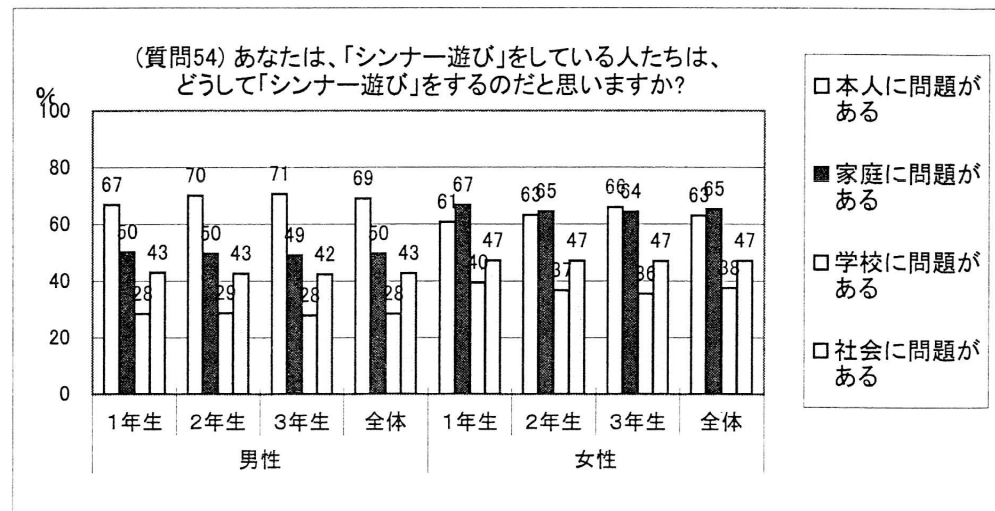
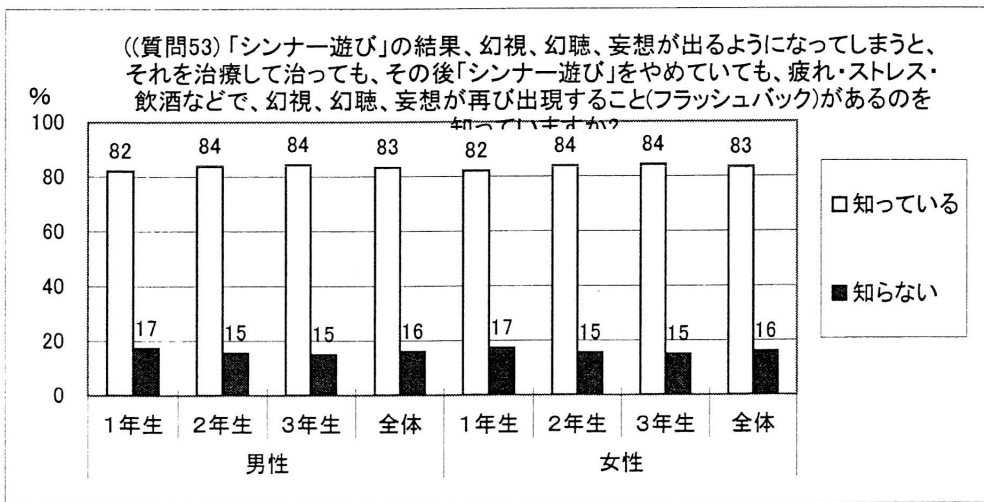
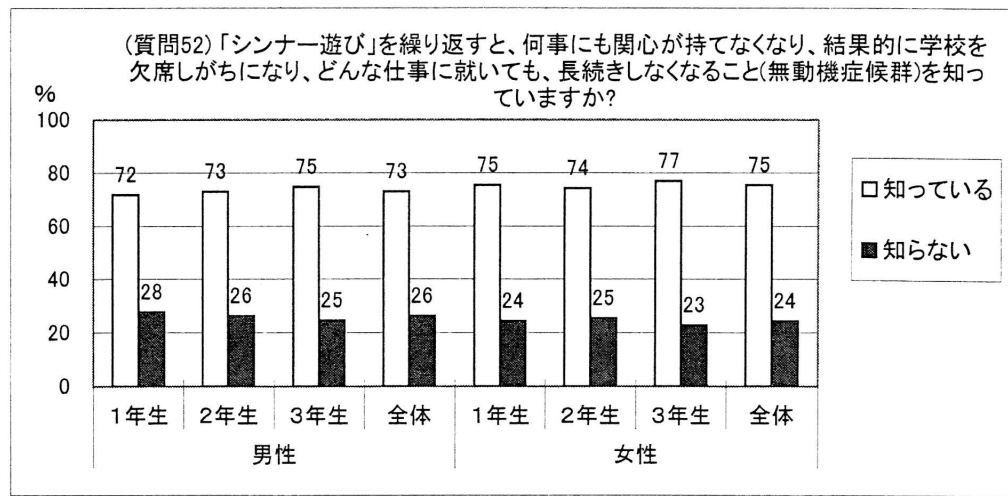
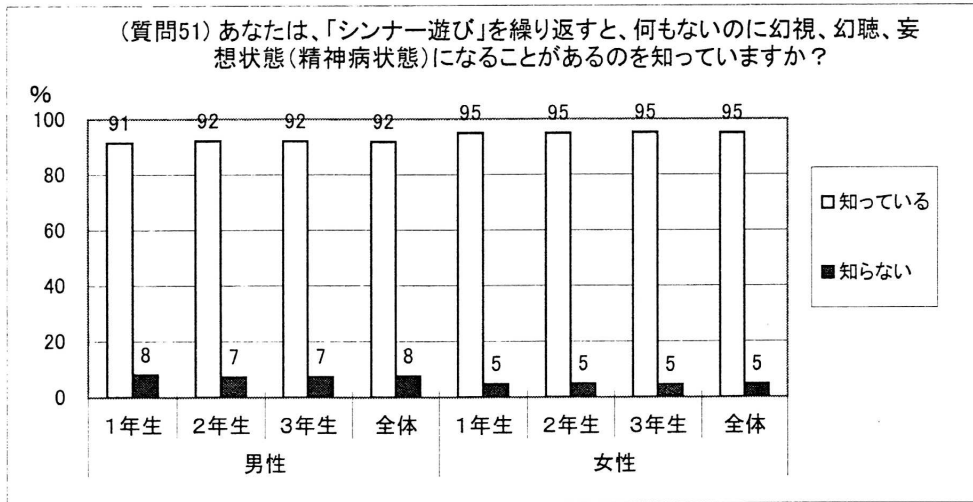


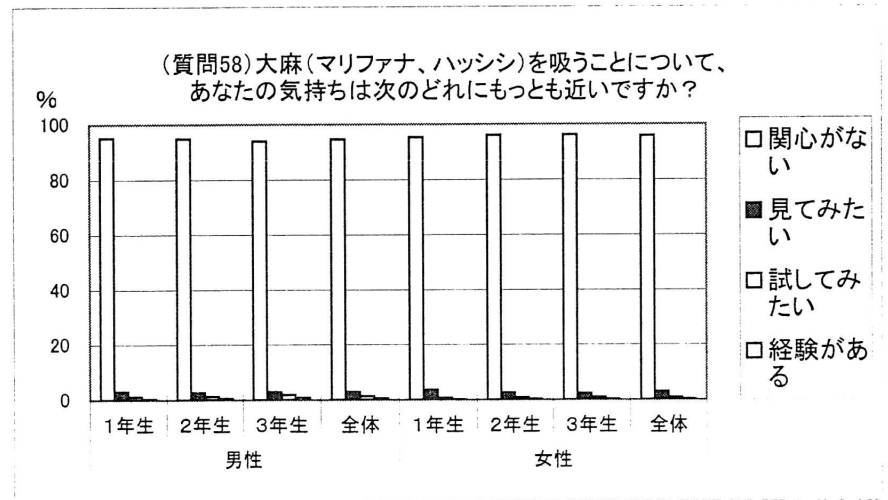
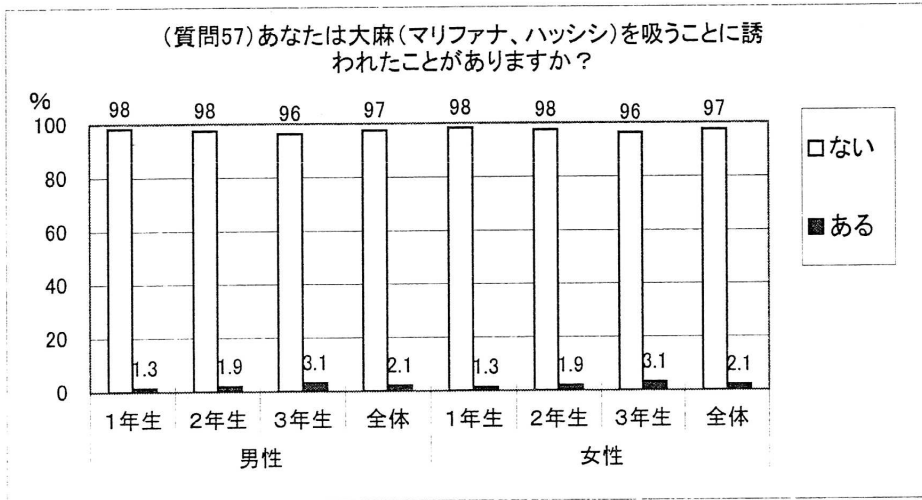
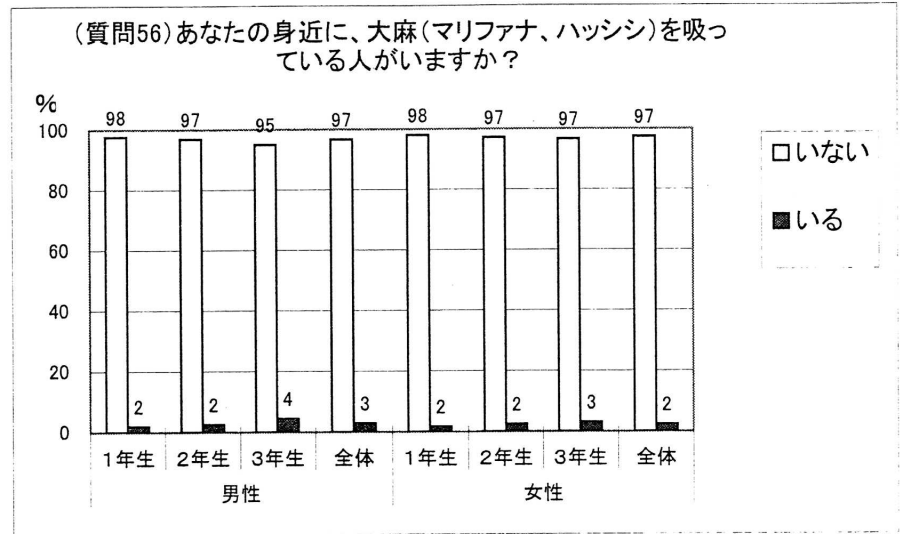
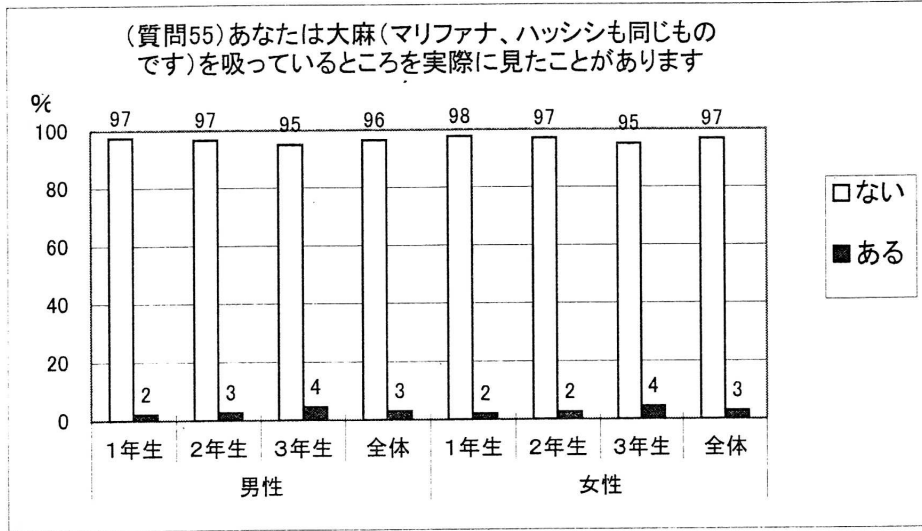
(質問49) あなたは、「シンナー遊び」を繰り返すと、歯がぼろぼろになりやすいことを知っていますか？



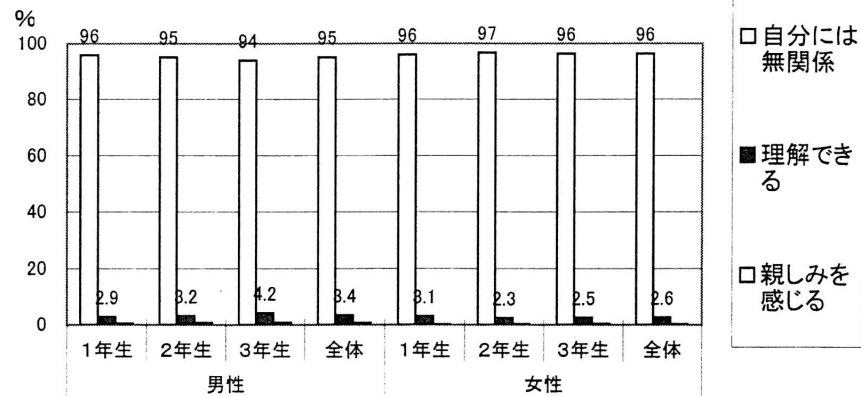
(質問50) 「シンナー遊び」を繰り返すと、手足の筋肉や神経が衰え、物をつかめなくなったり、歩けなくなること(多発神経炎)があるのを知っていますか？



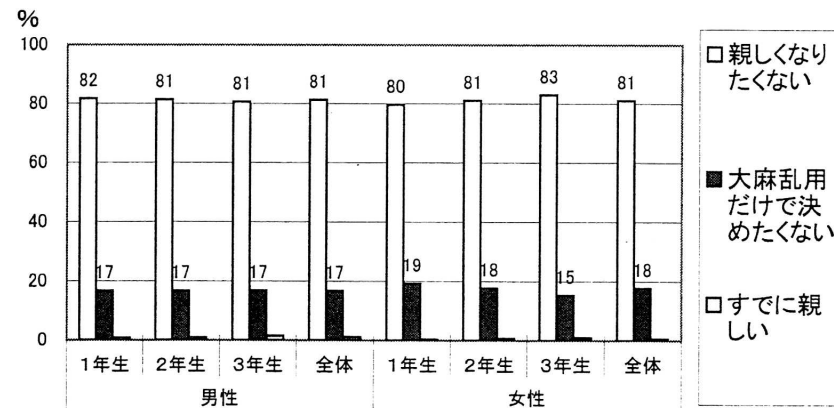




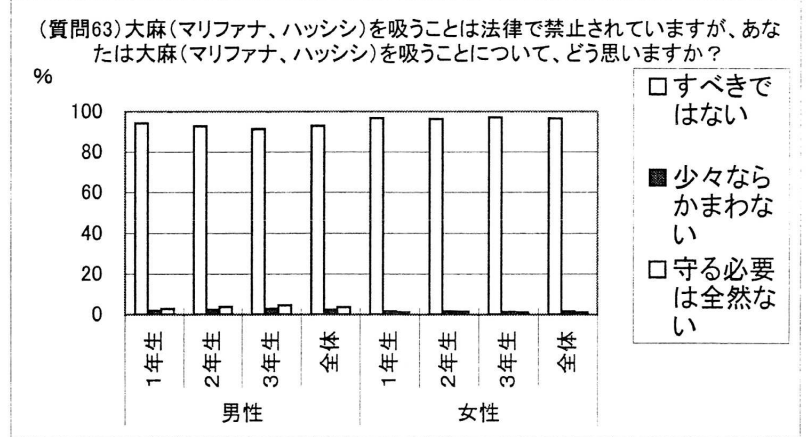
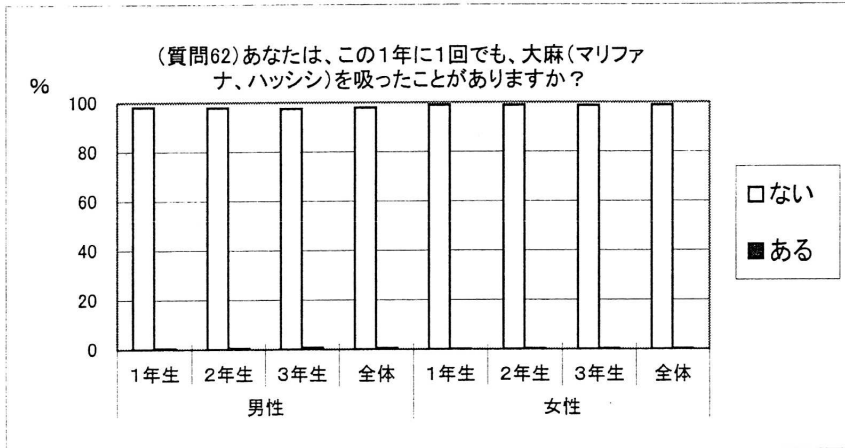
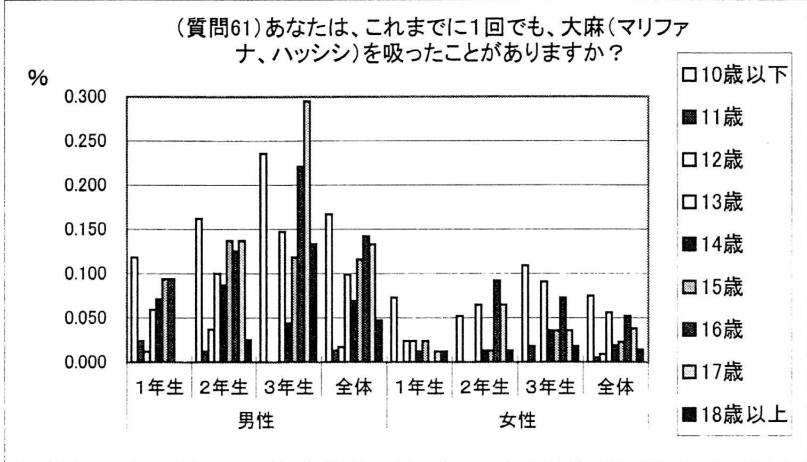
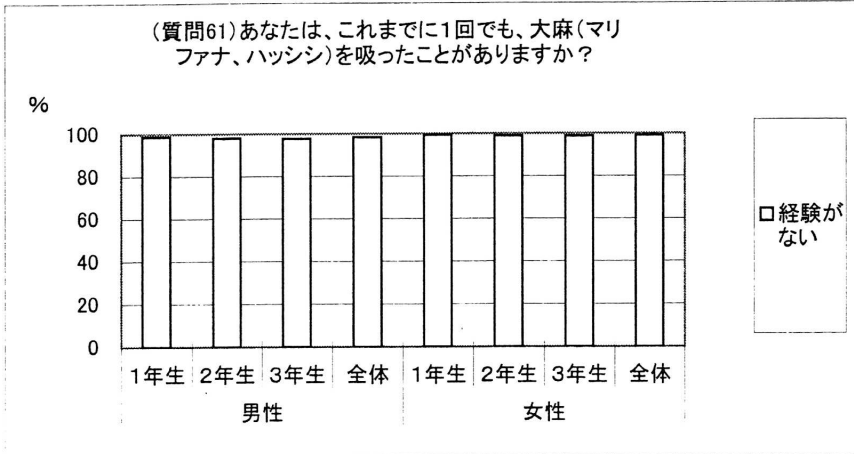
(質問59)大麻(マリファナ、ハッシシ)を吸っている人について、どう思いますか？



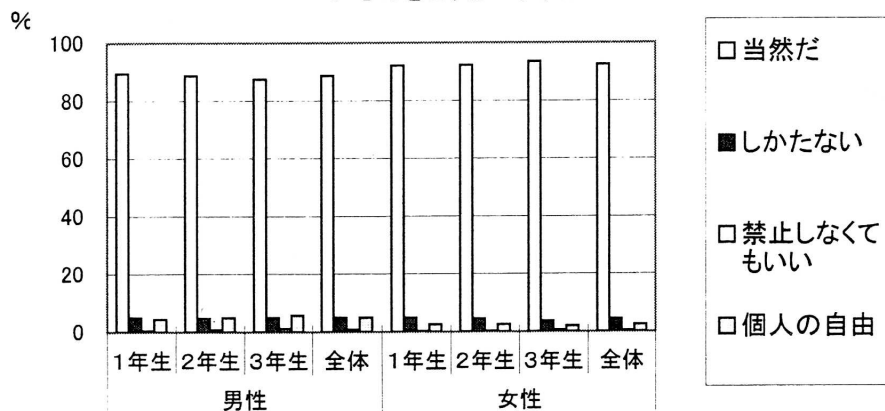
(質問60)大麻(マリファナ、ハッシシ)を吸っている人と親しくなることについて、どう考えますか？



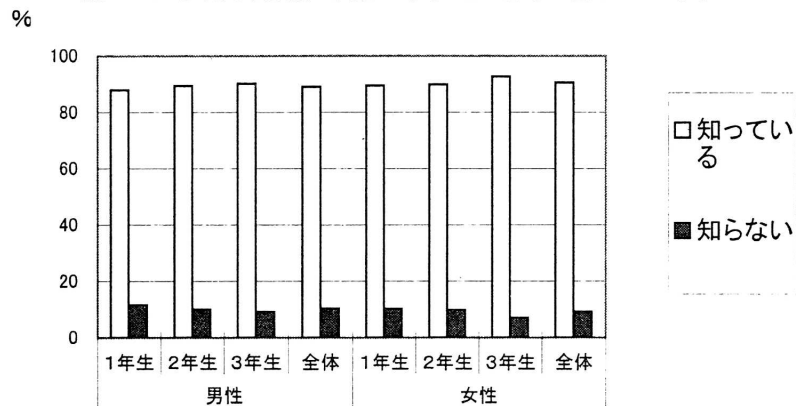




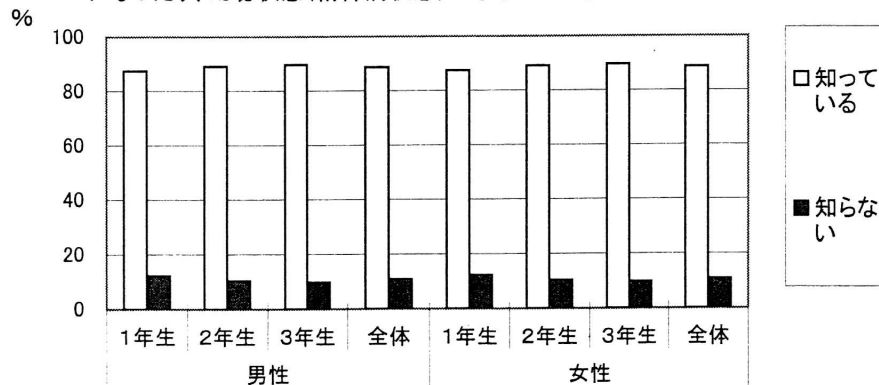
(質問64) あなたは、法律で大麻(マリファナ、ハッシシ)を吸うことを禁止しているのをどう思いますか？



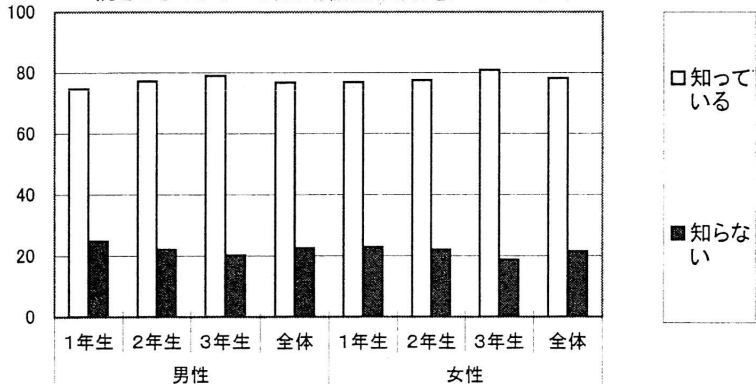
(質問65) あなたは、大麻(マリファナ、ハッシシ)を吸うと、現実と幻想との区別がつかなくなり、意識が異様になることがあるのを知っていますか？



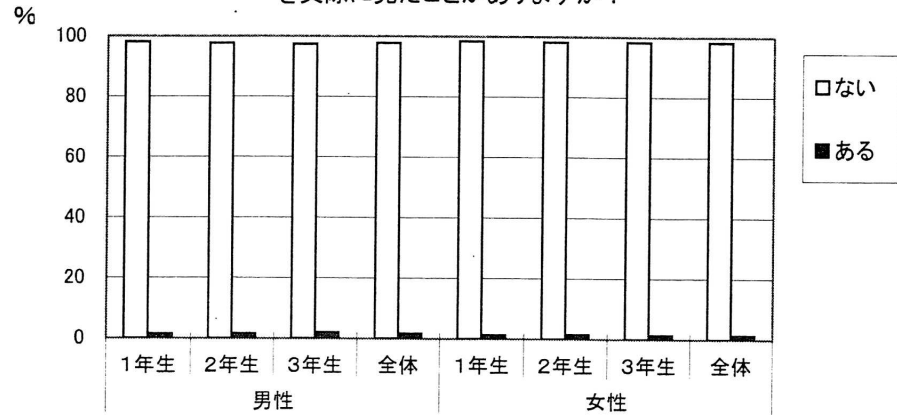
(質問66) あなたは、大麻を吸い続けると、妄想気分や奇妙な動作・行動をとるようになったり、幻聴状態(精神病状態)になることがあるのを知っていますか？



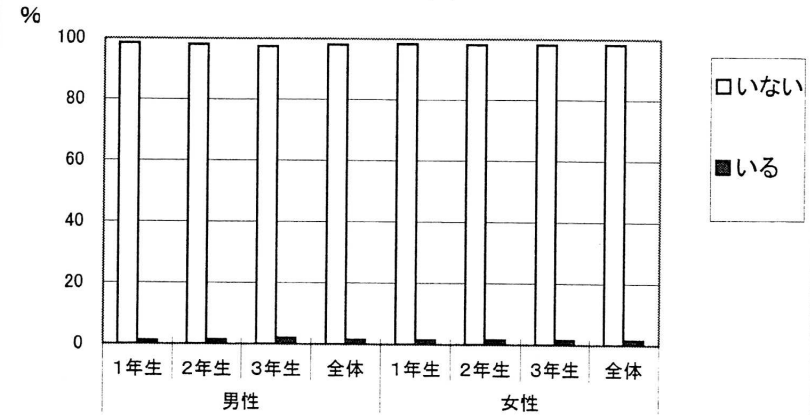
(質問67) あなたは、大麻(マリファナ、ハッシシ)を吸い続けると、何事にも関心が持たなくなり、結果的に学校を欠席しがちになり、どんな仕事に就いても、長続きしなくなること(無動機症候群)を知っていますか？



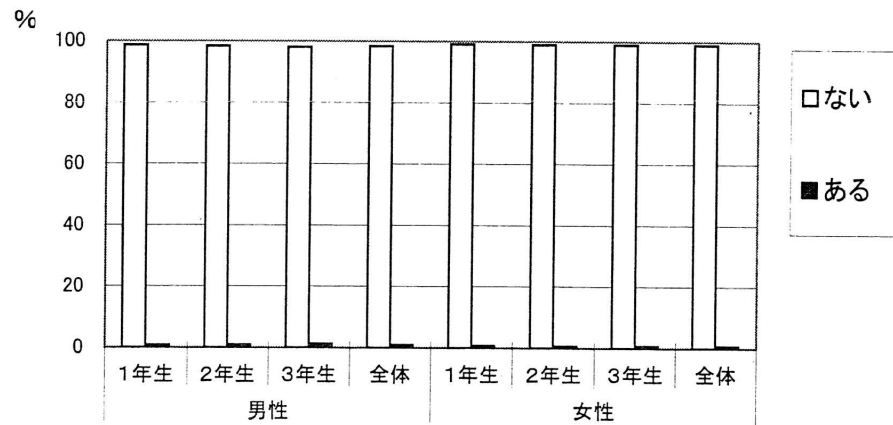
(質問68) あなたは覚せい剤(スピード、エスもおなじものです)を使用しているところを実際に見たことがありますか？



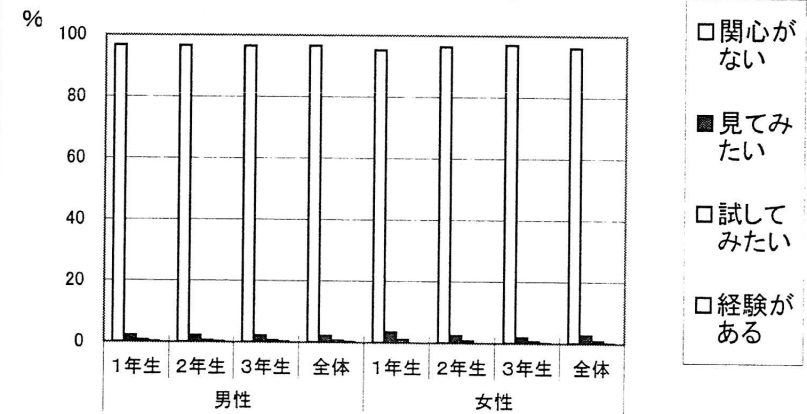
(質問69) あなたの身近に、覚せい剤(スピード、エス)を使用している人がいますか？



(質問70) あなたは覚せい剤(スピード、エス)使用に誘われたことがありますか？

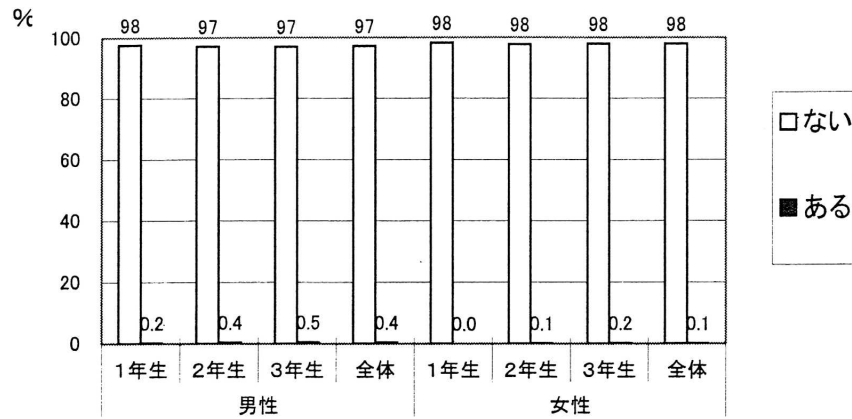


(質問71) 覚せい剤(スピード、エス)使用について、あなたの気持ちは次のどれにもっとも近いですか？

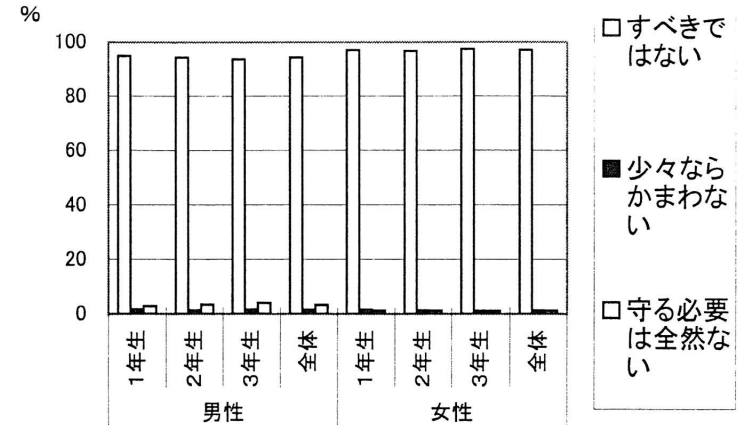




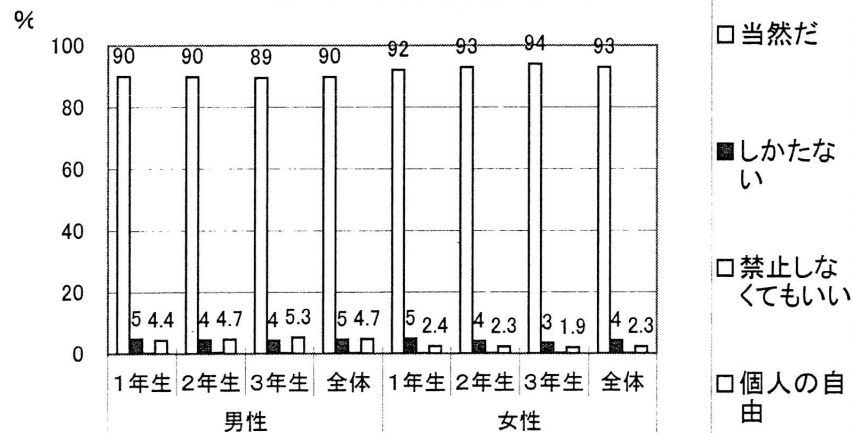
(質問75) あなたは、この1年に1回でも、覚せい剤(スピード、エス)を使用したことがありますか？



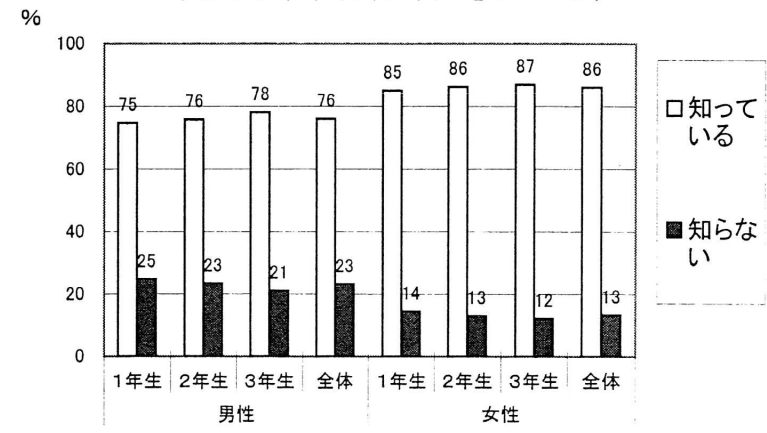
(質問76) 覚せい剤(スピード、エス)を使用することは法律で禁止されていますが、あなたは覚せい剤使用について、どう思いますか？



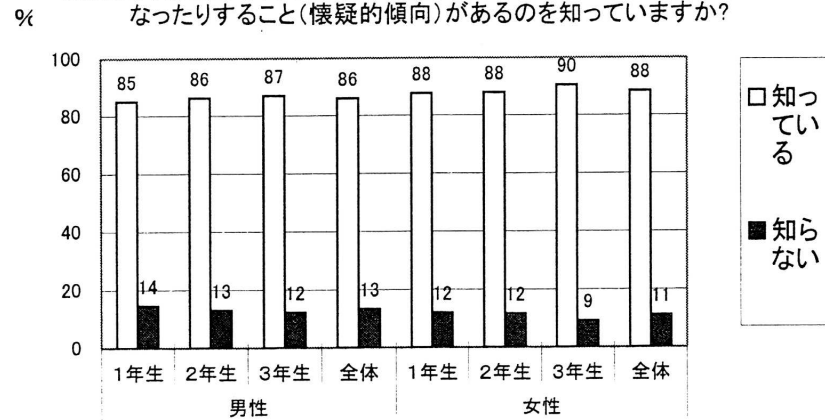
(質問77) あなたは、法律で覚せい剤(スピード、エス)を使用することを禁止しているのをごどう思いますか？



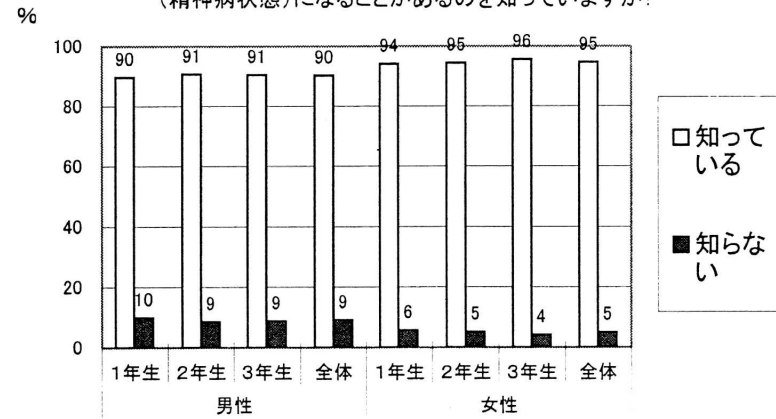
(質問78) あなたは、覚せい剤を使用すると、脳の出血や心臓の異常で死亡すること(急性中毒死)があるのを知っていますか？



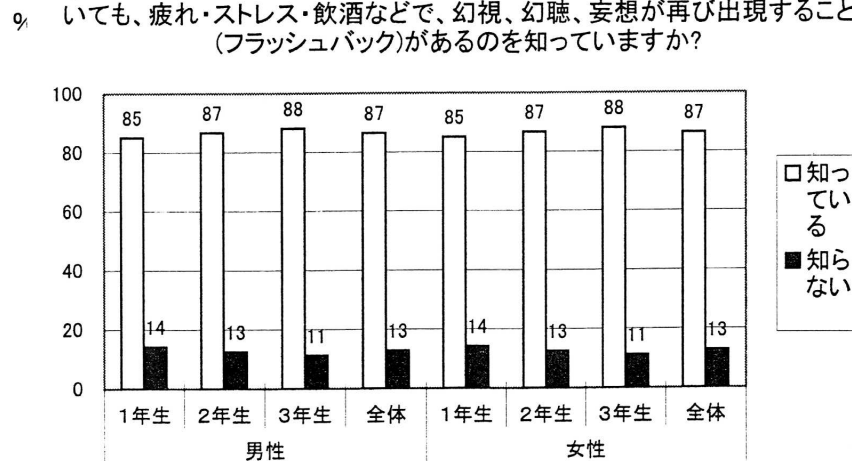
(質問79) 覚せい剤を使用すると、イライラして怒りやすくなったり(易刺激・易怒性)、無意味な同じ動作・行動をくりかえしたり(常同行為)、疑り深くなったりすること(懐疑的傾向)があるのを知っていますか?

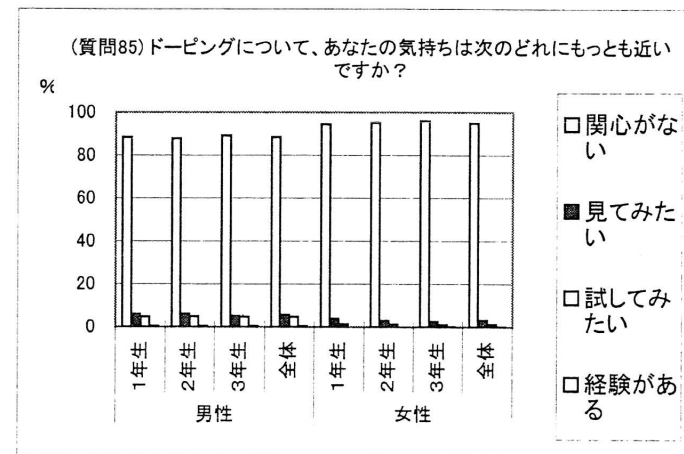
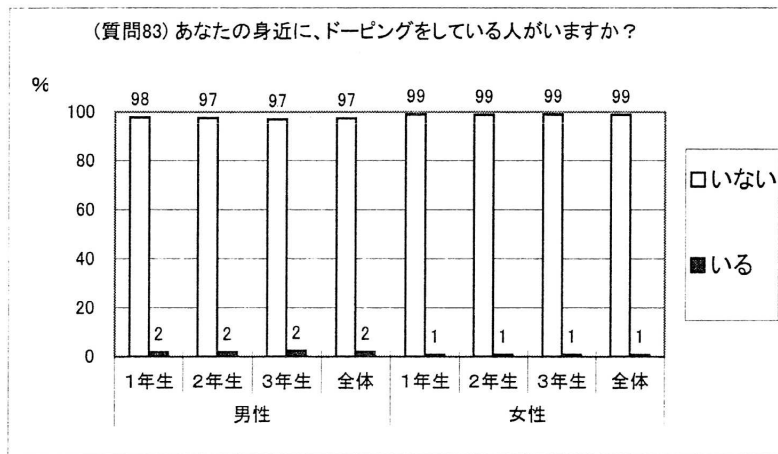
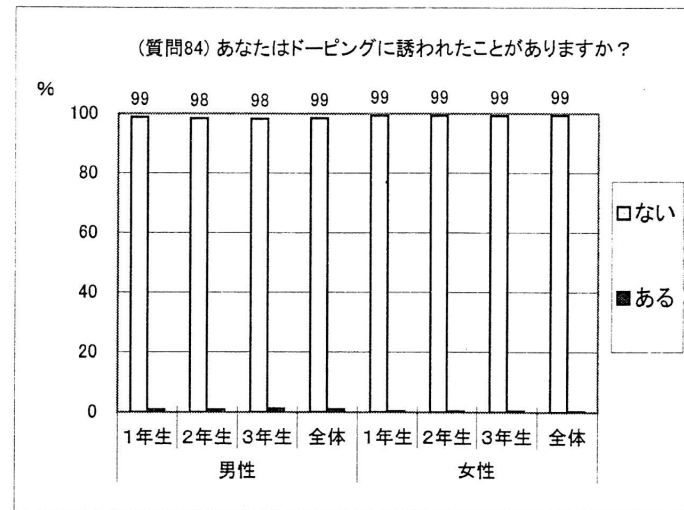
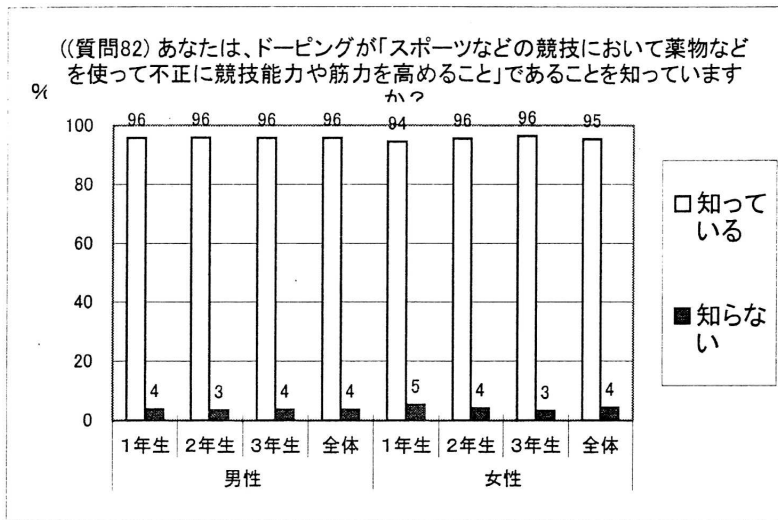


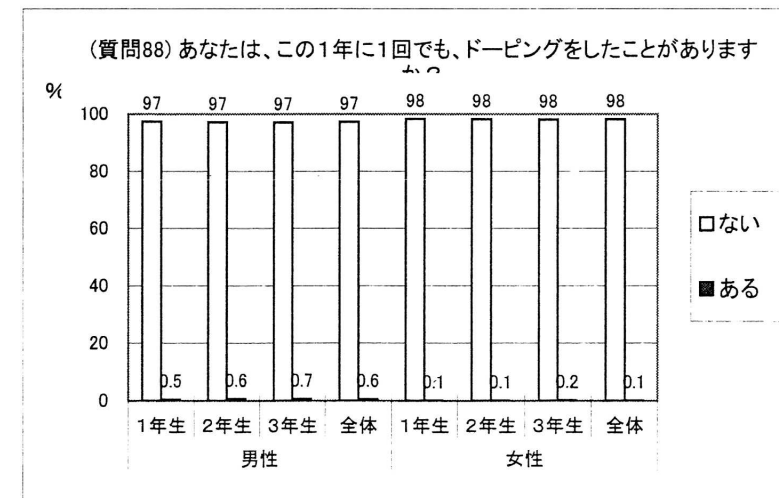
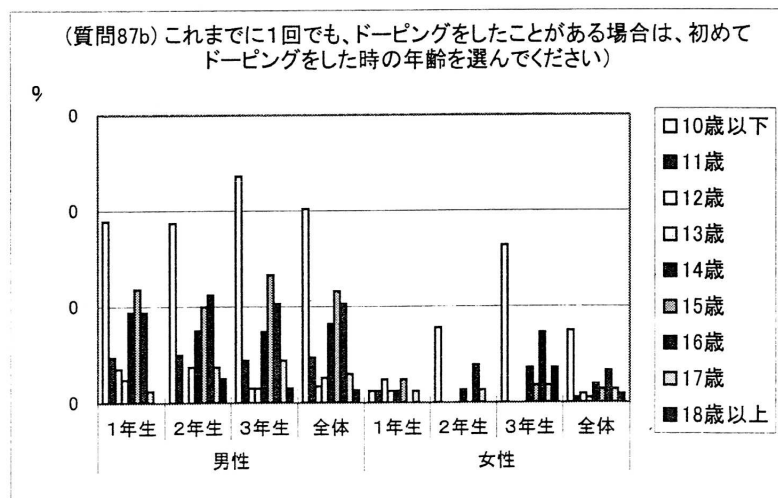
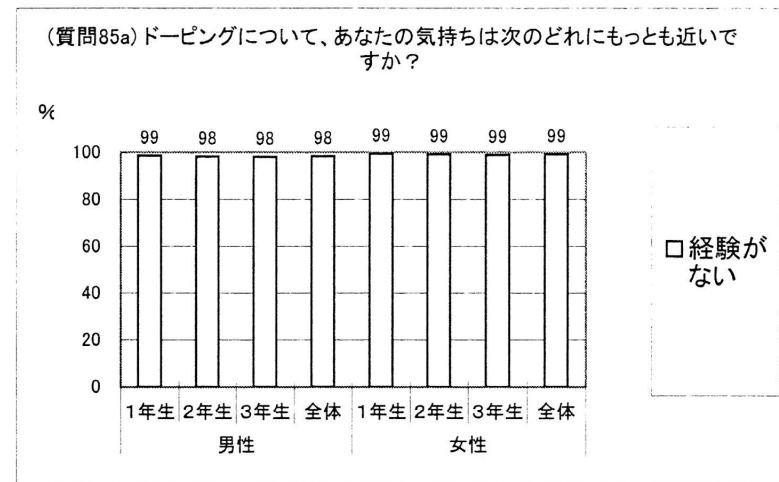
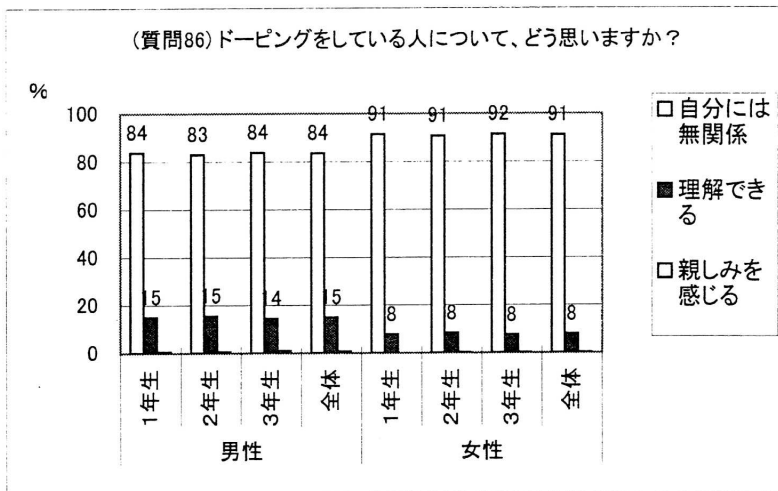
(質問80) あなたは、覚せい剤の使用を繰り返すと、幻視や幻聴、妄想状態(精神病状態)になることがあるのを知っていますか?



(質問81) あなたは、覚せい剤使用の結果、幻視、幻聴、妄想が出るようになってしまうと、それを治療して治っても、その後「覚せい剤使用」をやめていても、疲れ・ストレス・飲酒などで、幻視、幻聴、妄想が再び出現すること(フラッシュバック)があるのを知っていますか?

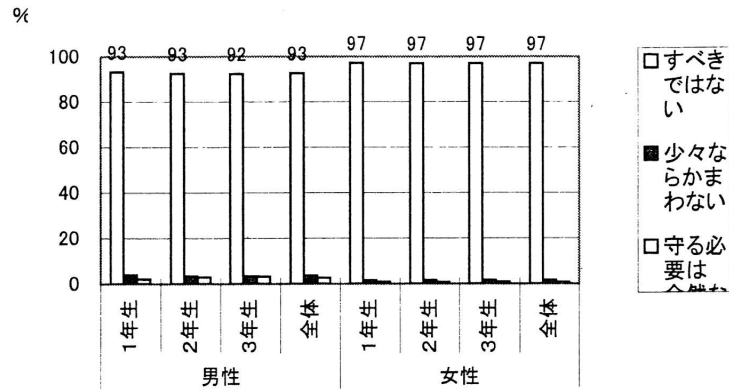




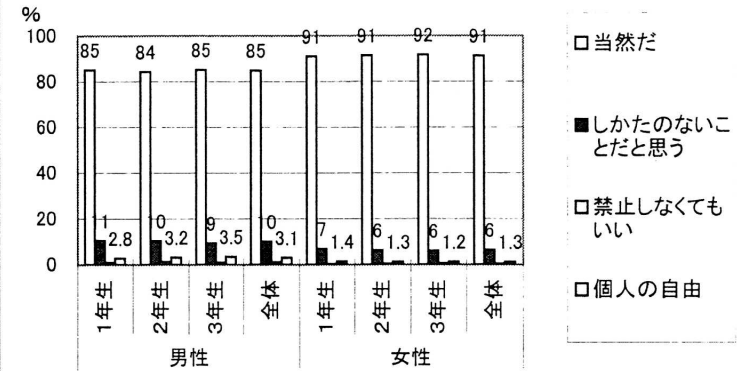




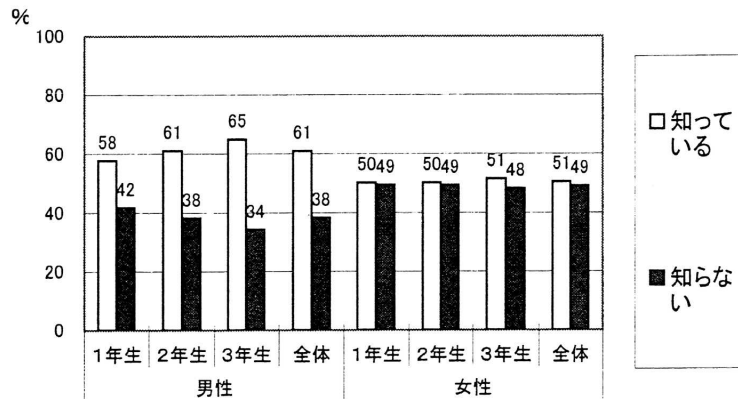
(質問89)ドーピングは多くのスポーツ競技において禁止されていますが、あなたはドーピングについて、どう思いますか？

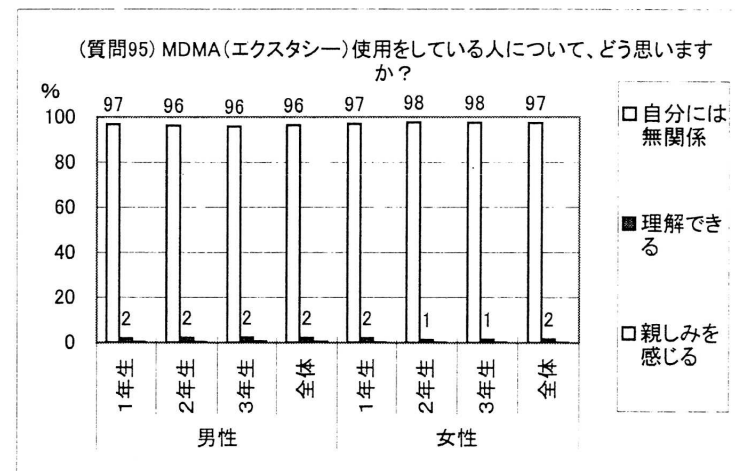
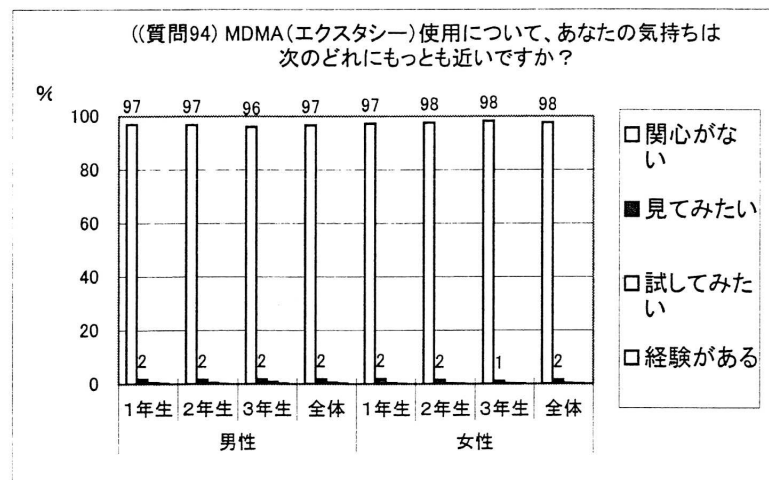
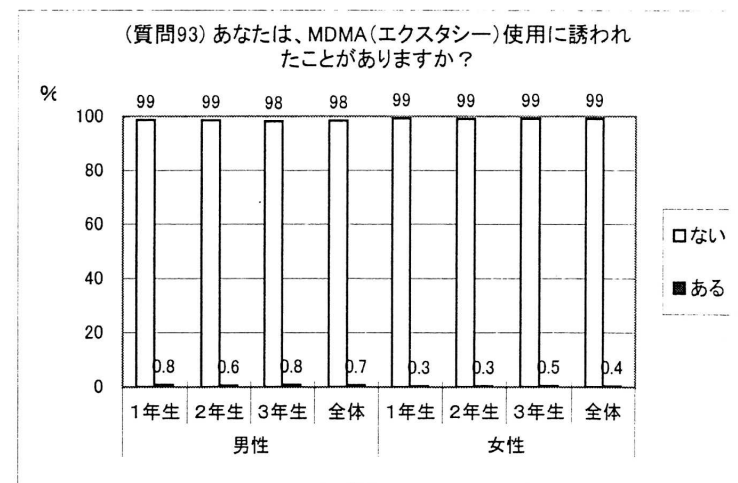
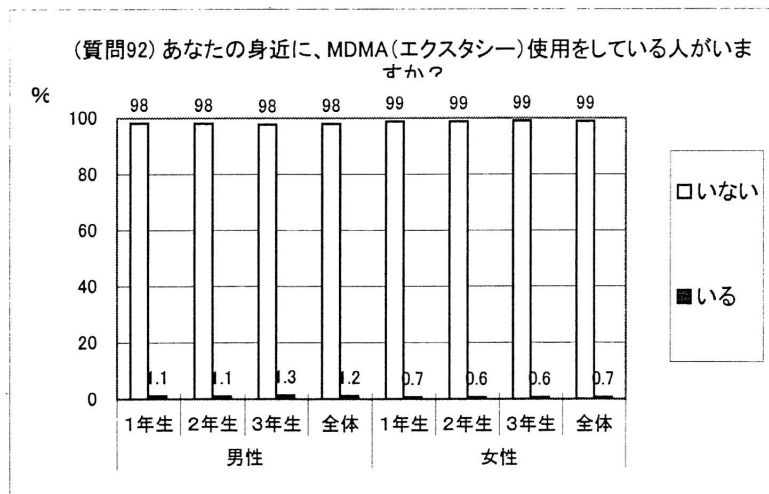


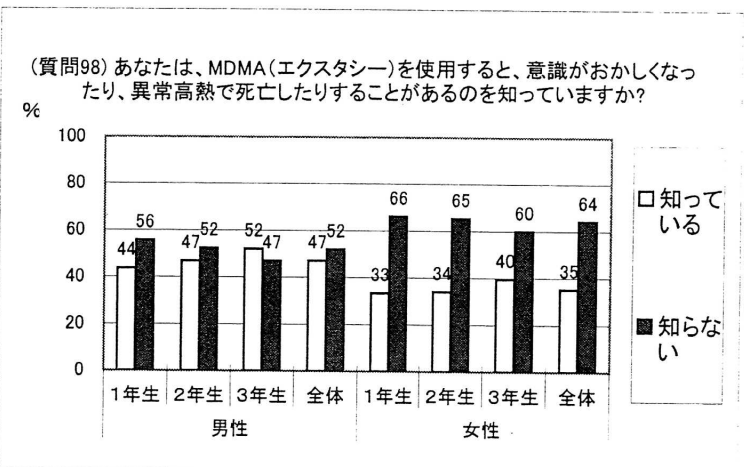
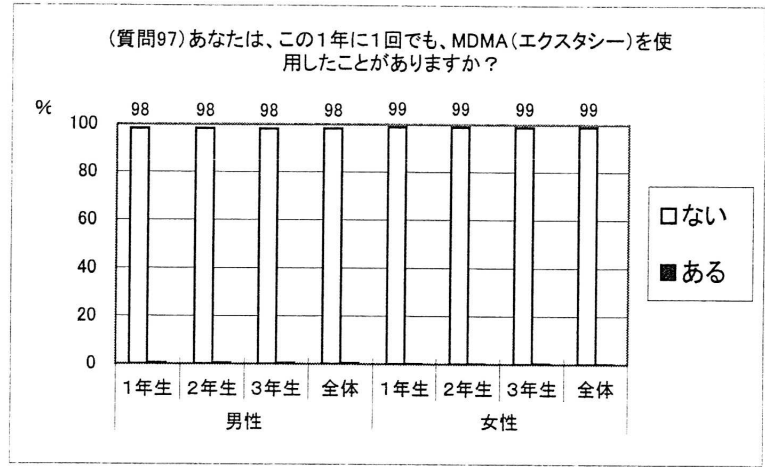
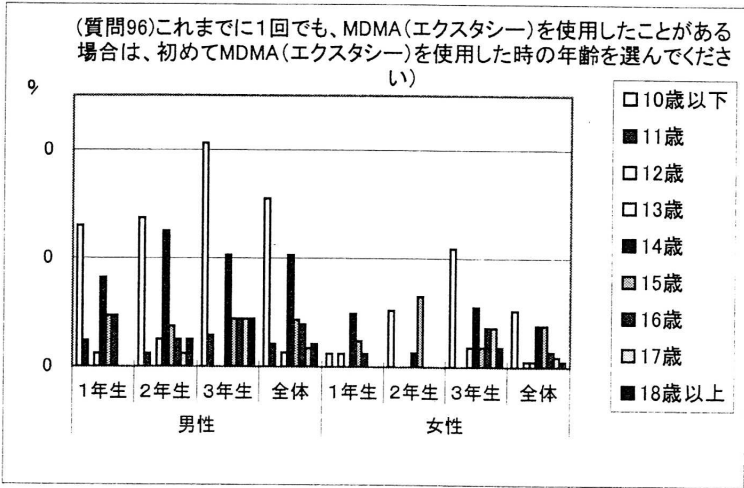
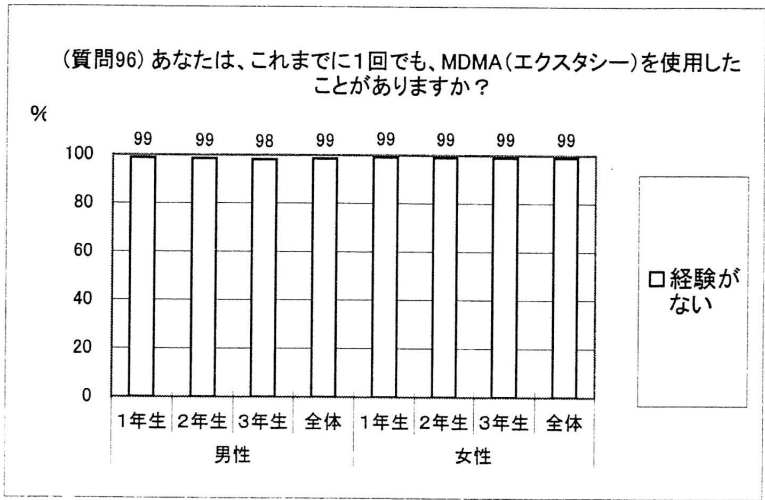
(質問90)あなたは、多くのスポーツ競技でドーピングを禁止しているのをごどう思いますか？



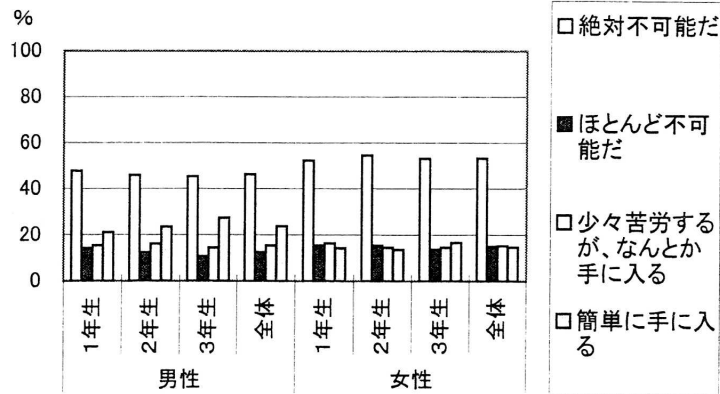
(質問91)あなたは、ドーピングが競技生命だけでなく、生命の危機につながる危険な行為であることを知っていますか？



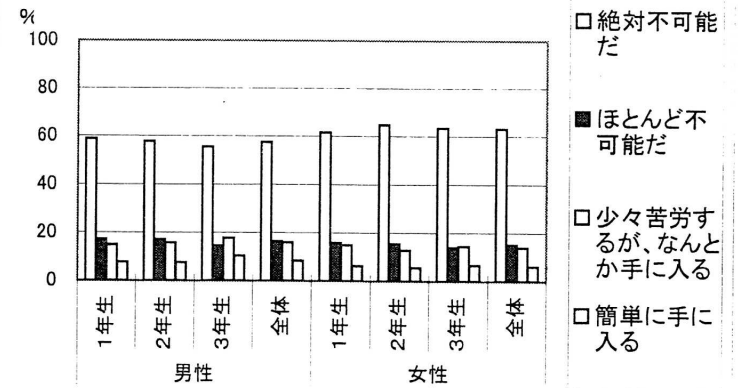




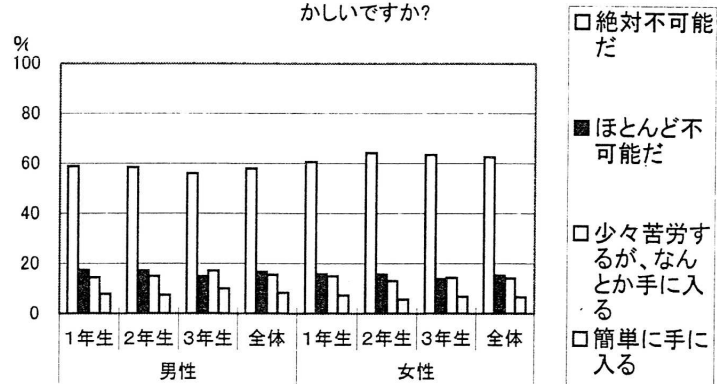
(質問99) あなたが「シンナー遊び」のために有機溶剤を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？



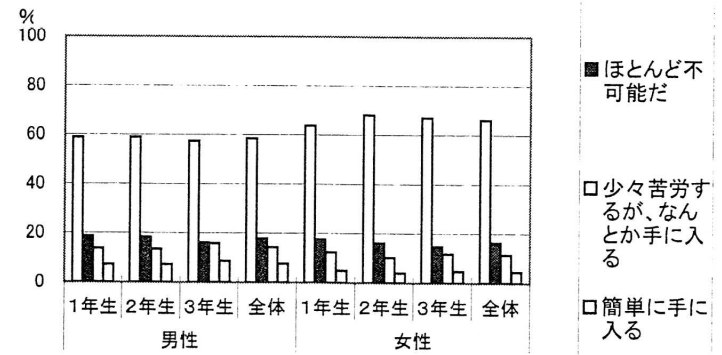
(質問100) あなたが大麻(マリファナ、ハッシシ)を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？



(質問101) あなたが覚せい剤を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？



(質問102) あなたがドーピングに使う薬物を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？



(質問103) あなたがMDMA(エクスタシー)を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかし

